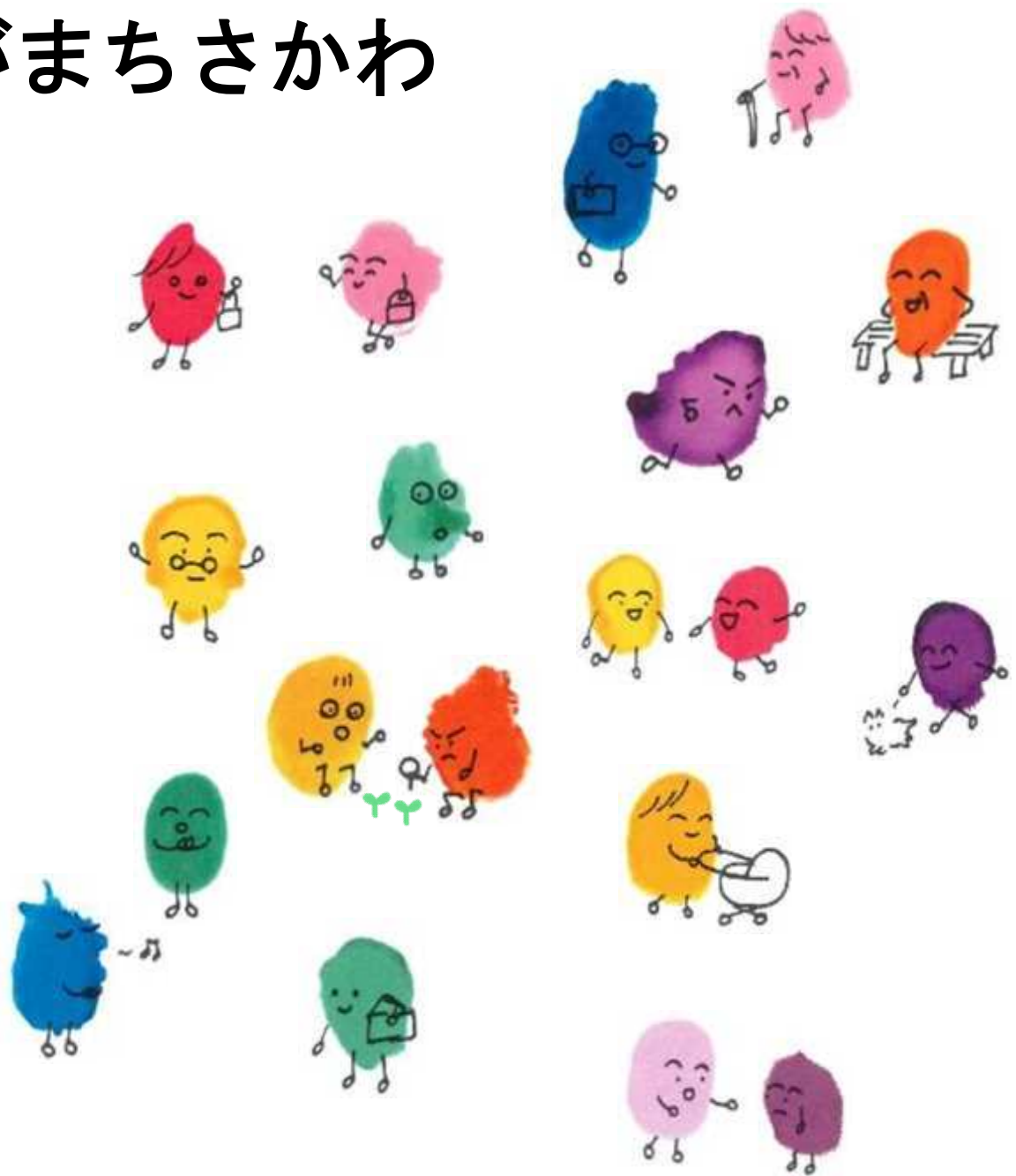


ささえあい かんじるぬくもり わがまちさかわ



第4次佐川町地域福祉アクションプラン

【2024(令和 6)年度～2029(令和 11)年度】

ごあいさつ

私たちが住んでいる佐川町は、多くの歴史的偉人を輩出し、古くから文教のまちと呼ばれてきましたが、現在においては、同時に全国に誇れる地域福祉のまちと言ってもいいのではないかと感じております。

第1次佐川町地域福祉計画・地域福祉活動計画（平成20年度～平成24年度）は、平成17年度からの3年間の準備期間を経て策定されています。この間、佐川町社会福祉協議会のリードのもとで、住民参加による座談会や、作業部会を設置して丁寧に議論を重ね、多くの住民が関わった本物の計画づくりが行われたことが、現在の佐川町における地域福祉の礎になっています。

今回、第4次計画となる地域福祉アクションプランの策定に当たっても、町内5地区ごとに2回のみらいトーク（座談会）が開かれ、この中で交わされた意見やアイデアが計画に反映されています。

また、計画の推進に当たっては、町内5地区の住民組織が核となり、「みんなで福祉のまちづくり委員会」による進捗管理が毎年しっかり行われております。

多くの地域住民の方々が関わり、第1次計画から第3次計画まで、組織づくり、拠点づくり、支え合いの仕組みづくりと、佐川町の地域福祉は順調に成果を上げてきました。計画を作って終わりではなく、きちんとチェックして次の計画に生かしていく、この一連の工程（PDCAサイクル）が地域住民が主体となって行われていることが佐川町の地域福祉の強みであり、具体的な成果に繋がっています。

一方で、佐川町の地域福祉を支えてくださっている方々の多くは、第1次計画からこれまで20年近くにわたって長く地域で活躍されています。現在の佐川町における地域福祉の現状を踏まえて、第4次計画における課題を一つ挙げるとすれば、次の10年、20年に持続可能な佐川町の地域福祉を作り上げることだと考えています。

次の世代の方々の一層の参画と主役のバトンタッチ。これが佐川町の第4次計画における大きなチャレンジになります。

高齢化や人口減少が進む中、地域の担い手確保が課題となっておりますが、町としましても、町内各地区に、集落活動センターやあったかふれあいセンターを設置し、集落支援員を配置するなど、住民活動や地域福祉の基盤整備を図っております。次の時代に向けて佐川町の地域福祉を前進させ、誰もが安心して佐川町で生活できるように、関係者が連携してさらに努力してまいりたいと考えております。

最後に、本計画の策定にあたり、関わっていただきました策定委員や5地区のみんなで福祉のまちづくり委員会地区部会の皆様をはじめ、アンケート調査、座談会などで貴重なご意見をいただきました多くの住民の皆様にご心から感謝を申し上げ、私からの挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。



佐川町長 片岡 雄司

ごあいさつ



私たちは、家族や友人、周りの人たちとの良好な関係の中で、不安なく健康で自分らしい暮らしを希求しているにも関わらず、望まない様々な困難が訪れます。このような生活上の困難を克服すべく我が国は戦後多様な社会保障制度やサービスを拡充させてきました。一方で、社会構造の変化とともに家族や地域での相互扶助は残念ながら減退を辿ってきたと言わざるを得ません。さらには、人のつながりの希薄化により生じる孤立や孤独、8050 問題、虐待、引きこもりなどの課題に苦しむ方々からも私たちは目を背けるわけにはまいりません。

地域福祉アクションプランは、他の福祉施策の土台的な位置づけとなり、様々な助けあいの源泉であり、心の豊かさや幸福感にも直結する「人と人とのつながり」づくりに着目した計画となっております。

佐川町での当計画を振り返ると、行政、社協、住民の皆様で平成20年より佐川町地域福祉計画・佐川町地域福祉活動計画（第3次から地域福祉アクションプランと呼称）を策定し、この計画で第4次計画となりました。

第1次計画では、各地区地域性を活かし、つながりづくりのイベントや自主防災組織づくりなどの取り組みからはじまり、継続・充実を図りながら策定した第2次計画では、住民活動拠点を5地区に整備する5地区ごとの計画も策定され、あったかふれあいセンターや集落活動センターなどの住民活動拠点が整備されてきました。

それにより様々な住民活動が勢いを増し、県内外からの視察も多く住民活動先進地となった第3次計画では、コロナ禍がありつつも助け合いの仕組みづくりの端緒となるおたすけイベントを地域ごとに取り組むことができました。

第4次計画期間では、少子高齢化、人間関係の希薄化などが進行する中ながらも、能登半島地震を教訓とした南海トラフ対策も必須であり、一層地域のつながりや支えあいの重要性が増しております。

この第4次地域福祉アクションプランが多くの方のお力添えにより実践され、文化として後世に残る持続可能な地域づくりへ進化していくことを祈念してやみません。

社会福祉協議会も住民の皆様と共に歩んできました。皆様の「地域のために」と楽しみながら活動される姿に、いつも感動と希望をいただき、感謝の念に堪えません。

今後もみんなの笑顔がらんまんとき誇る地域づくりを、子どもたちには地域の温かさを感じ誇りを持ってもらえる未来づくりを、地域・行政・社会福祉協議会でスクラムを組んで頑張りましょう。

このアクションプランが計画に携わった多くの住民の皆様の願い、思いがひとつでも多く具現化されるように祈念し、巻頭のごあいさつとさせていただきます。

社会福祉法人 佐川町社会福祉協議会

会 長 秋 沢 徳 久

目 次

第1章	計画の概要	1
	1.計画策定の背景	1
	2.計画の位置づけ	2
	3.計画の期間	3
	4.計画策定の体制	3
	5.計画策定の経過	4
第2章	佐川町の現状	6
	1.人口構成・世帯数の状況	6
	2.高齢者の状況	9
	3.障害者等の状況	18
	4.子どもの状況	19
	5.その他	21
第3章	地域福祉アクションプラン（全体計画）	26
	1.計画体系図	26
	2.重点目標・活動目標と具体的な取り組み	27
	みんなが笑顔で暮らせるまち	27
	みんなでつくる自然豊かな安心安全のまち	29
	みんなが主役 地域おこしで元気なまち	31
	3.みんなの心得	33
	4.包括的支援体制の整備	33
第4章	各地区計画	35
	1.佐川地区計画	35
	2.斗賀野地区計画	37
	3.尾川地区計画	39
	4.黒岩地区計画	41
	5.加茂地区計画	43
第5章	佐川町再犯防止推進計画	45
	1.計画策定の趣旨	45
	2.現状と課題	45
	3.基本方針	45

第6章	計画推進体制	47
1.	推進体制	47
2.	みんなで福祉のまちづくり委員会	47
3.	みんなで福祉のまちづくり地区部会	47
4.	専門部会	47
資料編		49
1.	令和5年度地域お世話役さん対象アンケート調査結果	49
2.	改正社会福祉法（平成30年4月施行）	69
3.	佐川町地域福祉アクションプラン策定委員会設置要綱	71
4.	策定委員会・作業部会・アドバイザー・事務局名簿	72
5.	用語集	74

第1章 計画の概要

1. 計画策定の趣旨

近年、急速に少子高齢化が進み、高齢者のみの世帯や単身世帯の増加などを背景として、地域における住民同士のつながり意識の希薄化や地域活動の担い手不足など、住民同士で支え合う力が弱まってきたことにより、社会的孤立や孤独死が大きな社会問題となっています。

町民の生活や地域のあり方が多様化、複雑化する中で、ひきこもりや「8050問題」をはじめ、介護と子育てを同時に行う「ダブルケア」など、従来の縦割りの単一制度やサービスだけでは解決することが困難な福祉的課題も生じています。

そのため、世帯の複合的なニーズやライフステージの変化に柔軟に対応できるように、丸ごとの支援が可能となる重層的な体制整備に取り組んでいく必要があります。

このように複雑な問題が山積する中、追い打ちをかけるように新型コロナウイルス感染症が、世界的に感染拡大し、私たちの生活を根底から覆してしまいました。外出自粛やテレワーク、時差出勤等の新型コロナウイルス感染症対策の影響により、様々な課題を解決する上で重要な「つながり」を様々な場面において持ちづらくなっており、問題解決への道のりを複雑化させています。

こうした暮らしの変化や社会構造の変化を踏まえ、これまで「福祉」とは、支援を必要とする課題を抱えた人を救済するためのもの、といったイメージがありましたが、今日では、社会的・経済的に困難な立場にある人への支援はもとより、支援を必要とする人もそうでない人も、誰もが役割を持ち、同じ社会の一員としてお互いに認め合い、支え合いながら生活における安心感と生きがいを得ることができる社会を築くことが求められています。

本町では、国や県の動向や社会福祉法の理念を踏まえ、平成30年3月に「第3次佐川町地域福祉アクションプラン」を策定し、基本構想である「**ささえあい かんじるぬくもり わがまちさかわ**」を達成するために、行政と社会福祉協議会が連携・協働のもと、各種福祉施策を推進してきました。

今後も個別の福祉施策だけでは支援が困難な地域生活課題へ対応するため、町全体での包括的な支援体制づくりを始めとした施策の推進を図り、より身近な地域から、校区、町全体へと重層的に多様な主体が協力し、高め合うことができる「地域共生社会」の実現を目指します。

このように、お互いを尊重し、助け合うことのできる人の循環が地域活性化につながることで、活気のあるまちづくりの持続性を住民自身が生み出す「持続可能な地域づくり」をテーマに「第4次佐川町地域福祉アクションプラン」（以下「本計画」）を佐川町社会福祉協議会と協働で策定しました。

【当町における策定の経過】

準備期間	平成17年～平成19年：地域で座談会実施5地区×2回、作業部会の開催
第1次計画	平成20年～平成24年：住民組織づくり
第2次計画	平成25年～平成29年：住民活動拠点づくり
第3次計画	平成30年～令和5年：支え合いの仕組みづくり

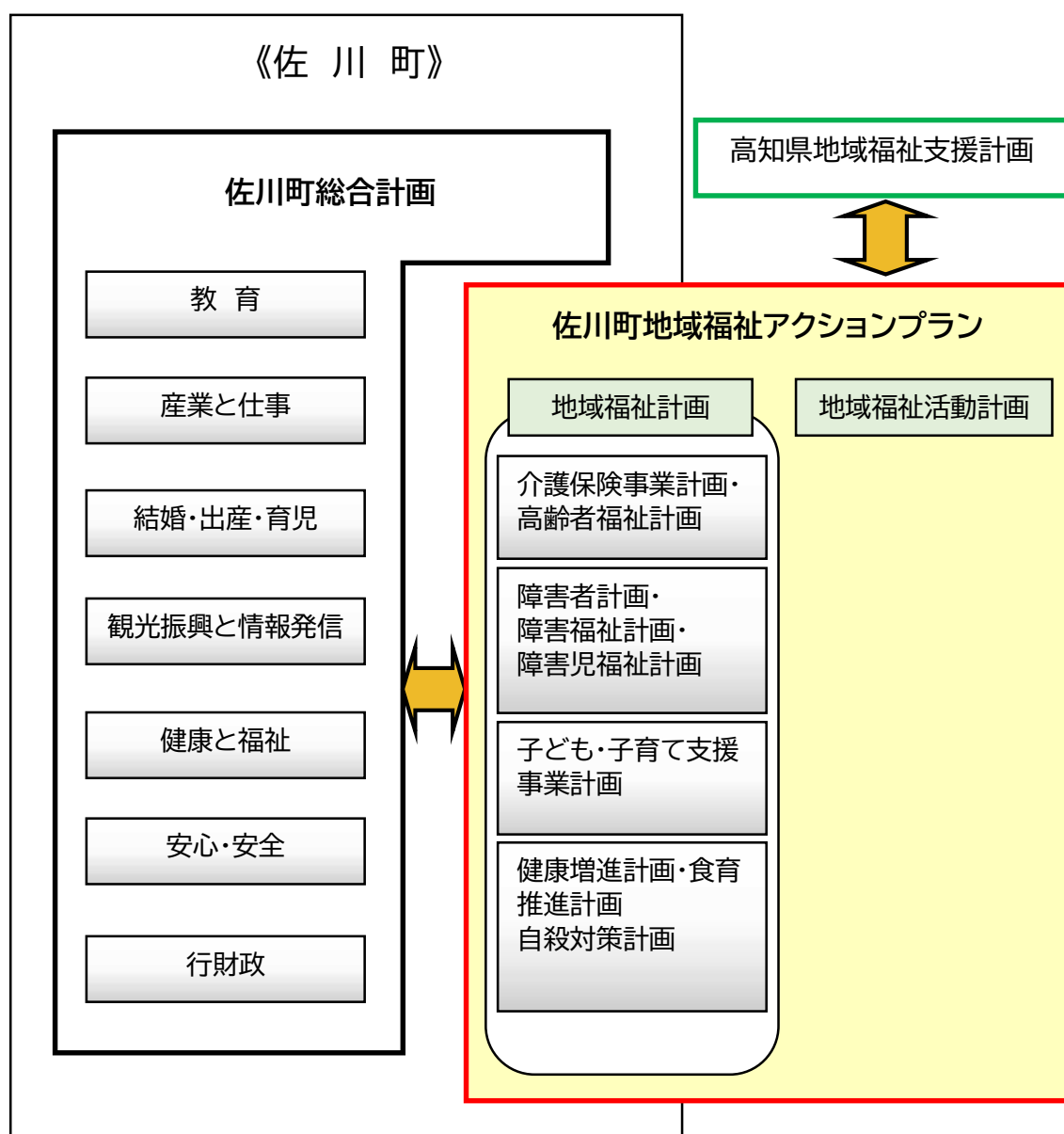
2. 計画の位置づけ

本計画は、主として「住民主体の活動」に焦点をあて、行政等関係機関とのパートナーシップのもとに住民が地域で行う取り組みの方向性や基本的な考え方を示しています。

本町の上位計画である「佐川町総合計画」をはじめ、分野別福祉計画との連携・調整など、関連する他の部門計画との整合にも配慮するものです。

計画推進に当たっては、各計画との連携や調整を図るとともに、新たな課題や環境の変化に柔軟に対応できるように努めます。

【他の計画との関連図】



3. 計画の期間

本計画の期間は、令和6年度から令和11年度までの6年間とします。

地域のニーズや社会情勢の変化に対応し、着実に取り組みをすすめていくため、年度毎に計画の進捗状況確認を行います。また、計画の中間評価を行い、必要に応じて計画の見直しをはかります。

【計画の期間】

2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029
R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11
第5次総合計画							第6次総合計画			
第3次地域福祉アクションプラン							第4次地域福祉アクションプラン			
第7期介護保険事業計画・ 高齢者福祉計		第8期介護保険事業計 画・高齢者福祉計画			第9期介護保険事業計 画・高齢者福祉計画			第10期介護保険事業 計画・高齢者福祉計画		
第3期障害者 計画		第4期障害者計画					第5期障害者計画			
第1期	第2期子ども・子育て支援事業計画					第3期子ども・子育て支援事業計画				

4. 計画策定の体制

第4次計画策定に当たっては、第1次計画から推進体制の核となっている「みんなで福祉のまちづくり委員会」のメンバーを中心として、策定委員会を設置し、アドバイザーを迎え、佐川町健康福祉課と佐川町社会福祉協議会とで事務局体制を組みました。

策定委員会……各地区の自治会長会会長や、地域活動を行う団体の代表者、ボランティア団体代表者が、計画策定に当たっての軌道修正や、承認を行います。また策定後の計画推進のために重要なメンバーとして構成しています。

アドバイザー…高知県立大学社会福祉学部の中崎きよむ教授をはじめ、高知県中央西福祉保健所地域支援室、高知県社会福祉協議会地域福祉課などにアドバイザーとしてお越しいただきました。

事務局体制……地域福祉計画及び地域福祉活動計画の同時策定のため、佐川町健康福祉課及び佐川町社会福祉協議会において合同事務局を設置しました。

5. 計画策定の経過

地域お世話役さん対象アンケート

“地域のお世話役さん”の位置づけにある方に、第3次計画策定時と同様の内容で、地域の状況等について伺うアンケートを実施。

◆調査対象：地域のお世話役さん

自治会長、自主防災組織代表者、民生児童委員、福祉委員、ふれあいサロン協力員、百歳体操お世話役、各地区の地域づくり団体・協議会関係者、社会福祉協議会役員

◆調査期間：令和5年6月1日～令和5年6月14日

◆調査方法：郵送による配布・回収

◆回収率：67.4%（288名）

振り返り会 令和5年7月6日（木） 出席41名

- ・講演「第4次佐川町地域福祉アクションプランについて」
講師 高知県立大学社会福祉学部教授 田中きよむ氏
- ・第3次計画の評価（各地区ごとにグループワーク）
- ・計画策定スケジュールの確認



みらいトーク（座談会） 第1回目

各地区の人口動態・介護保険ニーズ調査結果・お世話役さん対象アンケート結果を報告。各地区のお宝と課題を整理することで現状を再確認し、それをふまえ、今後取り組んでいきたいことの検討をグループワークにて実施。

9月14日 尾川地区 23名
9月15日 斗賀野地区 34名
9月12日 加茂地区 14名
9月26日 佐川地区 26名
9月29日 黒岩地区 15名



黒岩地区



加茂地区



佐川地区

みらいトーク（座談会） 第2回目

1回目座談会の結果をふまえ、各地区計画の目標や文言を加筆修正し、その後、今後6年間で取り組む具体的な活動についてアイデア出しをグループワークにて実施。

10月18日 黒岩地区 14名
10月24日 加茂地区 10名
10月23日 佐川地区 19名
10月17日 斗賀野地区 21名
11月 8日 尾川地区 16名



斗賀野地区



尾川地区

策定委員会

11月30日 第1回策定委員会
1月18日 第2回策定委員会
2月15日 第3回策定委員会



第2章 佐川町の現状

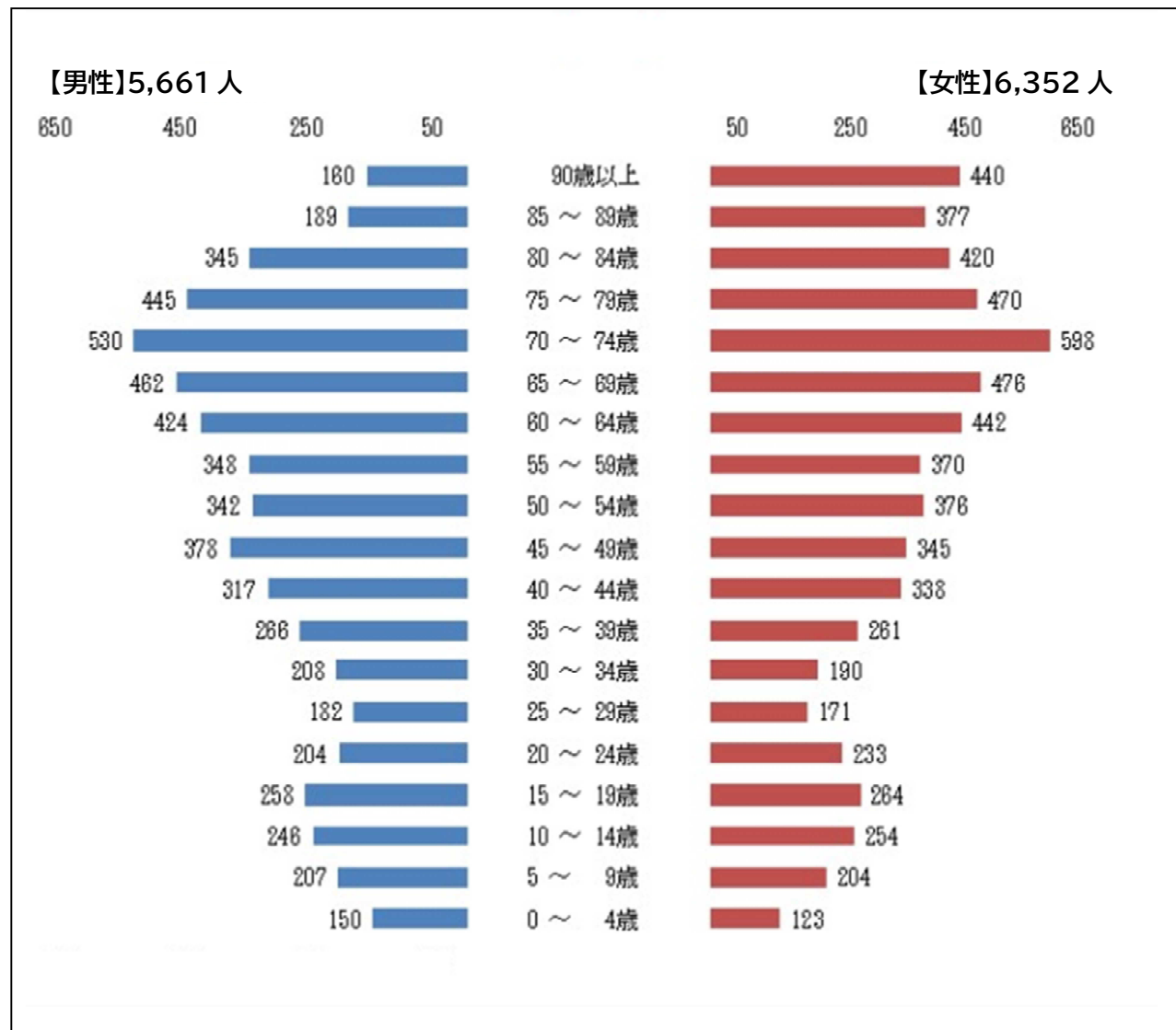
1. 人口構成・世帯数の状況

(1) 人口構成

2023（令和5）年12月末現在、佐川町の人口は、男性 5,661 人、女性 6,352 人で合計 12,013 人となっています。

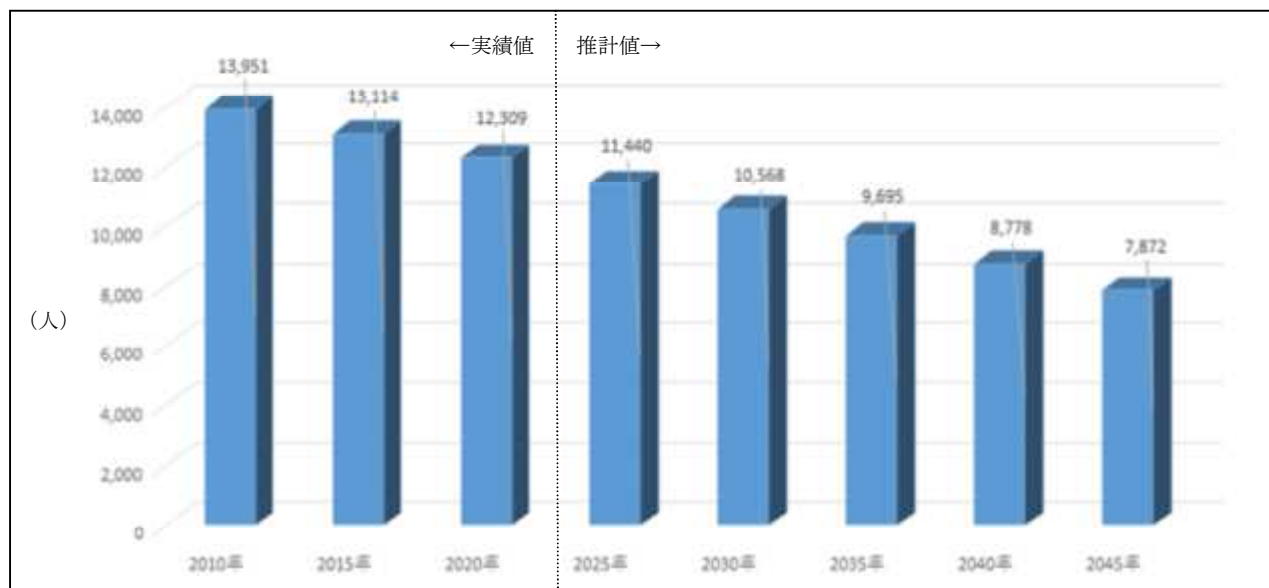
年齢階層別にみると、男女ともに「70～74 歳」が最も多くなっています。

■人口ピラミッド



出典：住民基本台帳 令和5年12月末現在

■総人口の推移【佐川町 2015（平成 27）年から 2045（令和 27）年】



出典：高知県健康づくり支援システム（国勢調査及び人口推計値（総数））

■年齢3区分人口割合推移

←実績値 → 推計値→

	2015 年	2020 年	2025 年	2030 年	2035 年	2040 年	2045 年
0～14 歳	11.5%	10.7%	10.7%	9.8%	9.3%	9.0%	8.7%
15～64 歳	50.8%	47.7%	45.6%	44.1%	43.1%	41.3%	40.0%
65 歳以上	37.7%	41.7%	44.2%	46.2%	47.5%	49.7%	51.3%
75 歳以上	21.4%	23.5%	27.7%	31.2%	33.2%	34.3%	34.7%

出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

■5地区別データ（第2次計画策定時との比較）

〈人 口〉

	佐川	斗賀野	尾川	黒岩	加茂
2023(令和 5)年 1 月末日	6,512 人	3,099 人	683 人	976 人	960 人
2017(平成 29)年 1 月末日	6,909 人	3,312 人	802 人	1,143 人	1,039 人

〈年少人口：0歳～14歳〉

	佐川	斗賀野	尾川	黒岩	加茂
2023(令和 5)年 1 月末日	714 人	331 人	40 人	66 人	91 人
2017(平成 29)年 1 月末日	862 人	389 人	72 人	111 人	111 人

〈生産年齢人口：15歳～64歳〉

	佐川	斗賀野	尾川	黒岩	加茂
2023(令和 5)年 1 月末日	3,355 人	1,557 人	273 人	431 人	457 人
2017(平成 29)年 1 月末日	4,063 人	1,960 人	456 人	637 人	594 人

〈老年人口：65歳以上〉

	佐川	斗賀野	尾川	黒岩	加茂
2023(令和5)年1月末日 (うち、75歳以上人口)	2,443 人 (1,407 人)	1,211 人 (672 人)	370 人 (210 人)	479 人 (281 人)	412 人 (212 人)
2017(平成29)年1月末日 (うち、75歳以上人口)	2,419 人 (1,376 人)	1,209 人 (663 人)	385 人 (234 人)	512 人 (295 人)	390 人 (209 人)

〈高齢化率：65歳以上人口÷人口〉

	佐川	斗賀野	尾川	黒岩	加茂
2023(令和5)年1月末日	37.51%	39.08%	54.17%	49.08%	42.92%
2017(平成29)年1月末日	31.35%	32.94%	42.60%	40.96%	32.40%

〈後期高齢化率：75歳以上人口÷65歳以上人口〉

	佐川	斗賀野	尾川	黒岩	加茂
2023(令和5)年1月末日	21.61%	21.68%	30.75%	28.79%	22.08%
2017(平成29)年1月末日	58.07%	56.93%	65.05%	61.27%	59.17%

〈出生数〉

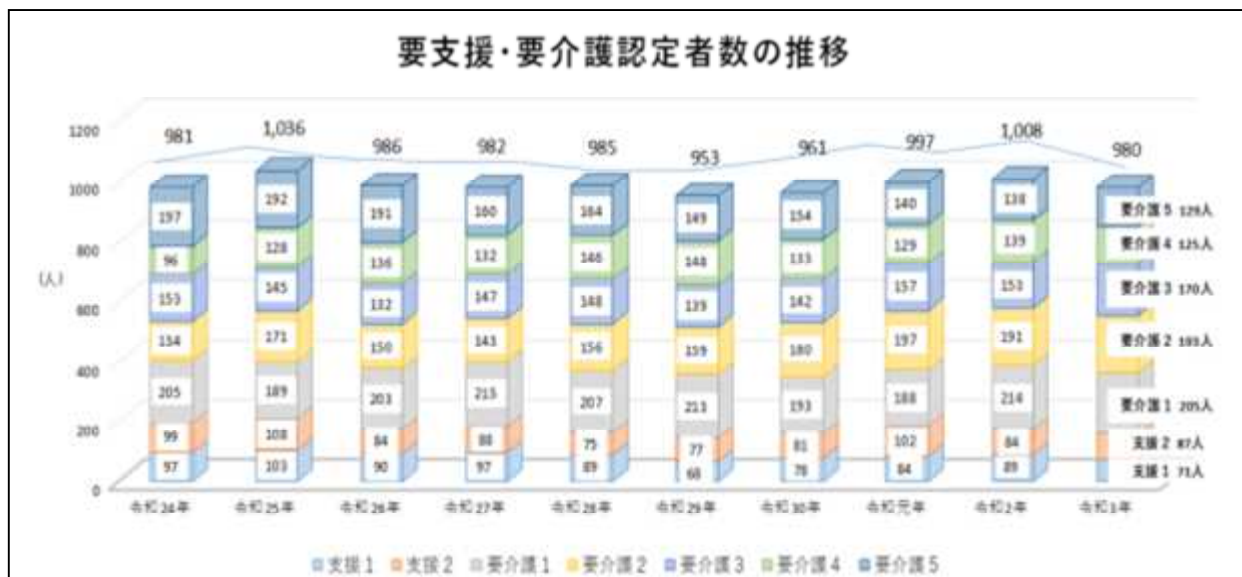
	佐川	斗賀野	尾川	黒岩	加茂
2022(令和4)年度	30 人	13 人	0 人	3 人	2 人
2016(平成28)年度	31 人	12 人	2 人	5 人	4 人

引用：住民基本台帳

2. 高齢者の状況

(1) 要支援・要介護認定者数の推移

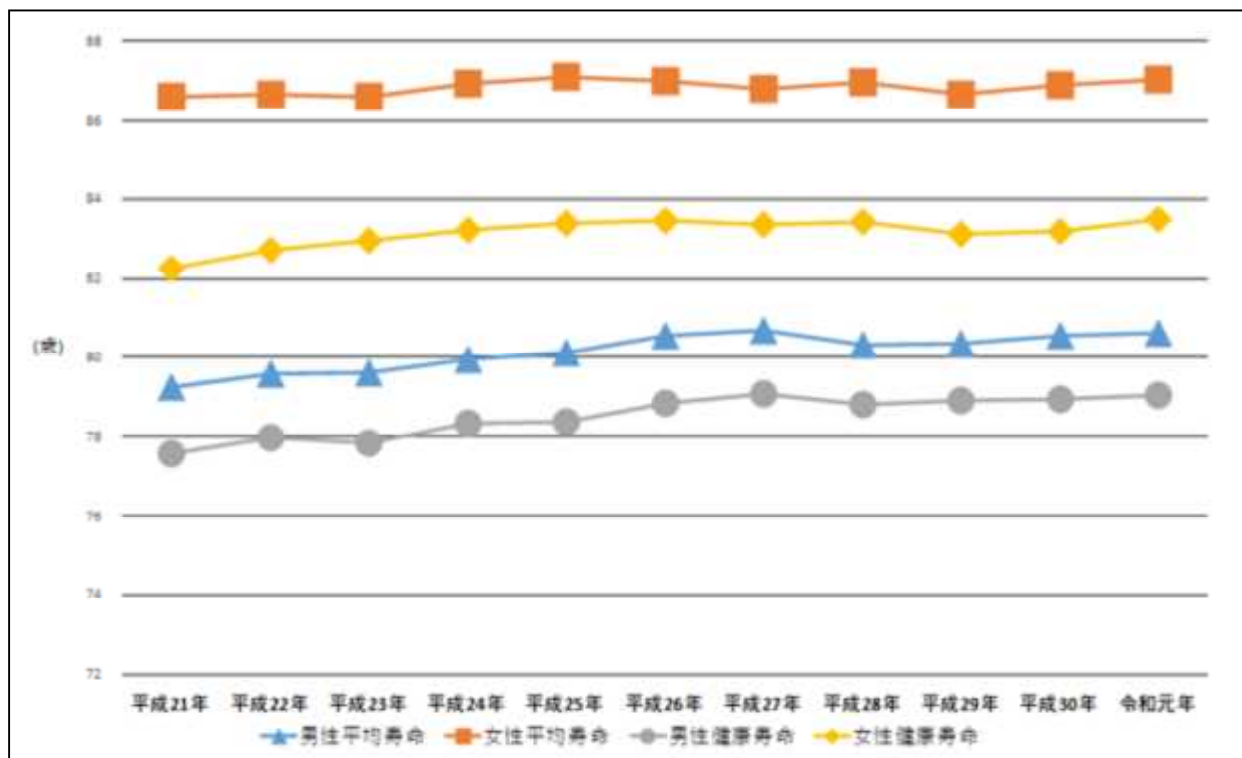
要支援・要介護認定者数の推移は、2012（平成24）年981人から2021（令和3）年980人となっており、1人減少しています。介護度別に見ると要介護2、3が増加傾向にあります。



引用：政府統計の総合窓口(e-Stat) 令和3年度介護保険事業状況報告（年報）

(2) 平均寿命と健康寿命

佐川町の平均寿命は、2019（令和元）年時点で男性が80.63歳、女性は87.03歳で、ゆるやかな上昇傾向です。また、佐川町の健康寿命（支援や介護を必要としない期間）は、男性が79.04歳、女性が83.49歳となっており、平均寿命と合わせてみると、男性では支援や介護を必要とする期間が1.59年、女性は3.54年となっています。



引用：高知県健康づくり支援システム

(3) 家族構成

【全 体】

○家族構成について、「夫婦2人暮らし（配偶者 65 歳以上）」が 41.1%で最も多く、次いで「一人暮らし」が 21.6%、「その他」が 15.1%となっています。

【性・年齢】

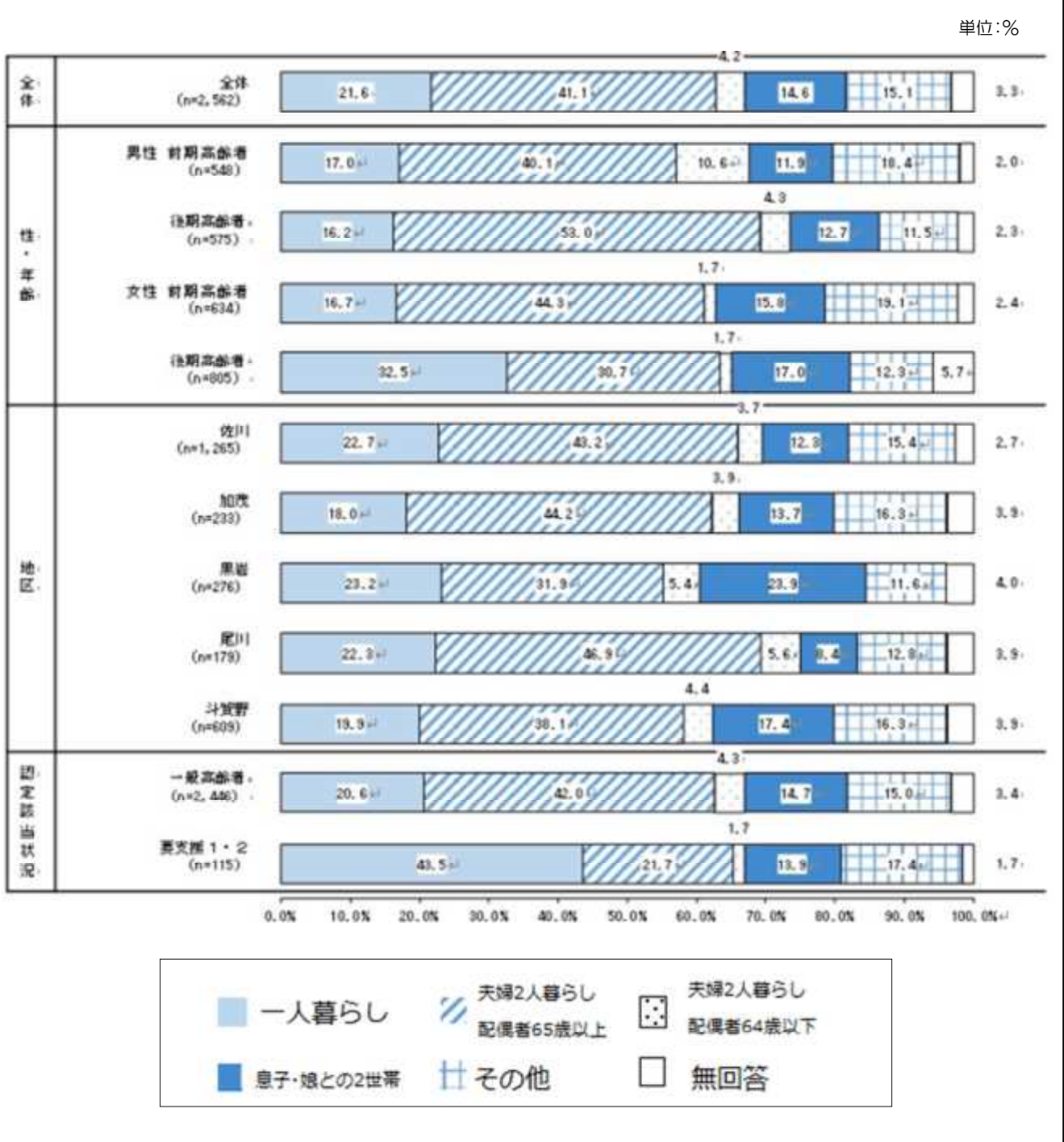
○「一人暮らし」は女性 後期高齢者が 32.5%と他の区分に比べて多くなっています。

【地 区】

○「夫婦2人暮らし（配偶者 64 歳以下）」は尾川が 5.6%、黒岩が 5.4%と他の区分に比べて多くなっています。

【認定該当状況】

○「一人暮らし」は要支援1・2が 43.5%と他の区分に比べて多くなっています。

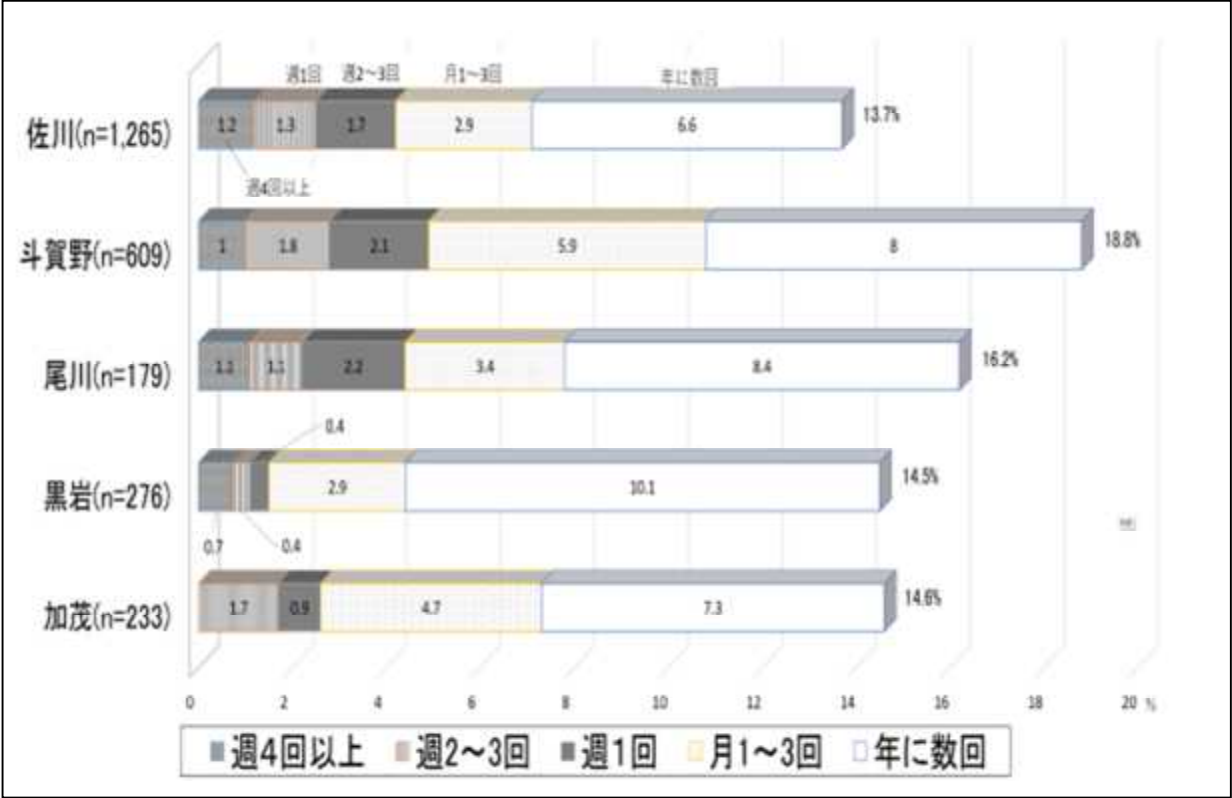


引用：介護保険ニーズ調査結果（令和5年3月）

(4) 地域での活動について

■ボランティアのグループ

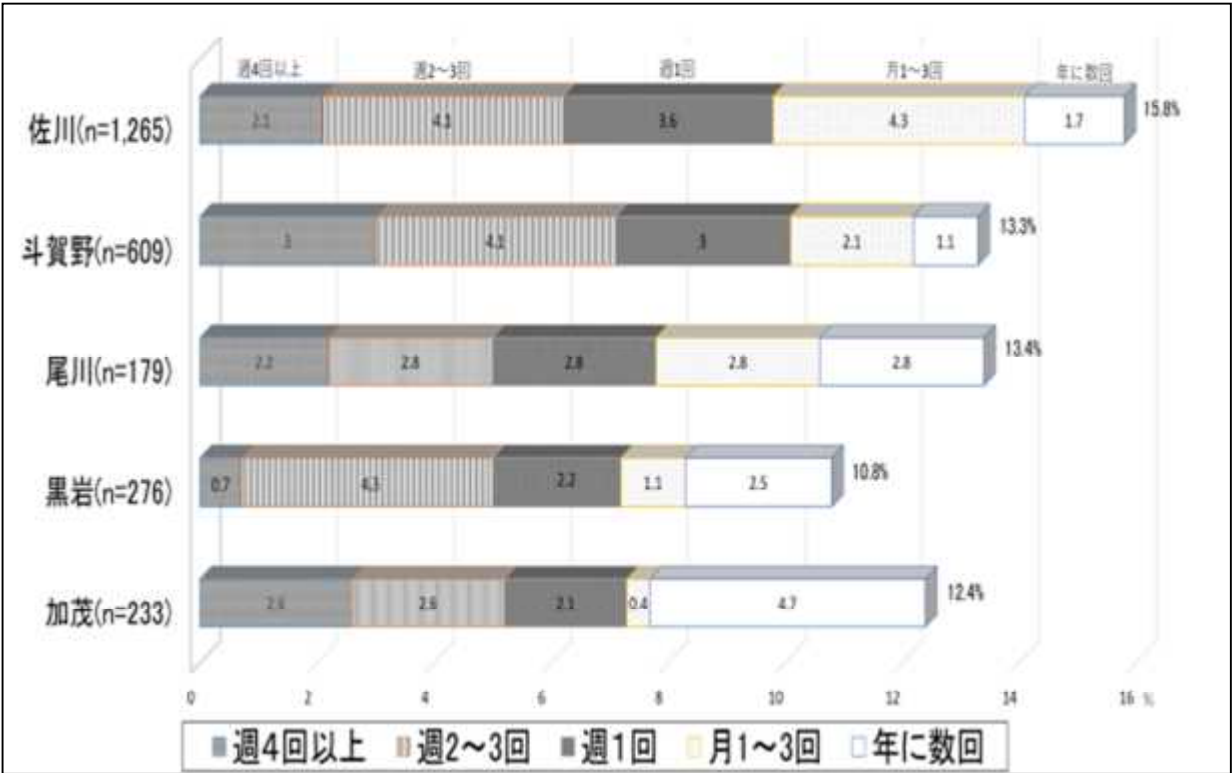
地区別に参加頻度をみると、斗賀野（18.8%）が最も高く、佐川（13.7%）が最も低くなっています。
「年に数回」を除いても、斗賀野（10.8%）の参加頻度が最も高くなっています。



引用：介護保険ニーズ調査結果（令和5年3月）

■スポーツ関係のグループやクラブ

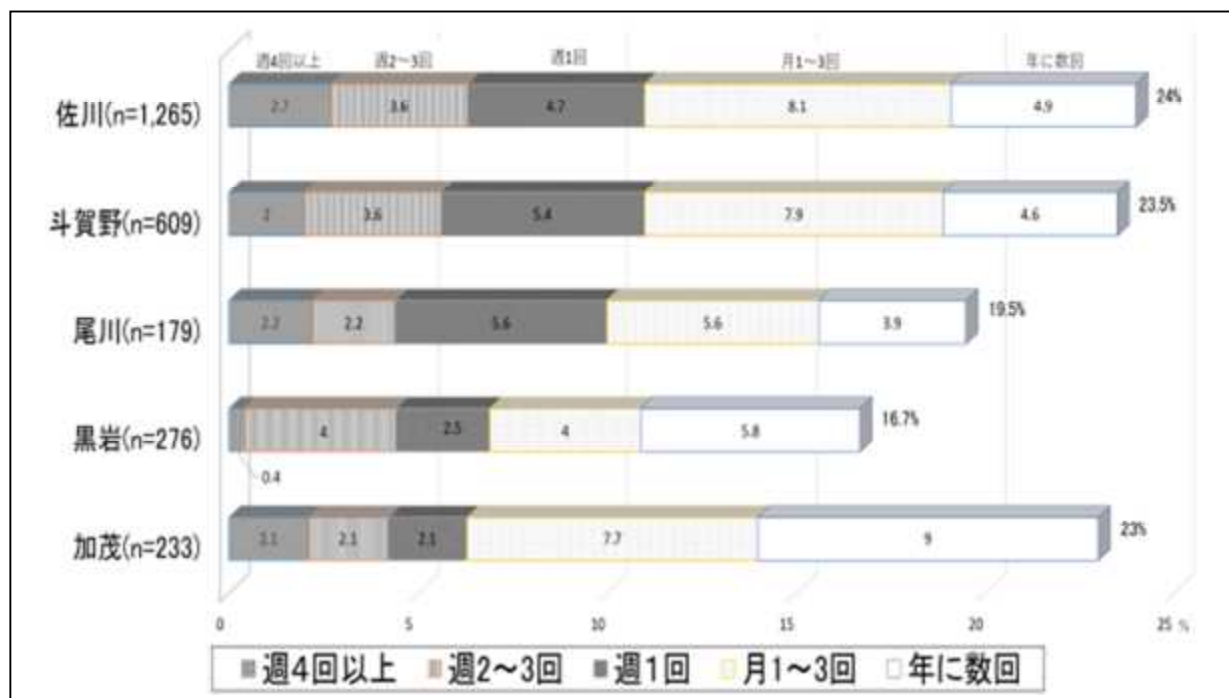
地区別に参加頻度をみると、佐川（15.8%）が最も高く、黒岩（10.8%）が最も低くなっています。
「年に数回」を除いても佐川（14.1%）の参加頻度が最も高くなっています。



引用：介護保険ニーズ調査結果（令和5年3月）

■趣味関係のグループ

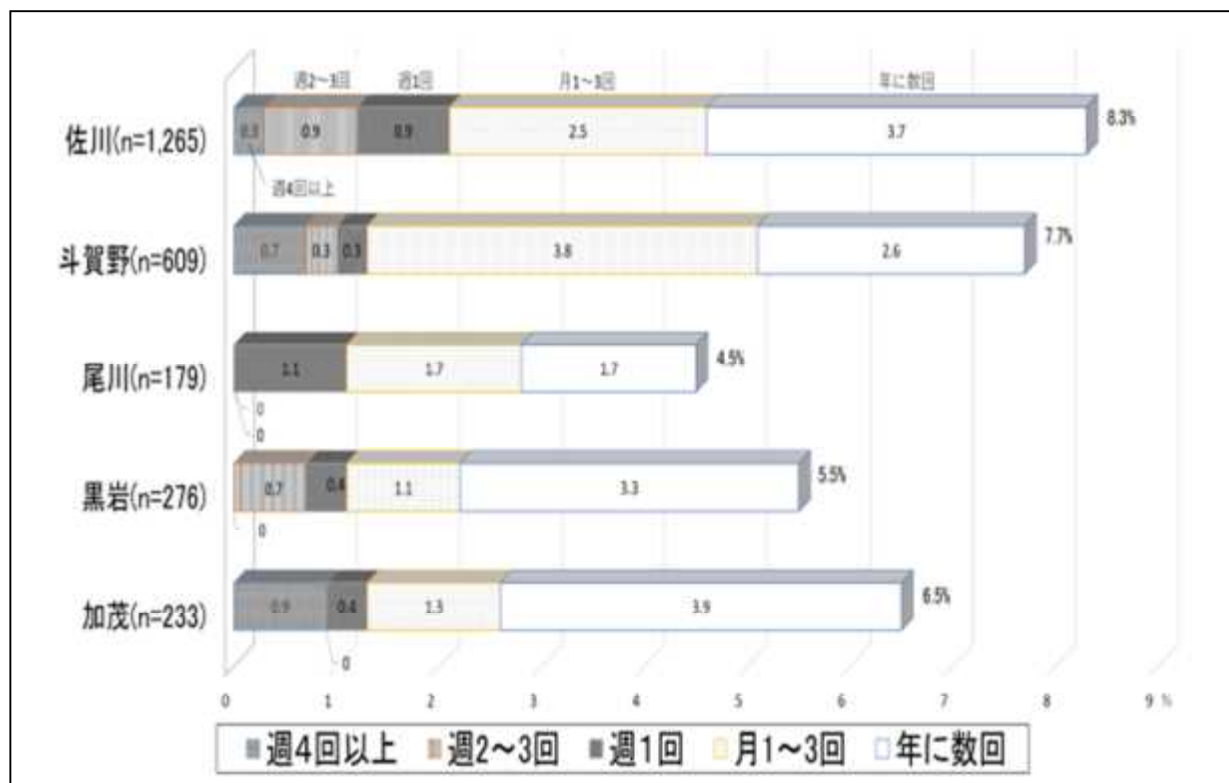
地区別に参加頻度をみると、佐川（24%）が最も高く、黒岩（16.7%）が最も低くなっています。「年に数回」を除いても佐川（19.1%）の参加頻度が最も高くなっています。



引用：介護保険ニーズ調査結果（令和5年3月）

■学習・教養サークル

地区別に参加頻度をみると、佐川（8.3%）が最も高く、尾川（4.5%）が最も低くなっています。「年に数回」を除いた場合は、斗賀野（5.1%）の参加頻度が最も高くなっています。



引用：介護保険ニーズ調査結果（令和5年3月）

(5) 運動習慣等について

■運動習慣の有無

【全 体】

○1 回 30 分以上の軽く汗をかく運動をしているかについて、「運動をしている」が 45.8%で最も多く、次いで「運動したい気持ちはあるが、取り組めていない」が40.2%、「運動ができない（心身の不調で運動制限があるなど）」が5.4%となっています。

【性・年齢】

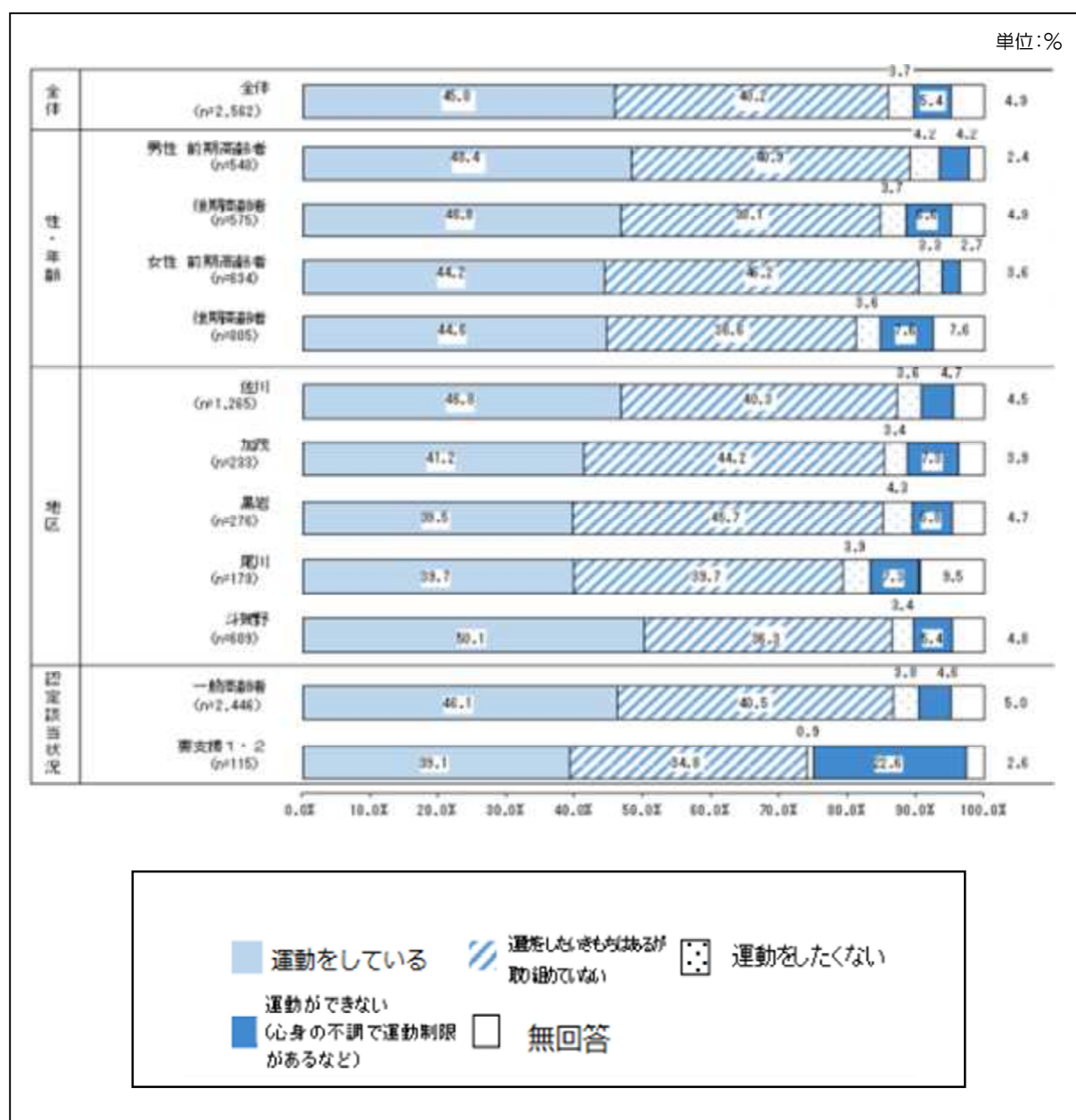
○「運動している」は男性 前期高齢者が48.4%、男性 後期高齢者が46.8%と他の区分に比べて多くなっています。

【地 区】

○「運動している」は佐川が46.8%、斗賀野が50.1%と他の区分に比べて多くなっています。

【認定該当状況】

○「運動している」は一般高齢者が46.1%、要支援1・2が39.1%となっています。



引用：介護保険ニーズ調査結果（令和5年3月）

運動器の機能低下

以下の設問に対して5問中3問以上該当する場合は、運動器機能の低下している高齢者となります。

設 問	選択肢
階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	できない
椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	できない
15分位続けて歩いていますか	できない
過去1年間に転んだ経験がありますか	何度もある／1度ある
転倒に対する不安は大きいですか	とても不安である／やや不安である

【全 体】

○運動器の機能低下リスクについて、「該当」が18.5%、「非該当」が80.9%となっています。

【性・年齢】

○男女ともに後期高齢者では前期高齢者に比べて「該当」が多くなっています。

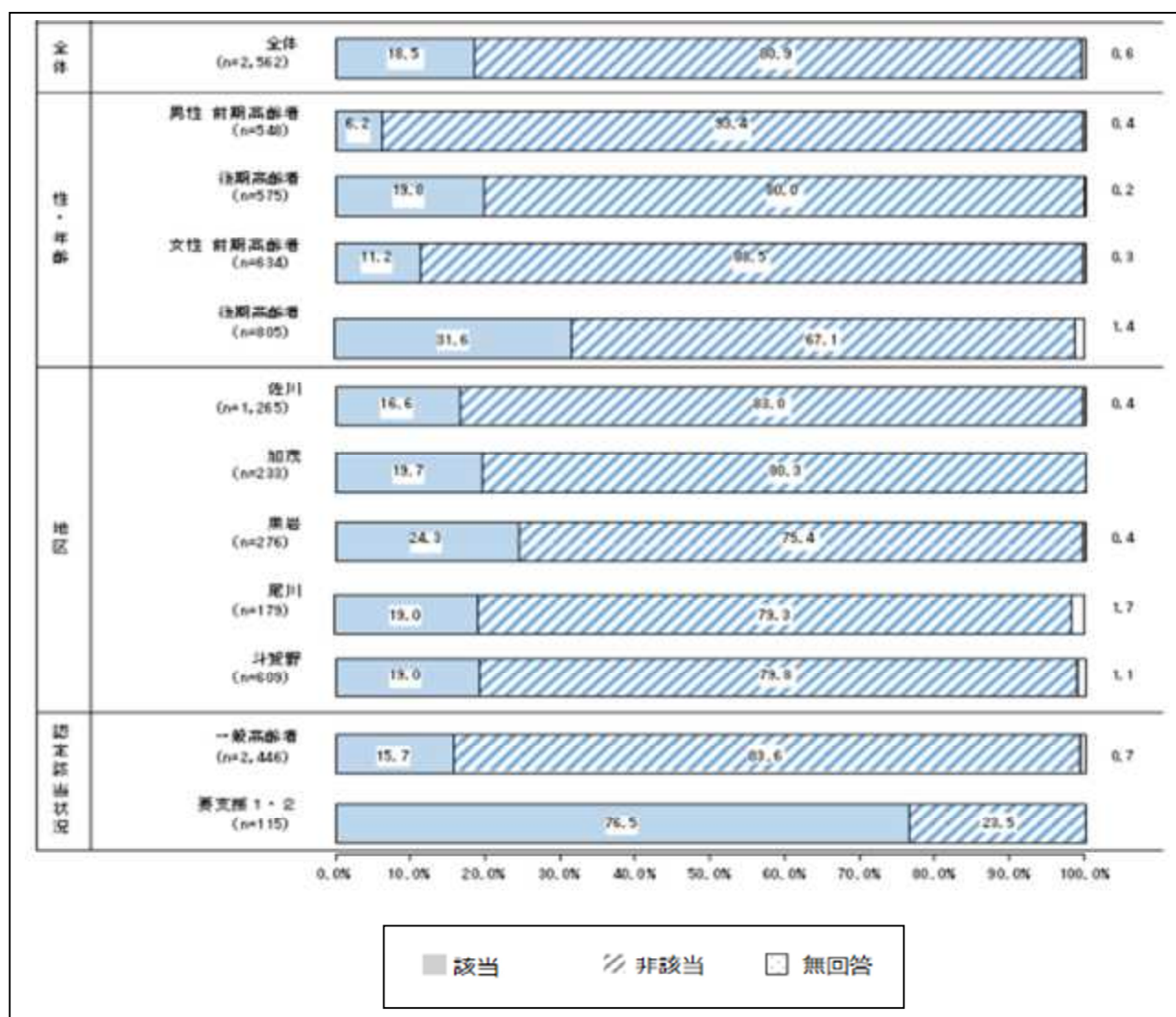
【地 区】

○「該当」は黒岩が24.3%と他の区分に比べて多くなっています。

【認定該当状況】

○「該当」は一般高齢者が15.7%、要支援1・2が76.5%となっています。

単位：%



引用：介護保険ニーズ調査結果（令和5年3月）

(6) 食事について

【全 体】

○1日2回以上主食・主菜・副菜3つそろえて食べる日は週に何日あるかについて、「ほとんど毎日」が70.2%で最も多く、次いで「週に4～5日」が13.3%、「週に2～3日」が8.4%となっています。

【性・年齢】

○「ほとんど毎日」は女性 前期高齢者が75.7%と他の区分に比べて多くなっています。

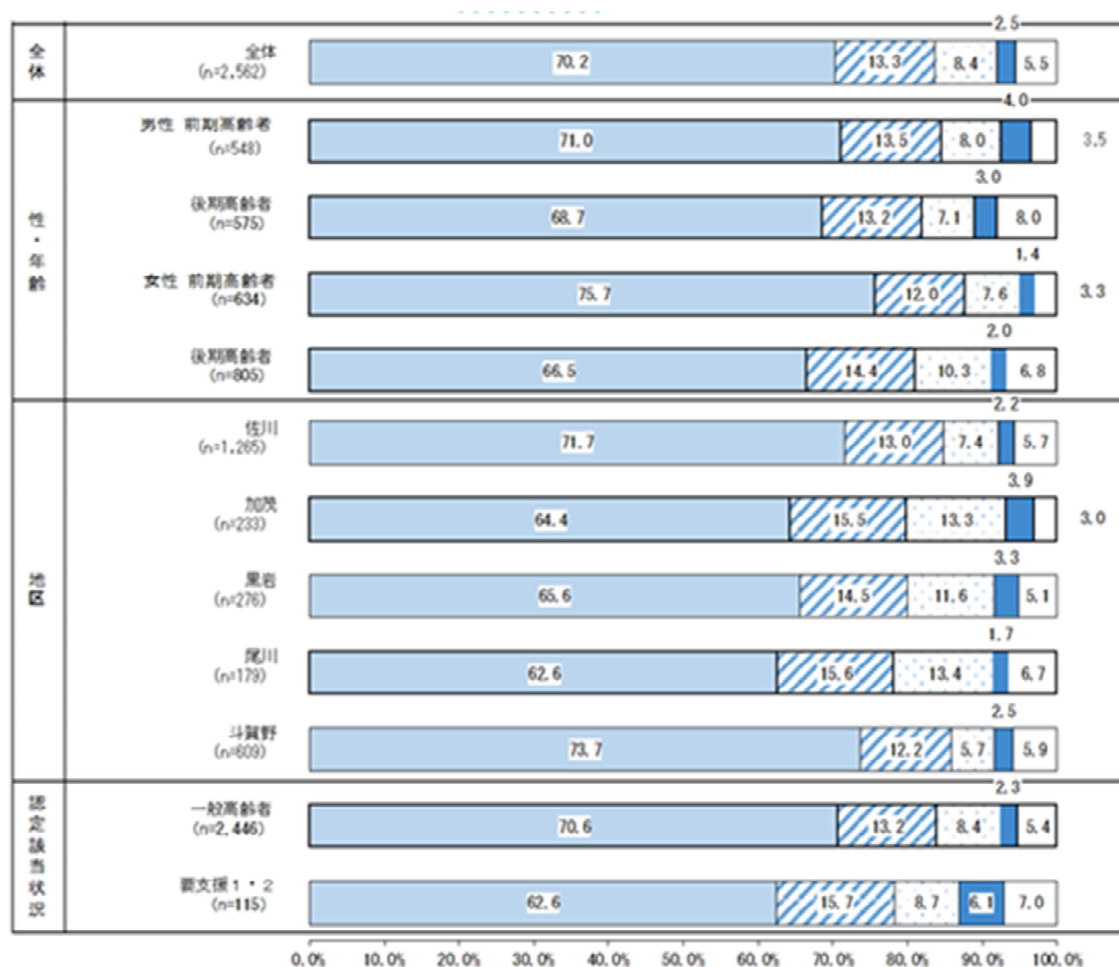
【地 区】

○「ほとんど毎日」は佐川が71.7%、斗賀野が73.7%と他の区分に比べて多くなっています。

【認定該当状況】

○「ほとんど毎日」は一般高齢者が70.6%、要支援1・2が62.6%となっています。

単位：％



■ ほとんど毎日 // 週に4～5回 □ 週に2～3回
 ■ ほとんどない □ 無回答

引用：介護保険ニーズ調査結果（令和5年3月）

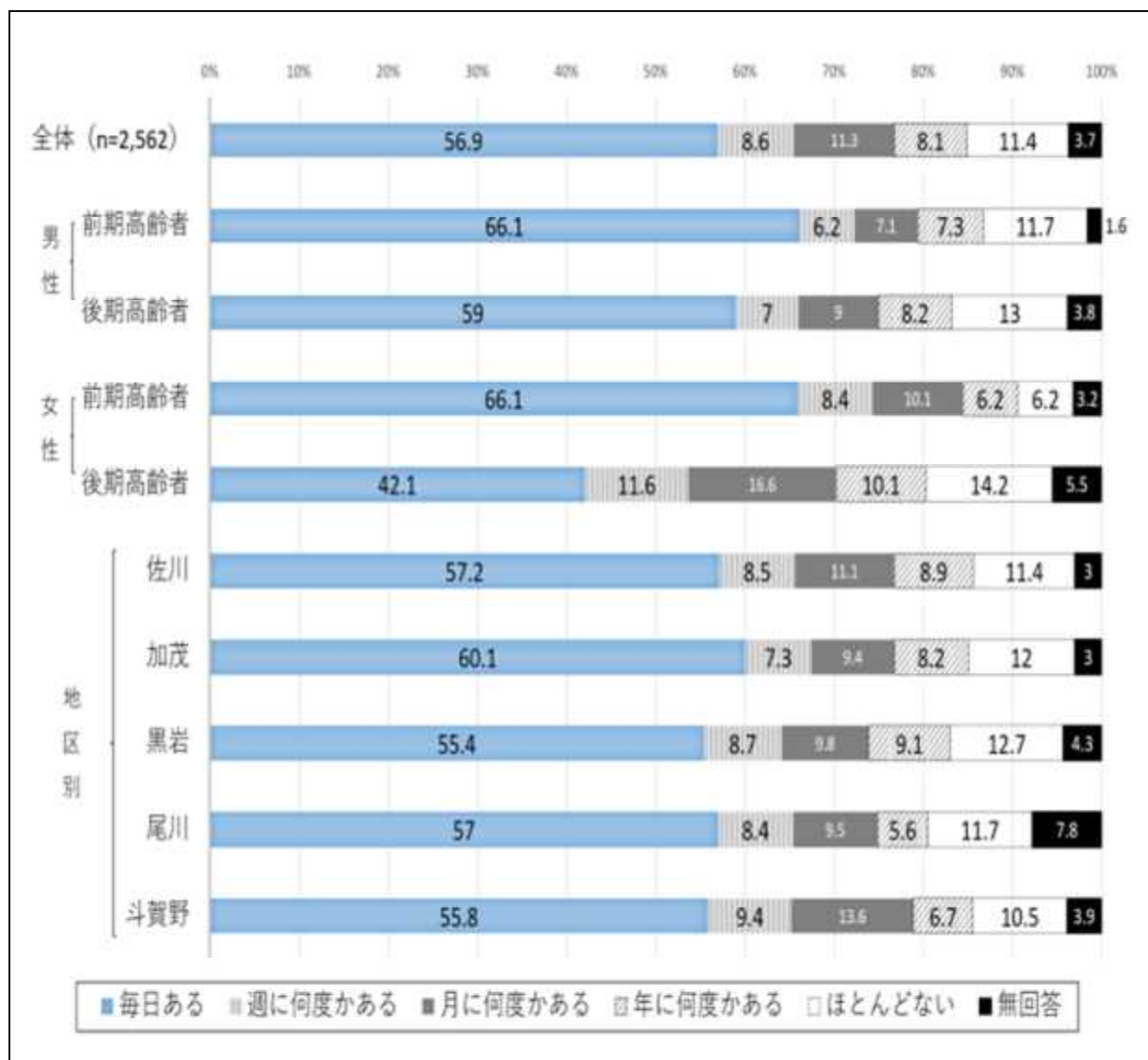
■孤食の状況

どなたかと食事を共にする機会の有無をみると、全体の56.9%は「毎日ある」と答えていますが、「年に何度かある」及び「ほとんどない」と答えた“孤食傾向のある方”も、19.5%を占めています。

性別・年齢別にみると、“孤食傾向のある方”は男性（21.2%）、女性（24.3%）共に後期高齢者が最も多くなっています。

“孤食傾向のある方”を地区別にみると、黒岩（21.8%）が最も多く、「月に何度かある」と答えた方も含めると、31.6%となっています。

単位：％



引用：介護保険二一ズ調査結果（令和5年3月）

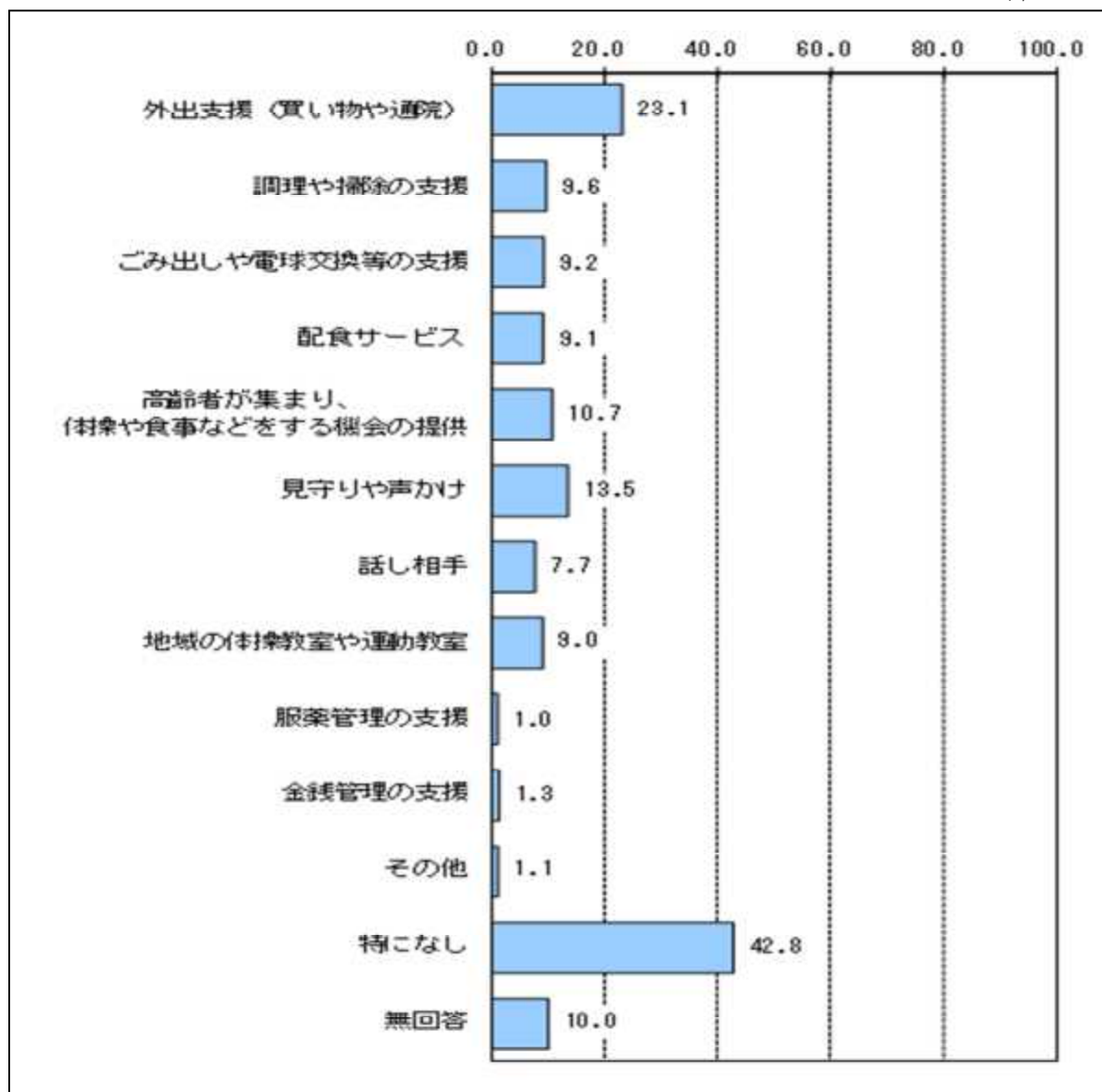
(7) 利用したいサービス

■利用したいサービス

現在若しくは今後、利用したいと感じるサービス・取り組みについてみると、「外出支援（買い物や通院）」が23.1%で最も多く、次いで「見守りや声がけ」13.5%、「高齢者が集まり、体操や食事などをする機会の提供」10.7%「調理や清掃の支援」9.6%の順となっています。

「特になし」も、42.8%と高くなっています。

単位：%



引用：介護保険ニーズ調査結果（令和5年3月）

3. 障害者等の状況

■身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳の保有者数

	身体障害者手帳 (令和5年5月末)	療育手帳 (令和5年7月末)	精神障害者 保健福祉手帳 (令和5年7月末)	合 計
所持者数	757 人	129 人	118 人	1,004 人

■身体障害者手帳の種類別保有者数

障害の種別	人数	全体に占める割合
肢体不自由	354 人	47%
内部障害 (心臓・腎臓・呼吸器・膀胱又は 直腸・小腸・免疫・肝臓の機能障害)	286 人	37%
聴覚・平衡	58 人	8%
視 覚	54 人	7%
音声・言語・咀嚼	5 人	1%
合 計	757 人	100%

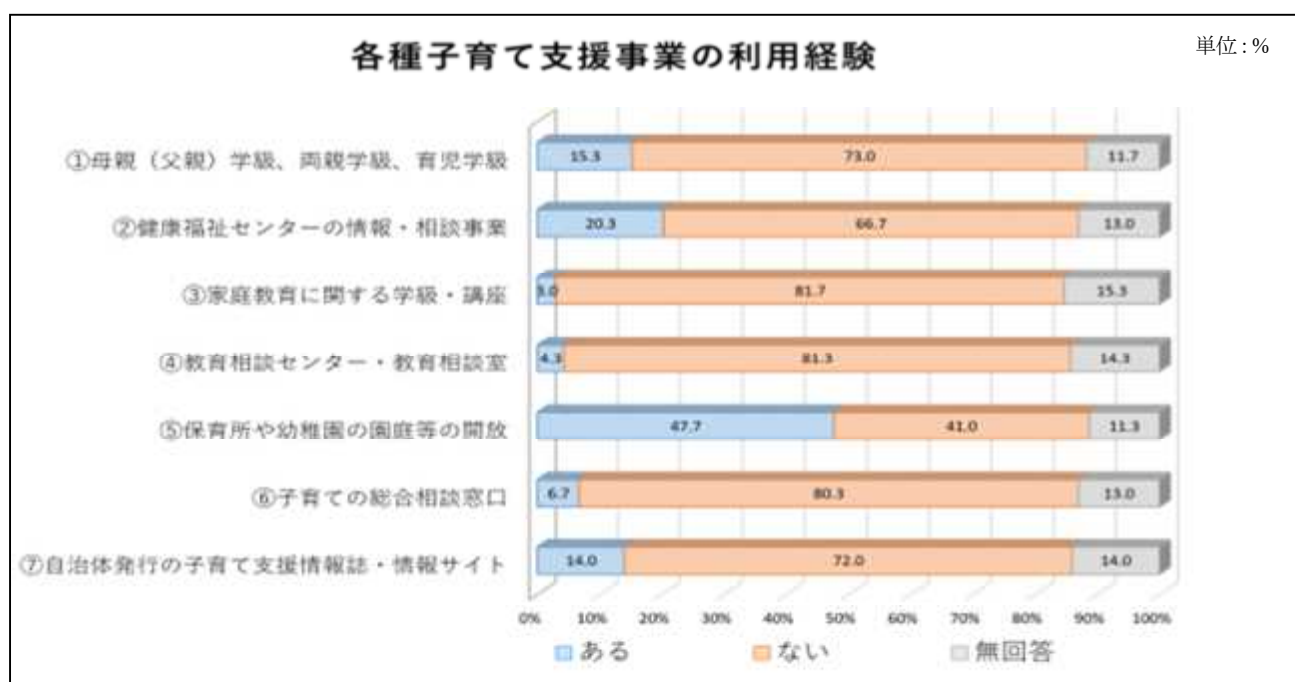
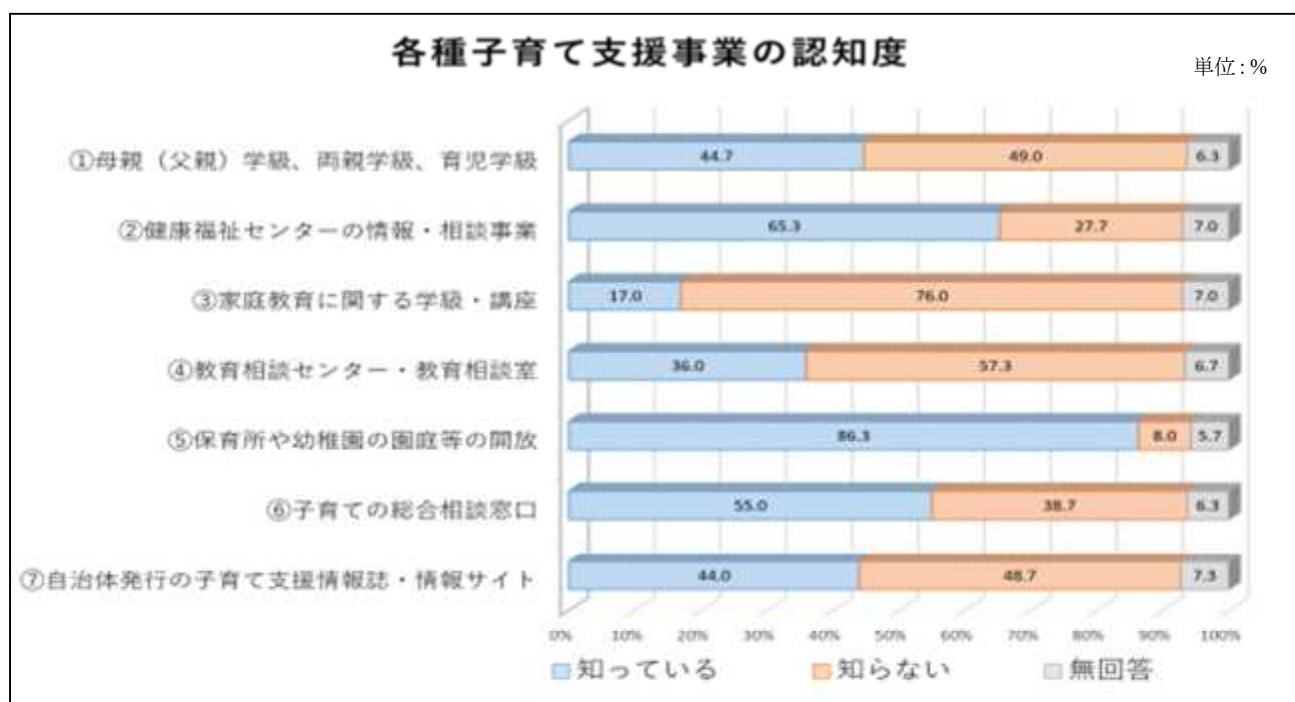
引用：佐川町障害者計画

4. 子どもの状況

■子育て支援事業の認知度・利用経験・利用意向

地域の子育て支援事業の認知度（知っている）は、「⑤保育所や幼稚園の園庭等の開放」が86.3%と割合が最も高く、次いで「②健康福祉センターの情報・相談事業」が65.3%となっています。

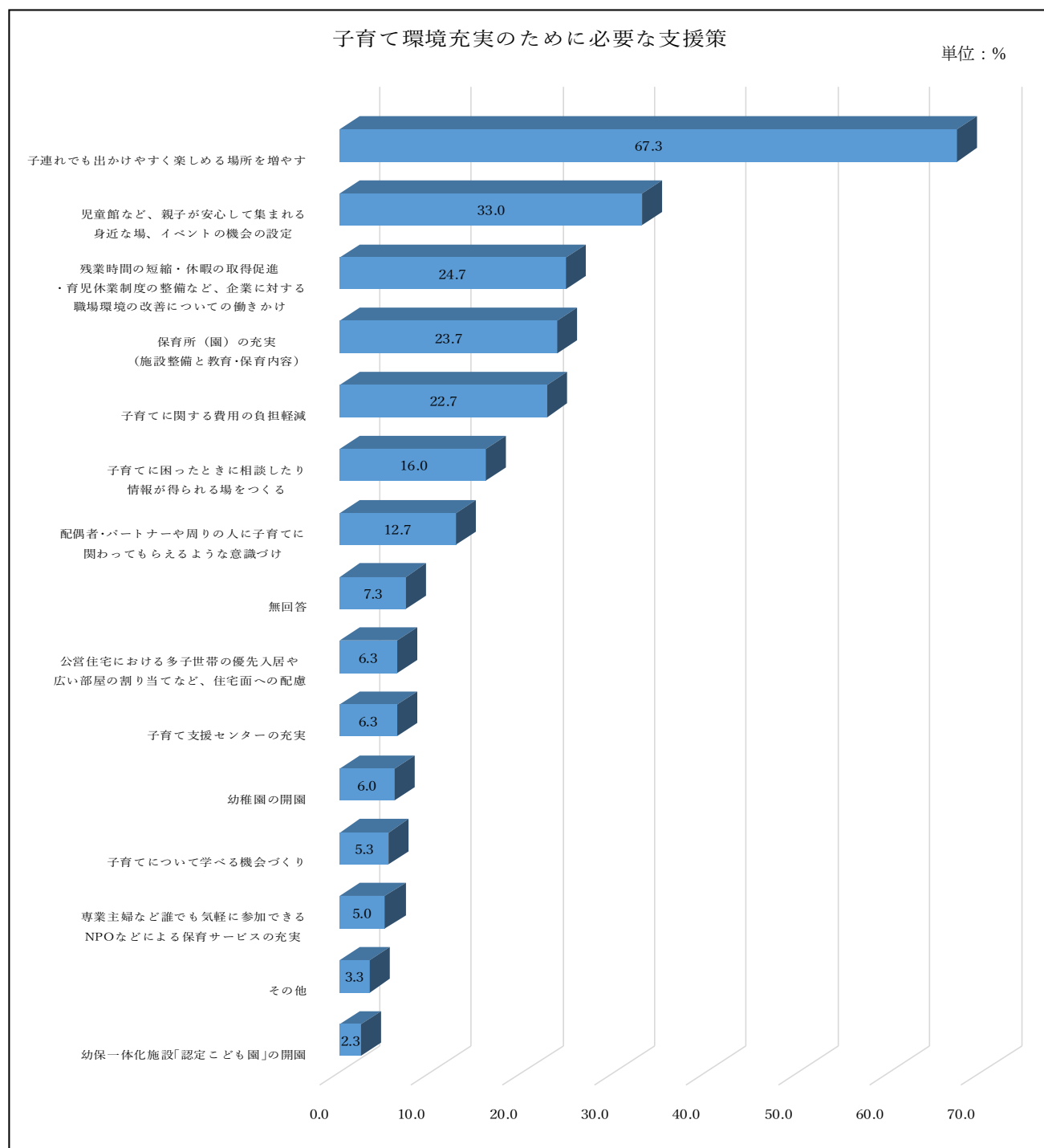
利用経験（利用したことがある）は、「⑤保育所や幼稚園の園庭等の開放」が、47.7%と割合が最も高く、次いで「②保健福祉センターの情報・相談事業」が20.3%となっています。



引用：第2期 佐川町子ども・子育て支援事業計画

■子育て環境充実のために必要な支援策

子育て環境充実のために必要な支援策は、「子連れでも出かけやすく楽しめる場所を増やす」が67.3%で割合が最も高く、次いで「児童館など、親子が安心して集まれる身近な場、イベントの機会の設定」が、33.0%「残業時間の短縮・休暇の取得促進・育児休業制度の整備など、企業に対する職場環境の改善についての働きかけ」が、24.7%となっています。



引用：第2期 佐川町子ども・子育て支援事業計画

5. その他

(1) 生活困窮者自立支援の現状

佐川町社会福祉協議会では、生活困窮者自立支援法が施行された平成27年から生活困窮者自立促進支援事業を実施しています。生活困窮者支援を実施する中で、その実態が明らかになってきました。生活困窮者は、単に経済的に困窮しているだけではない場合も多く、下記の特徴が伺えます。

○発達・知的・精神障害（境界層）や、成育環境に問題があるなど、何らかのハンディキャップを有している。

○ハンディキャップを有しているため、集団や地域社会からいじめや排除の対象となる。

○人間関係での傷つき体験を経て、人に恐怖や不安不信を感じ、関わりができなくなる。

○社会的孤立に陥り、社会にでられないため経済的にも困窮し、次第に生きる力を失う。

このように、決して本人の責任による生活困窮状態だけではなく、生きづらさにより孤立を余儀なくされて生活困窮に陥る場合も少なくないということがわかってきました。支援には金銭的支援や仕事の紹介などの物理面のみでなく、人との関わりの不安を取り除いたり、自己有用感を高めてもらえるよう精神的・情緒的な関わりも重要となってきます。

生活困窮者は地域とのつながりがなく社会的に孤立している場合も多いため、その存在に気づきにくいのですが、本町にも大勢の生活困窮者が存在しており、公的機関の支援のみでは不十分です。前節のとおり地域の力を借り、人との温かなつながりの中で支援して自立に導いていく必要があります。

生活困窮相談支援件数						
年度 件数	2018年 (H30)	2019年 (R元)	2020年 (R2)	2021年 (R3)	2022年 (R4)	合 計
新規相談	35	39	41	45	24	184
継続支援	-	4	10	17	22	22

相談を受け付けた件数、継続支援者数は、まだまだ実態の一部と考えられます。複数の課題を抱えている方が多く自立までには時間がかかるため、継続支援者数は年々増加しています。今後ますます多くの機関や地域との関わりが必要となります。



* 佐川町内のゴミ屋敷。孤立しているため隣近所でも実態を知っている人は少ない。

(2) あったかふれあいセンター事業の状況

あったかふれあいセンターは…

子どもから高齢者まで年齢や障害の有無にかかわらず、誰でも気軽に集い、必要なサービスを受けることができる【高知型地域共生社会】の拠点です。

住民同士がつながり、気にかけて合う地域づくりのため、『集い』『集い送迎』『訪問』『生活支援』『学び』『つなぎ』等の取り組みを実施しています。

■活動拠点

あったかふれあいセンターひまわり 【2009（平成21）年10月開所】

あったかふれあいセンターとかの 【2014（平成26）年5月開所】

あったかふれあいセンターくろいわ 【2018（平成30）年4月開所】

あったかふれあいセンター加茂の里 【2018（平成30）年4月開所】

あったかふれあいセンター夢まち 【2020（令和2）年4月開所】

■開所日時・・・月曜日から金曜日 午前9時から午後4時まで

■各あったかふれあいセンターの取り組みや特徴

<あったかふれあいセンターひまわり>

私たちは、自然豊かな尾川地区で高齢者から子どもまで誰もが集い、見守り、支え合う地域づくりの推進をしています。

集落活動センター「たいこ岩」での集いやイベントの開催、見守り訪問や生活支援などの地域へ出向いた活動を通して、皆様に『身近な存在』として頼ってもらえる“あったか”を目指しています。ぜひ、お気軽にお立ち寄りください。

「こんなことしてみたい！」というご要望もお待ちしています。

主な実施内容

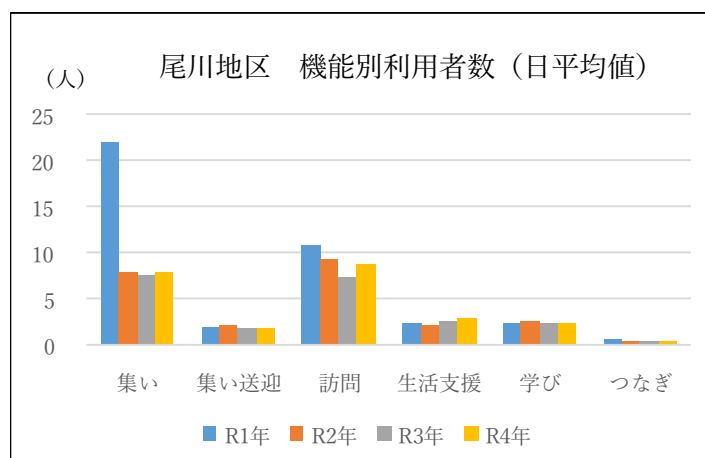
月：いきいき・かみかみ百歳体操

火：裁縫、ダイヤモンド体操

水：創作活動（月1回）、脳トレ（月1回）

木：3B体操（月1回）

金：自由に過ごす



＜あったかふれあいセンターとかの＞

あったかふれあいセンターとかのは「笑顔を集めて元気発信!!」をモットーに、利用者もスタッフも笑顔で過ごせる憩いの場です。地域の皆さんがお互い助け合い、つながる地域づくりを目指しています。

子どもから高齢者まで誰でも気軽に立ち寄れる場です。コーヒーを飲んだり、おしゃべりしたり・・・男性の利用者が多いのも特徴です。地域の方や利用者にボランティアになってもらうなど出番づくりもしています。また、お困りごと相談や地域の訪問を行い、見守りや各関係機関へのつながりも行っています。

集落活動センターと連携を図り、あったかふれあいセンターがより一層地域支えあいの拠点となるよう努めます。ぜひ遊びに来てください。

主な実施内容

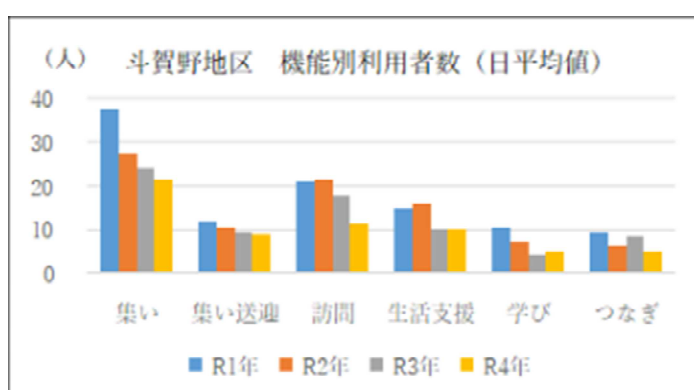
月：自由に過ごす日

火：いきいきかみかみ百歳体操

水：カレーの日や認知症予防ゲーム、学び
各教室

木：3B 体操、いきいきかみかみ百歳体操

金：カラオケの日



＜あったかふれあいセンターくろいわ＞

支援が必要な高齢者等、世代を超えた集いの場を提供するとともに必要・相談に応じて独居高齢者への配食サービスや生活支援・見守り訪問の事業を実施しています。

地域の集いの場として「楽しく健やかに」を合い言葉に笑顔あふれる地域に愛されるあったかふれあいセンターを目指しています。

美味しいコーヒーもあります。ぜひ遊びに来てください。

主な実施内容

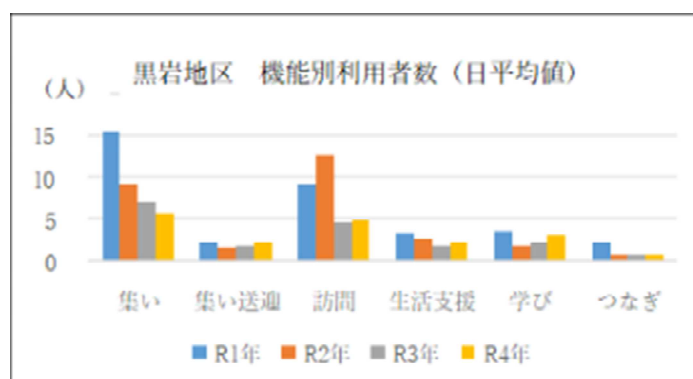
月：脳トレーニング等

火：いきいきかみかみ百歳体操

水：自由に過ごす日

木：喫茶の日

金：いきいきかみかみ百歳体操



＜あったかふれあいセンター加茂の里＞

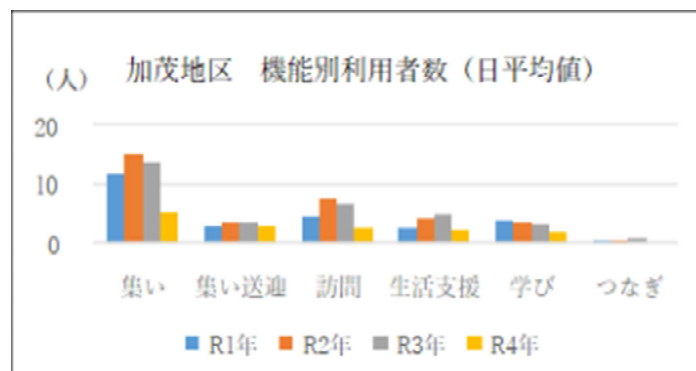
あったかふれあいセンター加茂の里は、子どもから高齢者まで世代を超えた地域の皆さんの地域福祉の拠点として、JR 土佐加茂駅の東側にある集落活動センター加茂の里内で活動しています。

誰もが気軽に立ち寄ってほっとできる集いの場や、百歳体操、出前講座、保育園児との交流など月間の行事予定に沿って楽しく笑顔で活動しています。あったかを利用される方で、送迎を希望される方にはスタッフが車で対応しています。

地域の皆さんの元気が私たちスタッフの力になります。元気を力に変えて、明るい笑顔あふれる地域づくりを目指していきます。

主な実施内容

- 月：趣味・ゲームの日
- 火：いきいきかみかみ百歳体操
- 水：いきいきかみかみ百歳体操、生活支援
- 木：3B 体操、出前講座、訪問など
- 金：認知症予防ゲーム、ボッチャの日、訪問など



＜あったかふれあいセンター夢まち＞

あったかふれあいセンター夢まちは佐川町の中心地にあり、お友達同士待ち合わせをしたり、買い物などのついでに気軽に立ち寄っていただいています。

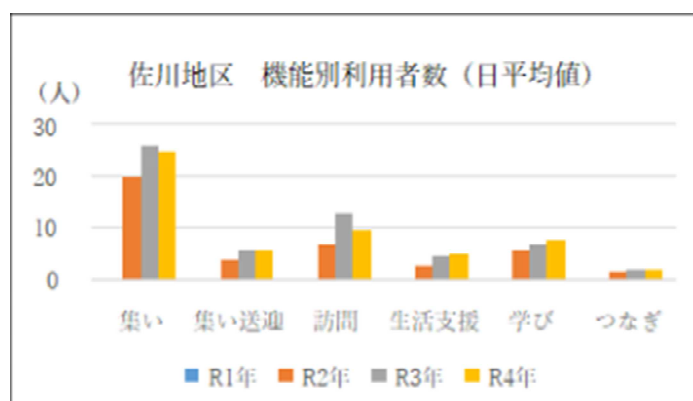
介護予防の百歳体操や健康出前講座は人気で新規の利用者につながっています。

あったかふれあいセンター夢まちを拠点に地域の方々がつながりを深め、子どもから高齢者まで誰もが安心して生きがいを感じて住み続けられる活動を目指しています。

地域にとってなくてはならない存在となれるよう心を込めて運営していきます。

主な実施内容

- 月：訪問の日
- 火：お買い物支援の日
 - ※第2：つぶやき喫茶
- 水：訪問の日
 - ※第3：健康出前講座
 - 第4：レクリエーション（認知症予防ゲーム）
- 木：健康マージャン・囲碁の日
- 金：百歳体操・将棋の日
- 毎月：月1回曜日未定：佐川を知ろう



(3) 災害時の要配慮者対策について

■避難行動要支援者名簿・個別計画書

2015（平成27）年度から名簿の作成を行い、年度ごとに更新しています。2023（令和5）年度は、避難行動要支援者として対象となる方が1,056名おり、その中で、避難支援等関係者に名簿情報を提供することに同意した方659名の名簿を登録し、関係者に提供しています。

個別計画書については、2017（平成29）年度から、自主防災組織と民生児童委員の協力を得て作成しています。

避難行動要支援者名簿を地域の自主防災組織や民生児童委員などの関係者に提供することや、個別計画書作成を通じて、日頃からの支え合いや見守りに取り組み、地域の防災力を高めるとともに地域コミュニティの強化を推進していく必要があります。

■福祉避難所

2023（令和5）年度末現在、福祉避難所については下記のとおりとなっています。

<福祉避難所>

施設名	受け入れ人数	
	福祉避難所対象者	対象者の付き添い
佐川町健康福祉センターかわせみ	10人	10人
佐川町デイケアセンターさくら荘	10人	10人
佐川町デイサービスセンター斗賀野荘	10人	10人
いこいの里たんぽぽ	20人	20人
さくら福祉事業所	20人	20人
合 計	70人	70人

<広域福祉避難所>

※土佐市・いの町・日高村・佐川町・越知町・仁淀川町が合同で設置・運営する福祉避難所

施設名	受け入れ人数	
	福祉避難所対象者	対象者の付き添い
高知県立日高特別支援学校	12人	12人

当町の災害時要配慮者数と福祉避難所の受け入れ最大人数及び被害想定を勘案すると、福祉避難所を利用できる方は、避難が必要な災害時要配慮者のうち20%弱で、残りの80%の方は、拠点避難所及び拠点避難所の福祉避難者スペースで避難生活を送る可能性が高いため、拠点避難所においても災害時要配慮者に対応することができるよう運営訓練を実施していく必要があります。

3章 計画の体系

1. 計画体系図

基本構想

③さえあい ③かんじるぬくもり ③わがまちさかわ

重点目標

1. みんなが
笑顔で
暮らせるまち

2. みんなでつくる
自然豊かな
安心安全のまち

3. みんなが主役
地域おこして
元気なまち

活動目標

（1）地域社会みんなで支え合おう
（2）健康長寿をめざそう

（1）美しい自然いっぱいのまちにしよう
（2）地域をよく知り災害に強いまちにしよう
（3）安心して暮らせるまちにしよう

～あなたが好きこのまちが好き～
（1）みんなが魅力あふれるまちにしよう
～子どもの元気がみんなの元気～
（2）子どもが夢をもてるまちにしよう

2 重点目標・活動目標と具体的な取り組み

重点目標1 みんなが笑顔でくらせるまち

- 活動目標 （１）地域社会みんなで支え合おう
（２）健康長寿をめざそう

地域での取り組み

佐 川	○つながり深める交流の機会づくりと拡大 ◆夢まちランドの交流を通じ、相互の助け合い気運の醸成をはかる ◆集落ごとの交流の場づくり ○みんなが笑顔で暮らせる地域づくり ◆みんなのあったかふれあいセンターの充実 ◆気軽に相談し合える環境づくり
斗賀野	○安心して暮らせる地域をつくる ◆近所づきあいを大切にしよう ◆あったかふれあいセンターを核として地域のネットワークを強め支え合おう ○健やかなところと体をつくる ◆適度な運動をし、年に１回は健診を受けよう ◆規則正しい生活習慣を身につけよう ◆積極的に集いの場に参加しよう
尾 川	○生活支援の仕組みづくり ◆助け合いの仕組みづくり ○健康づくり ◆仲間と楽しく運動しよう ◆たいこ岩で心も体もリフレッシュ
黒 岩	○だれもが安心してくらせる住みよい地域づくり ◆元気で明るくつながりのある地域 ◆みんながいきいきと活躍できる地域 ○集落活動センターを拠点とする地域活動の活性化 ◆地域住民による施設利活用の拡大

地域での取り組み

加 茂	○みんなの暮らしを守る ◆高齢者への見守り声掛け生活支援 ○人づくり・交流 ◆加茂の里を核とした地区内交流 ◆女性のネットワークを広げよう ◆みんなで楽しむ世代間のつながり ◆ウォーキング活動の活性化 ○健康づくり ◆地域住民による健康づくりの取り組み
-----	---

町社会福祉協議会の役割

- ◆生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）を中心に地域住民同士で生活課題を解決できるような仕組みやプロセスを「みんなで福祉のまちづくり委員会」及び「地区部会」の中で確立できるよう支援を行います。また、お隣近所での信頼関係・協力関係が希薄にならないよう、引き続き防災となり組の提案をしていきます。
- ◆あったかふれあいセンターや集落活動センター、様々な団体と連携し世代間交流が取り組まれるようサポートやマッチングを行います。
- ◆誰もが安心して集える居場所づくり、その人の経験、知恵や技術を活かした出番づくりを通して、誰もがいきいきと輝く健康長寿のまちを目指していきます。

町（行政）の役割

- ◆あったかふれあいセンターや集落支援員、民生児童委員、生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）と連携し、地域の拠点である「あったかふれあいセンター」が行っている集いや生活支援、つなぎ等の機能充実を図るなど、住民みんなで助け合い支え合える体制づくり・仕組みづくりに取り組みます。
- 高齢者や障害者、子育て世代等ライフステージや生活課題に応じた総合的な相談体制の構築に努めます。
- ◆地域の生活課題等をテーマとする各種講座・講演会を開催し、住民の福祉に対する理解と関心を深め、地域で共に支え合う意識を高める機会づくりを推進します。
- ◆住民のみなさんが主体的に健康づくりに取り組み、健康長寿をめざすよう、健康づくりに関する情報発信を積極的に行い、健康増進に努めます。
- ◆生活習慣病の発症や重症化予防を推進するとともに、健康寿命の延伸や健康格差の縮小のために、健康無関心層に対する健康づくりに関するアプローチや、生活習慣病などの疾病予防対策を一体的に実施します。
- ◆健康長寿のまちづくりを目指して、さくらスポーツクラブや佐川町食生活改善推進協議会などの関係団体や学校、職域、地域、関係機関などと協働し、若い世代からの運動習慣の定着や健全な食習慣の確立など、地域と一体となった健康づくりを推進します。

重点目標2 みんなでつくる自然豊かな安心安全のまち

- 活動目標 （1）美しい自然いっぱいのまちにしよう
 （2）地域をよく知り災害に強いまちにしよう
 （3）安心して暮らせるまちにしよう

地域での取り組み

佐 川	○みんなが笑顔で暮らせる地域づくり ◆安心して住める場所づくり ○子育てしやすく若者が愛着をもてる地域づくり ◆みんなが誇れる自然を守ろう
斗賀野	○ゆたかな自然をまもりつなげる ◆田園風景をいつまでも守っていこう ◆ホタルが住みつくきれいな川にしよう ◆地域の植生と山野草を守っていこう ○安心して暮らせる地域をつくる ◆近所づきあいを大切にしよう ○防災活動を充実させる ◆自主防災組織の活性化を進めよう ◆発災時に生かせる防災訓練や防災学習を定期的の実施しよう
尾 川	○生活支援の仕組みづくり ◆助け合いの仕組みづくり ○地域の活性化 ◆地域文化・自然の継承
黒 岩	○だれもが安心してくらせる住みよい地域づくり ◆元気で明るくつながりのある地域 ○地域の自然や資源の活用 ◆山や川の保全と活用 ◆農業を守り農地の荒廃を防ぐ
加 茂	○地域の活性化 ◆バイカオウレンの自生地、群生地を守り続ける ◆農地を守り、生かす取り組み ○みんなの暮らしを守る ◆高齢者への見守り声掛け生活支援 ○防災・減災活動 ◆自主防災活動の充実

町社会福祉協議会の役割

- ◆防災となり組の組織化を通し、日頃から声掛け見守りあう地域づくりを提案していきま
す。そして、災害時には防災となり組のメンバー同士で安否の確認や必要な助け合いが
行える地域づくりを目指します。
- ◆南海トラフ巨大地震等の大規模災害発生後の被災住民の生活復旧等を支援する災害ボラ
ンティアセンターについても、毎年訓練を重ねて万一の災害に備えていきます。
- ◆生活課題や地域のお困りごとなどについて、隣近所、自治会、小学校区、全町のレベルで
それぞれキャッチし、関係機関への連携や支えあい組織で解決できる仕組みづくりの支
援を行うとともに、多様な生活課題に対応するため、社協内および関係機関との連携強
化をはかります。

町（行政）の役割

- ◆豊かな自然環境を次の世代に引き継ぐため、庁内関係課が連携し、生物多様性についての住
民や事業者の意識啓発を行うとともに、省エネ、農地保全、計画的な山林管理など、脱炭素
社会の実現に資する取り組みを推進します。
- ◆地域での防災訓練や防災学習を積極的に支援することで、自助・共助の力を養うとともに、
自主防災組織の設立及びその活性化を図ります。
- ◆避難行動要支援者名簿や個別計画書を整備・活用することにより、日頃からの声かけや見守
りができる地域づくりを推進し、あらゆる災害に備えた災害時要配慮者支援体制づくりに取り
組めます。
- ◆複合的な課題を抱えた人に対して、専門家等の助言を活用しながら、各相談支援機関や地域
住民、行政等が分野を超えて連携し、支援することができる総合的な相談支援体制を構築す
るなど、多機関連携による重層的な支援や地域づくりを推進します。
- ◆高齢者、障害のある人、子どもの権利擁護を推進します。
- ◆生活困窮者自立支援について、社会福祉協議会との協働により、生活や就労、医療などの横
断的支援体制づくりに努めます。
- ◆保護司会等と連携し、犯罪の起こりにくい地域づくりに取り組むとともに、交通・防犯教室
を開催し、防犯情報の提供や周知、啓発に努め、防犯意識の高いまちを目指します。

重点目標3 みんなが主役 地域おこしで元気なまち

活動目標 （1）～あなたが好きこのまちが好き～ みんなが魅力あふれるまちにしよう

活動目標 （2）～子どもの元気がみんなの元気～ 子どもが夢をもてるまちにしよう

地域での取り組み

佐 川	○つながり深める交流の機会づくりと拡大 ◆人が集まるイベント ○みんなが笑顔で暮らせる地域づくり ◆地域の後継者を育てる ◆IT 活用で情報発信 ○子育てしやすく若者が愛着をもてる地域づくり ◆世代間交流を促す取り組み ◆子育て支援 ◆みんなで声かけあって子どもの見守り ◆佐川の魅力をもっと知ろう（歴史・文化・人）
斗賀野	○安心して暮らせる地域をつくる ◆地域で子どもを育てよう ○元気なひとづくり・地域づくりをする ◆居場所と出番をかまえて生きがいつくりにつなげよう ◆集落活動センターを拠点に地域活動を充実発展させよう ◆空き家を活用して、移住を推進しよう ◆地域の文化・伝統を守ろう ◆子どもに豊かな体験を充実させていこう
尾 川	○地域の活性化 ◆祭りを通じた世代間交流の継続 ◆地域文化・自然の継承
黒 岩	○地域の自然や資源の活用 ◆旧中学校の活用方法を考える ◆黒岩の伝統やイベントの継承と活性化 ○集落活動センターを拠点とする地域活動の活性化 ◆あったかふれあいセンターの充実 ◆黒岩地区内の情報発信と共有 ◆黒岩いきいき応援隊の活動の強化と発展 ◆地域住民による施設利活用の拡大 ○だれもが安心してくらせる住みよい地域づくり ◆子育てしやすい環境づくり

地域での取り組み

加茂	○人づくり・交流 ◆空き家を活用した移住・定住の促進 ◆人材を見つけて、各種教室の開催 ◆後継者の育成 ○地域の活性化 ◆バイカオウレンの自生地・群生地を守り続ける ◆新しいビジネスの推進 ◆農地を守り、生かす取り組み
----	---

町社会福祉協議会の役割

- ◆お祭りやイベントなどを通して、自分のまちを好きになり大切にしていける心の醸成や、仲間づくりやお互いの協力関係が発展していくように、関係機関と連携して地域の祭りやイベントをバックアップできるネットワークづくりを目指していきます。
- ◆ボランティアセンターが実施するセカンドライフ夢追い塾などを通して人材を掘り起こし、関係機関と連携しつつ人に頼られる出番づくりを進めます。
- ◆社協だよりの発行や社協ホームページの更新や内容の見直しを通じて、地域福祉に関する情報を発信し、住民の地域福祉に対する理解を深めます。
- ◆子ども達のいきいきと健やかな育ちを地域ぐるみで応援するファミリーサポートセンターの運営や、おたすけ隊によるサンプロジェクトの支援なども継続し、子ども・保護者・地域が互いに感謝し故郷に誇りを持てる地域づくりを目指します。

町（行政）の役割

- ◆地域で開催する伝統行事やイベント等を子どもや若い世代に積極的に広報し、地域住民全体の関心を高めることにより、世代間交流の機会を創出します。
- ◆庁内関係課が連携し、地域や各分野での住民活動をサポートすることで、地域の担い手となる人材やコーディネート人材を増やします。
- ◆「集落活動センター」や「あったかふれあいセンター」の充実、地域の特色や地域資源を生かした住民主体の居場所づくり支援など、様々な世代の人が気軽に集うことのできる居場所の拡充を図るとともに、孤独・孤立感を抱える人や認知症高齢者、障害のある人等に対する居場所や活躍できる場の創出を推進します。
- ◆地域の宝である子ども達が健やかに育ち、多様な人間関係の中で生きる力をつけることができるよう、集落活動センター等が実施しているイベントや地域の取り組みを支援します。
- ◆子育て支援、教育の充実、住環境の整備、歴史・文化・自然の発信等、全庁的な移住・定住の取り組みを図り、人口減少対策を推進します。
- ◆子育て世代包括支援センターと子ども家庭総合支援拠点を再編し、妊産婦や子どもとその家庭すべてを対象とした「子ども家庭センター」を設置し、地域の関係主体とつながりながら、福祉、保健、教育等の関係機関と連携した包括的支援を行います。

3. みんなの心得

①さんかしよう

地域のイベントや活動
に積極的に参加しよう

②かんがえよう

何事も、相手の立場
で考えよう

③むをつくろう

友達や地域の「輪」で
「和」をつくろう

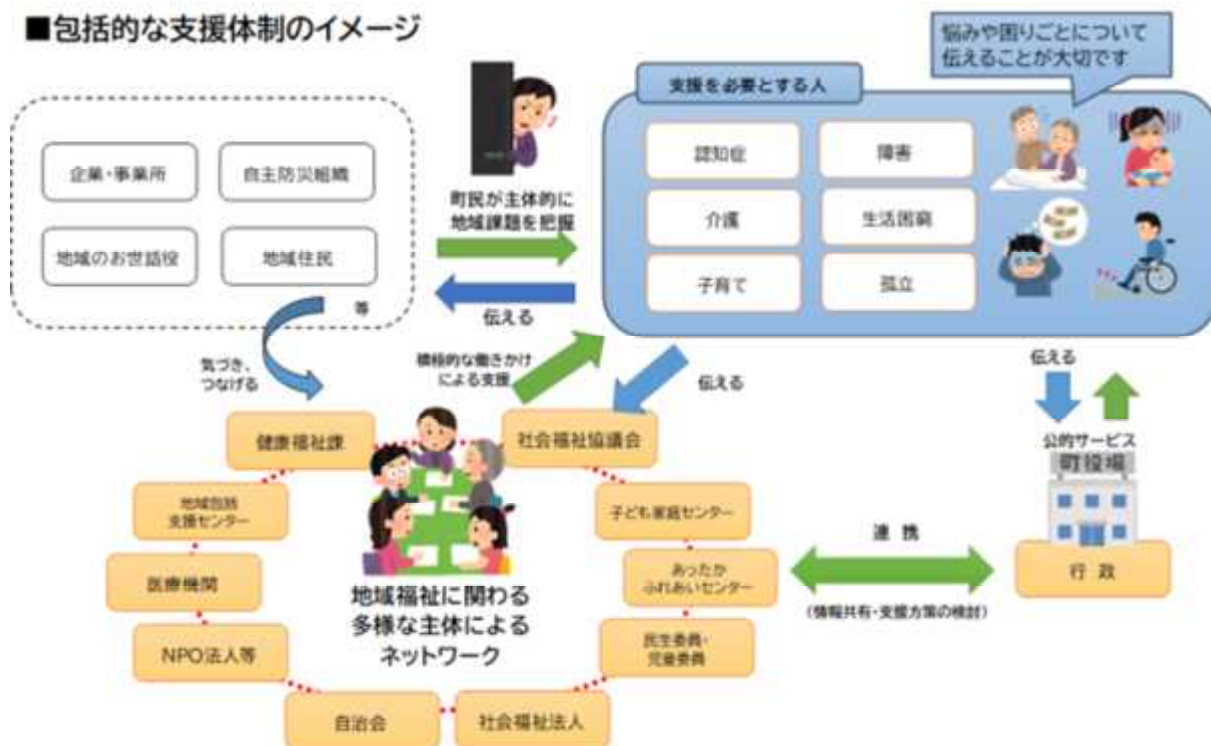
4. 包括的支援体制の整備

近年、高齢・障害・子ども・生活困窮等の複合的課題を抱える人や、制度の狭間にあり社会的孤立に陥っている人が増えており、こうした様々な町民を地域の中で包括的に支援する仕組みが求められています。

誰もが住み慣れた地域でいきいきと自分らしく生活を送ることができる地域共生社会の実現に向けて、地域、関係機関、団体、事業所等の連携を強化し、課題を複合的に抱える人や制度の狭間にある人に対し、迅速かつ適切な支援を行う必要があります。

また、複合的な支援を必要とする人は、自ら相談に行くことが難しい人や困難を抱えていること自体に気づいていない人等が多く、自発的な行動から支援につながりづらいことが予想されます。そのため、地域福祉に関わる多様な主体で構成されたネットワークの積極的な働きかけによる支援を行うとともに、地域住民が身近な関係性から主体的に地域課題を把握していく体制の構築を目指します。

■包括的な支援体制のイメージ



【施策の方向性】

①地域の見守り活動・支えあい活動のさらなる促進

自治会等の地域活動の活性化や、地域における見守り・支え合いの促進に努めるとともに、NPO・ボランティア団体等の活動促進と地域活動の拠点確保等により、誰もが支えあえる地域づくりを進めます。また、地域福祉のさらなる推進のため、社会福祉法人による地域貢献活動の促進、地域活動の担い手の確保や人材の育成に取り組みます。

②包括的な相談支援体制（重層的支援体制）の整備

支援を必要とする人が、相談できないまま孤独・孤立に陥ることがないように、複雑化・複合化する課題に対応できる相談体制の充実を図るとともに、地域、関係機関、団体、事業所等との協働のもと、参加支援、地域づくり支援に取り組みます。

③多様な課題を抱える人への支援

虐待やDV、自殺対策、生活貧困、子どもの貧困、ひきこもり、再犯防止等、これまでの支援制度では対応が難しい問題や制度の狭間にある8050問題やダブルケア、ヤングケアラー等に対し、公的な支援や関係機関との連携、地域のつながりにより、状況を把握し、早期対応に取り組みます。

【地域でできること】

みんなでやってみよう！

○不安や悩みは、一人で悩まずに身近なところに相談するようにしましょう。

○地域の人と顔の見える関係性を築き、いざという時に支えあえるようにしましょう。

○団体・企業等では、町民や従業員等の相談を受け、適切な支援につなげるように心がけましょう。

4章 各地区計画

佐 川 地 区 計 画

地区計画策定の背景

佐川地区では平成28年に結成された、さかわ夢まち協議会が住民拠点活動を拡充すべく、令和元年12月に非営利活動法人格を取得。翌令和2年度からは、あったかふれあいセンター夢まちの運営に着手し、住民活動と相まって重要な福祉拠点の構築ができたと言える。

しかしながら、住民のつながりの希薄化や関心の低下が懸念されていた中にコロナ禍が重なり、住民活動振興を大きく制限されてきた。

さかわ夢まち協議会が活動拠点を軸に、様々な団体組織と連携し、住民挙げての南海トラフへの備えや子育て支援、あったかふれあいセンター活動などを通して、人とひとがつながり、地域活動に関心を持ち、関わる人を増やししながら、みんなが笑顔で暮らせる地域づくりを推進する。

目指す姿・スローガン

人とひと つながれひろがれ 我が町さかわ

重点目標

○つながり深める交流の機会づくりと拡大

- ◆夢まちランドの交流を通じ、相互の助け合い気運の醸成をはかる
- ◆集落ごとの交流の場づくり
- ◆人が集まるイベント

○みんなが笑顔で暮らせる地域づくり

- ◆みんなのあったかふれあいセンターの充実
- ◆気軽に相談し合える環境づくり
- ◆安心して住める場所づくり
- ◆地域の後継者を育てる
- ◆IT 活用で情報発信

○子育てしやすく若者が愛着をもてる地域づくり

- ◆世代間交流を促す取り組み
- ◆子育て支援
- ◆みんなで声かけあって子どもの見守り
- ◆佐川の魅力をもっと知ろう（歴史・文化・人）
- ◆みんなが誇れる自然を守ろう



推進主体（地区部会）の発展・強化

- ・推進主体 さかわ夢まち協議会（みんなで福祉のまちづくり委員会佐川地区部会）
- ・関係組織 消防団佐川分団、自主防災組織、佐川地区自治会長会、佐川地区民生委員児童委員、福祉委員、佐川小中学校 PTA、保育園保護者会（若草、花園）、商工会（青年部・女性部含む）、くろがねの会、老人クラブ、百歳体操お世話人、ふれあいサロン協力員
- ・地域の拠点 さかわ夢まちランド、あったかふれあいセンター夢まち

夢まち探検隊



結いのつながり大作戦



夏休み親子教室



子ども応援事業



百歳体操



斗 賀 野 地 区 計 画

地区計画策定の背景

佐川町内の人口の約 25%を占める斗賀野地区は、町外からの移住も多く少子高齢化は徐々に進んでいるものの緩やかと言える。

虚空蔵山などに囲まれた盆地で自然に恵まれた静かな田園地帯が広がり、その地勢や気候を利用した水稻、ニラなどの農業が盛んな地区となっている。また、地区内にはJR斗賀野駅・襟野々駅があり、国道 494 号が地区の中心部を通るなど、交通の便は比較的よい。

平成 17 年に設立したNPO法人「とかの元気村」を中心とし、あったかふれあいセンターや集落活動センターでの地域活動が活発で、風土と合わせて、斗賀野地区に魅力を感じた町外からの転入者も多い。

比較的コミュニティ活動が活発な地域ではあるが、計画策定に当たって実施した地域のお世話役さんに対するアンケートによると、今後取り組むべき課題として、自主防災活動、地域コミュニティづくり、高齢者障害者への生活支援が上位にあがっており、地域の絆や人のつながりを大切にし、高齢者等へのお困りごとへの対応も必要だとの思いが現れている。また、自然環境、健康づくりに対する住民意識が高く、環境活動や介護予防・健康づくり活動なども盛んな地域でもある。

目指す姿・スローガン

近所づきあい たすけあい 笑顔つながる里づくり

重点目標

○ゆたかな自然をまもりつなげる

- ◆田園風景をいつまでも守っていこう
- ◆ホタルが住みつくきれいな川にしよう
- ◆地域の植生と山野草を守っていこう

○安心して暮らせる地域をつくる

- ◆近所づきあいを大切にしよう
- ◆あったかふれあいセンターを核として地域のネットワークを強め支え合おう
- ◆地域で子どもを育てよう

○健やかなこころと体をつくる

- ◆適度な運動をし、年に1回は健診を受けよう
- ◆規則正しい生活習慣を身につけよう
- ◆積極的に集いの場に参加しよう



○元気なひとづくり・地域づくりをする

- ◆居場所と出番をかまえて生きがいづくりにつなげよう
- ◆集落活動センターを拠点に地域活動を充実発展させよう
- ◆空き家を活用して、移住を推進しよう
- ◆地域の文化・伝統を守ろう
- ◆子どもに豊かな体験を充実させていこう

○防災活動を充実させる

- ◆自主防災組織の活性化を進めよう
- ◆発災時に生かせる防災訓練や防災学習を定期的に実施しよう

推進主体（地区部会）の発展・強化

- ・推進主体 あったか福祉推進協議会
 （みんなで福祉のまちづくり委員会斗賀野地区部会）
- ・関係組織 NPO法人とかの元気村、斗賀野地区自治会長会、斗賀野よさこいクラブ、斗賀野地区自主防災組織連絡会、とかの女子会、高知県農業協同組合斗賀野支所、JA女性部、（農）トピアとかの、斗賀野中央保育園保護者会、永野保育所後援会、斗賀野小学校PTA、町消防団斗賀野分団、サロン・百歳体操世話人、民生委員児童委員、福祉委員、その他当計画の推進に協力してくださる組織など
- ・地域の拠点 とかの元気村役場、あったかふれあいセンターとかの、集落活動センターあおぞらなど

たらふく秋祭り



敬老会



お助け大作戦



あったかふれあいセンター



わかもの交流会



尾川地区計画

地区計画策定の背景

尾川地区は、尾川地区活性化協議会が住民活動の牽引役として、秋祭りや桜祭りなど地域の関係団体との連携のもとつながりづくりを進めている。ただ佐川町の中でも最も高齢化率が高く、少子高齢化及び過疎化で顕著化する生活課題に、あったかふれあいセンターひまわりと共に取り組んでいる。

これら諸問題を解決するために、従来ある地域ぐるみのイベントでつながりづくりを行いつつ、様々な場面での仲間同士での健康づくりや、コロナ禍に誕生した草刈りレンジャーおいぼ連隊の隊員増強による助け合いの仕組みづくりの検討をすすめる。

目指す姿・スローガン

未来に夢を 明るい尾川

重点目標

- 生活支援の仕組みづくり
 - ◆助け合いの仕組みづくり
- 地域の活性化
 - ◆祭りを通じた世代間交流の継続
 - ◆地域文化・自然の継承
- 健康づくり
 - ◆仲間と楽しく運動しよう
 - ◆たいこ岩で心も体もリフレッシュ



推進主体（地区部会）の発展・強化

- ・推進主体 尾川地区活性化協議会
(みんなで福祉のまちづくり委員会尾川地区部会)
- ・関係組織 尾川地区自主防災組織連絡会、尾川地区部落長会
保育園保護者会・小中学校PTA、尾川分団
百歳体操 世話人、民生委員、福祉委員
あったかふれあいセンター運営委員会
みこしや、婦人防火クラブ
- ・地域の拠点 集落活動センターたいこ岩、あったかふれあいセンターひまわり

尾川ドリーム



ピザ焼き体験



尾川小・中学校運動会



おがわ秋祭り



おいぼ連隊による草刈り



あめごのつかみ取り



百歳体操



たいこ岩モーニング



黒岩地区計画

地区計画策定の背景

黒岩地区は、黒岩いきいき応援隊を中核に、特産品を生かした産業振興、伝統芸能や祭りの継承などの住民活動に加え、平成30年にあったかふれあいセンターくろいわの運営に着手。コロナ禍の中でも、住民挙げての黒岩文化祭の継続、新たな取り組みとして黒岩スカイラインの整備及びスカイラインを活用したウォーキングイベントの開催など、地域愛にあふれる活動を進めてきた。

一方では、人口減少、高齢化による生活課題の顕著化や地域活動の停滞、地域のつながりの脆弱化といった課題を抱えており、地域の将来に不安を感じている。

これら課題や目標を解決するために、集落活動センターやあったかふれあいセンターを拠点とした住民主体の取り組み等を通し、みんながつながり一体感と大きな和のある地域づくりを推進する。

目指す姿・スローガン

いきいき黒岩 和になろう

重点目標

○だれもが安心してらせる住みよい地域づくり

- ◆元気で明るくつながりのある地域
- ◆みんながいきいきと活躍できる地域
- ◆子育てしやすい環境づくり

○地域の自然や資源の活用

- ◆山や川の保全と活用
- ◆旧中学校の今後の活用方法を考える
- ◆農業を守り農地の荒廃を防ぐ
- ◆黒岩の伝統やイベントの継承と活性化

○集落活動センターを拠点とする地域活動の活性化

- ◆あったかふれあいセンターの充実
- ◆黒岩地区内の情報発信と共有
- ◆黒岩いきいき応援隊の活動の強化と発展
- ◆地域住民による施設利活用の拡大



推進主体（地区部会）の発展・強化

- ・推進主体 黒岩いきいき応援隊（みんなで福祉のまちづくり委員会黒岩地区部会）
- ・関係団体 自主防災組織、水害対策会議、消防団黒岩分団、黒岩中央保育所後援会会、黒岩小学校PTA、黒岩親の会、自治会長会、民生委員児童委員、福祉委員、イベント関係者、農業関係団体、百歳体操お世話人、黒岩中央保育所、黒岩小学校、その他当計画の推進にご協力くださる方
- ・地域の拠点 集落活動センターくろいわ、あったかふれあいセンターくろいわ

芋煮会



お弁当づくり



くろいわモーニング



お花見



黒岩ふれあい文化祭



ビアガーデン



歴史を訪ねるウォーキング



四ツ白の太刀踊り



加茂地区計画

地区計画策定の背景

加茂の里づくり会が一般社団法人格を取得し、住民活動の基盤がしっかり構築され、集落活動センターの指定管理やあったかふれあいセンターを受託し、飛躍的に地域づくり、地域福祉活動が進展したと言える。

しかし近年のコロナ禍、以前からの少子化、高齢化によるさまざまな地域活動の停滞や、地域担い手不足による課題が浮き上がってきている。

加茂の里づくり会と自治会が地域の将来を見据えて、課題解決のために新たに経済活動との連携も視野に入れ、地区住民とともに取り組みを積極的に進めていく必要がある。

目指す姿・スローガン

交流で つながる絆と 人づくり

重点目標

○人づくり・交流

- ◆加茂の里を核とした地区内交流
- ◆女性のネットワークを広げよう
- ◆みんなで楽しむ世代間のつながり
- ◆ウォーキング活動の活性化
- ◆空き家を活用した移住・定住の促進
- ◆人材を見つけて、各種教室の開催
- ◆後継者の育成

○地域の活性化

- ◆バイカオウレンの自生地・群生地を守り続ける
- ◆新しいビジネスの推進
- ◆農地を守り、活かす取り組み

○みんなの暮らしを守る

- ◆高齢者等への見守り声掛け生活支援

○健康づくり

- ◆地域住民による健康づくりの取り組み

○防災・減災活動

- ◆自主防災活動の充実



推進主体（地区部会）の発展・強化

- ・推進主体 加茂の里づくり会（みんなで福祉のまちづくり委員会加茂地区部会）
- ・関係団体 加茂地区自主防災組織連絡会、加茂地区自治会長会、保育園保護者会、小中学校PTA、消防団、環境を守る会、こじゃんとはたら来家さかわ、百歳体操世話人、民生委員、福祉委員、加茂地区教育委員会、その他協力くださる方及び組織
- ・地域の拠点 集落活動センター加茂の里、あったかふれあいセンター加茂の里

火文字祭り



バイカオウレン群生地作業



門松づくり



えいかも助け合い



バイカオウレン子どもガイド



5章 佐川町再犯防止推進計画

1. 計画策定の趣旨

刑法犯の認知件数が減少傾向にある一方で、検挙人員に占める再犯者の比率（再犯者率）が約 50%に及ぶなど、安心して安全に暮らせる地域社会の実現に向け、「再犯」をどのように防ぐかが重要課題となっています。

このような中、平成28年12月に「再犯の防止等の推進に関する法律」が施行され、再犯の防止等にかかる国及び地方公共団体の責務が明らかにされるとともに、必要となる施策を総合的かつ計画的に推進していくための基本事項が示されています。

そして、平成29年12月には国が「第一次再犯防止推進計画」、令和5年3月に「第二次再犯防止推進計画」を策定し、高知県においても平成31年3月に「高知県再犯防止推進計画」が策定されました。

本町においては、この項目を再犯の防止等の推進に関する法律第八条に基づく「佐川町再犯防止推進計画」として位置付け、高吾保護区保護司会に所属する越知町、仁淀川町及び地域の関係機関や民間団体等の連携・協力により、犯罪をした者等が立ち直るよう支援し、安全で安心して暮らせる社会の実現に向け、再犯防止施策の推進に取り組みます。

2. 現状と課題

本町では、犯罪や非行をした人の立ち直りを地域で支援する保護司会などの活動により、犯罪や非行をした人が地域で円滑な社会生活を営めるよう支援しています。

犯罪や非行をした人の中には加齢や障害、疾病、困窮など様々な課題を抱えている人が少なくなく、これらの人が孤立せずに町民の理解と協力を得ながら円滑に地域社会の一員として生活していく（「住居を定める」、「収入を得る」等）ことができれば、犯罪等を未然に防ぎ、安全で安心して暮らせるまちづくりの実現につながります。

そのためには、行政、刑事司法関係機関、保護司会等を中心とした更生保護に関わる団体等が連携し、犯罪や非行をした人が再び社会の一員となることができるよう支援していく必要があります。

3. 基本方針

地域住民の理解と協力を得ながら、地域社会で孤立させないようにすることで再犯の防止につなげ、犯罪や非行のないまちを目指します。

町の主な取り組み

①社会を明るくする運動

保護司会と協力して、強調月間である7月に、犯罪や非行の防止と犯罪や非行をした人たちの更生について理解を深めるよう、町広報への掲載や、広報車による啓発活動など「社会を明るくする運動」を推進します。

また、同月は再犯の防止等の推進に関する法律による再犯防止啓発月間でもあり、社会全体で再犯防止に取り組む機運の醸成を図ります。

②生活困窮者自立支援

生活困窮者に対しては、佐川町社会福祉協議会を中心とし、生活困窮者自立支援制度等の活用や、関係機関との連携を行い、相談や就労支援、フードバンクにおける食料品や衣類等の生活支援など、各種支援を行います。

再犯防止を効果的に行うために、犯罪や非行をした人に経歴や心身の状況、家庭環境や経済的状況などの特性を把握した上で、支援関係機関等がこれらの特性に応じて行う指導等に関して情報共有を行い、役割を分担しながら取り組みます。

③非行防止の啓発

補導育成センターにおいて学校、地域、警察などの関係機関と連携して青少年の見守り活動を行い、青少年の非行防止と健全な育成のため、愛の輪、地域の輪を広げていきます。

④薬物及び各種依存からの回復支援

医療、福祉、司法の関係機関や薬物等依存自助グループ等の関係機関と連携を図りながら、本人や家族への支援を推進します。

また、児童・生徒が薬物等の乱用による健康への害について正しく理解するため、健康教育を推進します。

⑤学校等と連携した支援

スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを積極的に活用するとともに、児童相談所、佐川町保護司会、佐川町地域支援ネットワーク等との連携を取り、いじめや不登校への対応等、相談支援体制の充実を図ります。

また、矯正施設等から地域に戻り、復学する児童・生徒がいる場合は、学校ごとに適切に教育を受けられる環境を整えるなどの配慮を行います。

⑥更生ボランティアへの支援

更生保護や犯罪・非行の防止に携わる保護司会などの活動を支援するとともに、各種団体等の活動を周知し、担い手確保の支援を行います。

地域でできること

①地域全体で犯罪や非行の防止と犯罪からの立ち直りを支える意識を持ちましょう。

②犯罪や非行防止と立ち直りを支える取組である「社会を明るくする運動」への理解を深めましょう。

③保護司、保護司会、BBS会、協力雇用主などの更生保護ボランティア活動に理解を深め、その活動に参加・協力しましょう。

【保護司会とは】

保護司は、法務大臣が委嘱する更生保護のボランティアで、犯罪や非行をした人の立ち直りを助けるとともに、犯罪予防の活動に取り組み、地域の安全安心に貢献しています。

本町は、越知町、仁淀川町との3町で高吾保護区保護司会を結成しており、令和5年12月現在で29名が保護司として活動しています。

【保護司の主な活動】

- ①保護観察になった人への助言や指導、面談等
- ②刑務所や少年院など（矯正施設）の入所者の、出所後の生活環境等の調整
- ③地域での犯罪予防の啓発活動

【社会を明るくする運動とは】

法務省が主唱する「社会を明るくする運動」は、すべての国民が犯罪や非行の防止と、罪を犯した人々の改善更生についての理解を含め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない地域社会を築こうとする全国的な運動です。毎年7月は強調月間として様々な啓発活動を行っています。

第6章 計画推進体制

1. 推進体制

計画を推進するためには、地域住民、様々な団体、社会福祉協議会、行政が協働し、この地域では何が必要か話し合い、地域の合意と関係機関の協力のもと、スクラムを組んで活動を進めていくことが必要です。

その話し合いをする場（組織）が、下記の「みんなで福祉のまちづくり委員会」、「みんなで福祉のまちづくり地区部会」及び「専門部会」であり、それぞれの組織が互いに連携しながら計画を推進していきます。

2. みんなで福祉のまちづくり委員会

この委員会では、佐川町全体の計画について進行管理を行います。

計画の進捗状況の把握や評価をPDCAサイクル（計画→実行→評価→改善）により実施するとともに、町全体の取り組みについての検討・実施、各地区部会・専門部会の取り組み支援などを話し合います。

全体計画の各年度における取組方針や進捗評価などを話し合う定例総会を年1回開催するとともに、必要に応じて臨時の会議を開催します。

3. みんなで福祉のまちづくり地区部会

地区（佐川・斗賀野・尾川・黒岩・加茂）毎の活動について検討・実施する部会です。

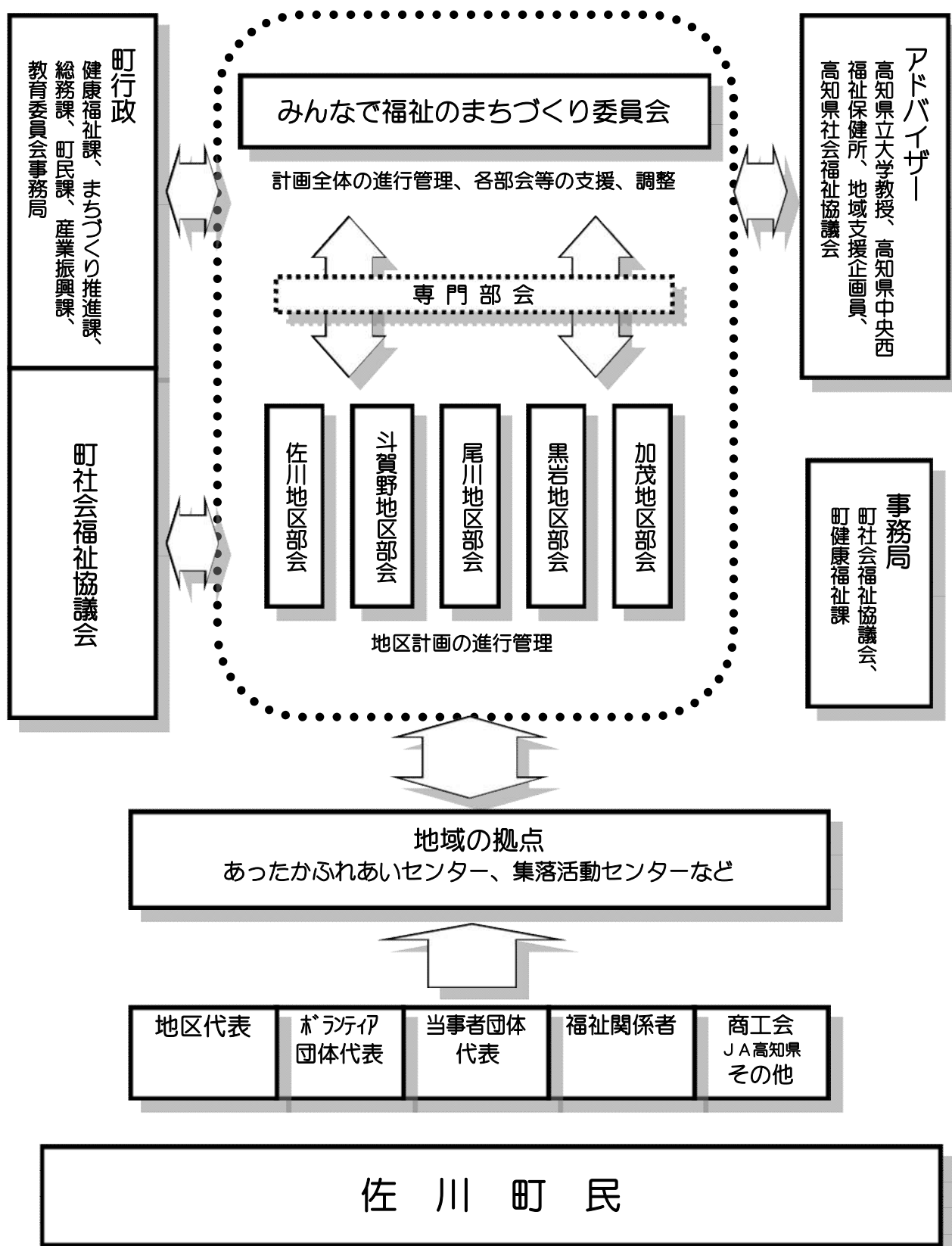
地区部会は、地区計画の推進主体として、地域の拠点であるあったかふれあいセンターや集落活動センター、関係団体や地区内の自治会との連携・調整を図り、地区計画の進行管理を行います。また、町全体計画に基づく地区内の活動にも取り組みます。各地区で活動している団体や個人により構成し、年数回程度、各地区の実情に合わせた形で会議（話し合い）を行います。会議には必要に応じて、事務局及び町行政・町社会福祉協議会の職員も同席し、地域と行政・社会福祉協議会が一体となって地区計画の取り組みを推進します。

4. 専門部会

地区を越えた同一の分野で必要に応じて専門部会を設置し、課題について検討・実施を行う部会です。

専門部会は、特定の課題について地区の中だけでは解決が難しいようなものやその他必要に応じて設置し、関係者等が集まって課題に取り組みます。

【推進体制図】



資料編

1. 令和5年度地域お世話役さん対象アンケート調査結果

※（ ）の数字は、平成29年度第3次計画策定にかかる調査時の数値

調査票配布依頼 427名（前回：461名）
 令和5年6月1日発送 6月14日締め切り
 郵送依頼 郵送返信
 回収 288名 回収率 67.4%（前回：回収 344名 回収率 74.6%）

※今回アンケートでは、サロンの協力員さんも対象に含めたことから、配布依頼した人数が大幅に増加した。

Q1 自分が住んでいる「地域」という場合に、どの程度の範囲をイメージされますか。最も近いもの1つを選んで□に印をつけてください。	合計（人）	%					
		全体	佐川	斗賀野	尾川	黒岩	加茂
① 隣近所	17 (33)	6% (10%)	7% (9%)	5% (10%)	4% (10%)	7% (15%)	0% (4%)
② 自治会内の班	26 (36)	9% (10%)	11% (14%)	10% (12%)	0% (3%)	9% (0%)	6% (9%)
③ 自治会	83 (93)	29% (27%)	38% (36%)	22% (19%)	13% (30%)	30% (17%)	28% (30%)
④ 近隣のいくつかの自治会	40 (60)	14% (17%)	9% (13%)	16% (17%)	13% (30%)	16% (22%)	28% (22%)
⑤ 小学校区	84 (77)	29% (22%)	15% (10%)	37% (30%)	58% (27%)	32% (39%)	28% (22%)
⑥ 佐川町全域	28 (36)	10% (10%)	14% (16%)	7% (8%)	13% (0%)	5% (5%)	11% (13%)
⑦ わからない	5 (0)	2% (0%)	2% (0%)	2% (0%)	0% (0%)	2% (0%)	0% (0%)
回答なし	5 (9)	2% (3%)	4% (2%)	1% (4%)	0% (0%)	0% (2%)	0% (0%)

Q2 あなたの住む地域を教えてください。ひとつ選んで□に印をつけてください。

- ☐ 佐川地区 110人 (135人)
☐ 斗賀野地区 92人 (115人)
☐ 尾川地区 24人 (30人)
☐ 黒岩地区 44人 (41人)
☐ 加茂地区 18人 (23人)

※以降のアンケートで「あなたの住む地域」とはあなたの住む小学校区でお考えください。

Q3 ここ4～5年、あなたの住む地域の住み心地として最も近いものを1つ選んで□に印をしてください。	合計 (人)	%					
		全体	佐川	斗賀野	尾川	黒岩	加茂
非常に住みやすくなった	10 (17)	3% (5%)	5% (7%)	4% (2%)	0% (3%)	0% (7%)	6% (4%)
やや住みやすくなった	48 (53)	17% (1%)	16% (13%)	21% (18%)	17% (19%)	9% (17%)	17% (17%)
以前と変わらない	181 (209)	63% (61%)	56% (63%)	63% (62%)	75% (70%)	68% (49%)	72% (52%)
やや住みにくくなった	45 (54)	16% (16%)	21% (15%)	12% (15%)	4% (10%)	23% (22%)	0% (22%)
非常に住みにくくなった	1 (1)	0% (0%)	0% (0%)	0% (0%)	0% (0%)	0% (0%)	6% (4%)
わからない	3 (8)	1% (2%)	2% (1%)	0% (3%)	4% (3%)	0% (5%)	0% (0%)
回答なし	0 (2)	0% (1%)	0% (1%)	0% (1%)	0% (0%)	0% (0%)	0% (0%)

Q4 ここ4～5年、あなたの住む地域の安心度として最も近いものを1つ選んで□に印をしてください。	合計 (人)	%					
		全体	佐川	斗賀野	尾川	黒岩	加茂
非常に安心になった	10 (14)	3% (4%)	4% (8%)	5% (1%)	0% (3%)	2% (2%)	0% (0%)
やや安心になった	42 (53)	15% (15%)	14% (14%)	16% (17%)	17% (13%)	7% (15%)	28% (17%)
以前と変わらない	189 (216)	66% (63%)	64% (59%)	65% (66%)	79% (63%)	66% (66%)	61% (65%)
やや物騒になった	37 (39)	13% (11%)	15% (13%)	8% (10%)	4% (7%)	23% (7%)	11% (17%)
非常に物騒になった	1 (0)	0% (0%)	0% (0%)	0% (0%)	0% (0%)	2% (0%)	0% (0%)
わからない	2 (6)	1% (2%)	1% (1%)	1% (2%)	0% (3%)	0% (5%)	0% (0%)
回答なし	7 (16)	2% (5%)	3% (5%)	4% (3%)	0% (10%)	0% (5%)	0% (0%)

Q5 ここ4～5年、あなたの住む地域の活気として最も近いものを1つ選んで□に印をしてください。	合計 (人)	%					
		全体	佐川	斗賀野	尾川	黒岩	加茂
かなり活気がでてきた	12 (15)	4% (4%)	5% (1%)	7% (8%)	4% (3%)	0% (5%)	0% (9%)
やや活気がでてきた	43 (94)	15% (27%)	17% (21%)	16% (28%)	8% (27%)	7% (46%)	22% (30%)
以前と変わらない	90 (101)	31% (29%)	30% (35%)	37% (29%)	33% (30%)	25% (17%)	22% (22%)
やや活気が無くなってきた	107 (83)	37% (24%)	36% (24%)	30% (26%)	38% (27%)	48% (15%)	50% (30%)
かなり活気が無くなってきた	28 (31)	10% (9%)	8% (14%)	5% (5%)	17% (0%)	20% (10%)	6% (9%)
わからない	1 (3)	0% (1%)	1% (1%)	0% (1%)	0% (3%)	0% (0%)	0% (0%)
回答なし	7 (17)	2% (5%)	3% (5%)	4% (3%)	0% (10%)	0% (7%)	0% (0%)

※Q6については、新規の質問ですが、第3期も地域の犯罪についての質問であったため、参考までに前回数値を記載しています。

Q6 ここ4～5年、あなたの住む地域で家屋の点検等を理由に高額な請求を求められるなどの消費者被害がありますか？ひとつ選んで□に印をしてください。	合計 (人)	%					
		全体	佐川	斗賀野	尾川	黒岩	加茂
ある	21 (43)	7% (13%)	6% (8%)	10% (13%)	4% (10%)	5% (22%)	11% (22%)
ない	179 (220)	62% (64%)	68% (71%)	53% (61%)	71% (73%)	64% (41%)	56% (65%)
わからない	81 (64)	28% (19%)	23% (15%)	33% (23%)	25% (7%)	32% (32%)	33% (13%)
回答なし	7 (17)	2% (5%)	3% (6%)	4% (3%)	0% (10%)	0% (5%)	0% (0%)

Q7 ここ4～5年、あなたの住む地域のご近所づきあいについて、最も近いものを1つ選んで□に印をつけてください。	合計 (人)	%					
		全体	佐川	斗賀野	尾川	黒岩	加茂
かなり増えてきた。	9 (14)	3% (4%)	3% (5%)	2% (3%)	0% (7%)	7% (0%)	6% (4%)
やや増えてきた。	45 (72)	16% (21%)	17% (19%)	17% (24%)	25% (13%)	2% (20%)	17% (26%)
以前と変わらない。	112 (159)	39% (46%)	41% (47%)	37% (46%)	46% (50%)	32% (41%)	44% (43%)
やや減ってきた。	89 (60)	31% (17%)	28% (18%)	29% (15%)	25% (10%)	48% (29%)	22% (17%)
かなり減ってきた。	20 (19)	7% (6%)	5% (4%)	8% (5%)	0% (10%)	11% (5%)	11% (9%)
わからない。	6 (2)	2% (1%)	3% (1%)	2% (1%)	4% (0%)	0% (0%)	0% (0%)
回答なし	7 (18)	2% (5%)	3% (5%)	4% (5%)	0% (10%)	0% (5%)	0% (0%)

Q8 あなたの地域の住民の方の地域への関心度合いとして、最も近いものをひとつ選んで□に印をしてください。	合計 (人)	%					
		全体	佐川	斗賀野	尾川	黒岩	加茂
とても関心が高い	13 (14)	5% (4%)	3% (4%)	4% (6%)	0% (0%)	7% (2%)	17% (4%)
やや関心がある	123 (169)	43% (49%)	45% (45%)	51% (50%)	25% (63%)	36% (51%)	28% (48%)
あまり関心がない	117 (128)	41% (37%)	40% (40%)	29% (35%)	63% (27%)	48% (37%)	56% (48%)
非常に関心がない	8 (3)	3% (1%)	3% (1%)	3% (1%)	0% (0%)	5% (0%)	0% (0%)
わからない	20 (12)	7% (3%)	7% (3%)	8% (5%)	13% (0%)	5% (5%)	0% (0%)
回答なし	7 (18)	2% (5%)	3% (7%)	4% (3%)	0% (10%)	0% (5%)	0% (0%)

Q 9 あなたの地域で行事が行われるときの住民の参加状況について最も近いものを一つ選んで□に印をしてください。	合計 (人)	%					
		全体	佐川	斗賀野	尾川	黒岩	加茂
積極的に参加する	22 (23)	8% (7%)	7% (7%)	14% (7%)	0% (3%)	2% (7%)	0% (4%)
どちらかという と積極的に参加する	123 (150)	43% (44%)	35% (38%)	47% (46%)	50% (57%)	41% (49%)	61% (39%)
あまり積極的に参加しない	124 (152)	43% (44%)	49% (50%)	33% (40%)	46% (33%)	52% (37%)	33% (57%)
全然参加が望めない	9 (4)	3% (1%)	5% (0%)	1% (3%)	4% (0%)	2% (0%)	6% (0%)
わからない	7 (8)	2% (2%)	4% (2%)	2% (2%)	0% (0%)	2% (7%)	0% (0%)
回答なし	3 (7)	1% (2%)	0% (2%)	3% (2%)	0% (7%)	0% (0%)	0% (0%)

Q 10 あなたの地域に住んでいる人は、お互いに助け合って生活していると思いますか。最も近いものを一つ選んで□に印をしてください。	合計 (人)	%					
		全体	佐川	斗賀野	尾川	黒岩	加茂
日ごろから助け合っている	70 (93)	24% (27%)	24% (25%)	28% (29%)	25% (23%)	20% (37%)	17% (17%)
時には助け合っている	169 (193)	59% (56%)	55% (55%)	60% (52%)	63% (73%)	64% (56%)	56% (61%)
あまり助け合いはない	33 (39)	11% (11%)	15% (16%)	7% (10%)	13% (0%)	9% (5%)	17% (17%)
まったく助け合いはない	5 (5)	2% (1%)	3% (1%)	1% (3%)	0% (0%)	0% (0%)	6% (4%)
わからない	8 (8)	3% (2%)	3% (1%)	1% (4%)	0% (0%)	7% (2%)	6% (0%)
回答なし	3 (6)	1% (2%)	0% (2%)	3% (2%)	0% (3%)	0% (0%)	0% (0%)

Q 1 1 あなたの地域のボランティア活動への関心度について、最も近いものを一つ選んで□に印をしてください。	合計 (人)	%					
		全体	佐川	斗賀野	尾川	黒岩	加茂
関心度は高く積極的に参加する	19 (27)	7% (8%)	6% (5%)	11% (11%)	0% (3%)	2% (12%)	6% (4%)
まずまず関心があり、条件がそろえば参加する	127 (131)	44% (38%)	38% (37%)	52% (35%)	50% (33%)	41% (44%)	39% (57%)
関心はほどほどで、誘われたら参加する	103 (135)	36% (39%)	39% (42%)	25% (39%)	38% (50%)	43% (29%)	50% (26%)
あまり関心が無く、誘われても参加が望めない	27 (35)	9% (10%)	14% (12%)	5% (8%)	13% (10%)	9% (12%)	0% (9%)
わからない	8 (11)	3% (3%)	2% (2%)	3% (5%)	0% (0%)	5% (2%)	6% (4%)
回答なし	4 (5)	1% (1%)	1% (1%)	3% (2%)	0% (3%)	0% (0%)	0% (0%)

Q 1 2 お住まいの地域で住民同士の信頼感や助け合い意識を高めるためには、どのようなきっかけがあれば効果的だと思いますか。大切だと思うものを3つまで選び□に印をしてください。	合計 (人)	%					
		全体	佐川	斗賀野	尾川	黒岩	加茂
自治会単位などでのお祭りなど親睦の機会をつくる。	123 (152)	16% (16%)	14% (13%)	20% (16%)	24% (27%)	10% (21%)	17% (15%)
趣味を通じたサークル活動を増やす。	36 (68)	5% (7%)	4% (8%)	5% (6%)	7% (6%)	4% (7%)	8% (10%)
運動会などのイベントを行う。	89 (59)	12% (6%)	8% (2%)	13% (8%)	12% (1%)	12% (13%)	26% (16%)
地域の公園や道路の管理を共同で行う。	59 (110)	8% (12%)	7% (11%)	7% (14%)	10% (19%)	10% (6%)	6% (11%)
防災など地域の問題解決に向けて一緒に取り組む。	118 (176)	15% (19%)	18% (18%)	12% (26%)	10% (9%)	18% (14%)	17% (11%)
身近なテーマについて学べる講習会等を行う。	25 (38)	3% (4%)	4% (3%)	3% (5%)	0% (3%)	2% (4%)	4% (7%)
地域の高齢者や子どもの見守りを一緒にやる。	94 (110)	12% (12%)	16% (14%)	11% (13%)	10% (10%)	11% (7%)	6% (7%)
普段からあいさつや声かけを行う。	199 (191)	26% (21%)	27% (29%)	26% (8%)	24% (23%)	30% (27%)	17% (21%)
わからない。	13 (14)	2% (2%)	1% (1%)	2% (3%)	1% (0%)	4% (1%)	0% (2%)
その他（新項目）	3	0%	0%	0%	0%	1%	0%
回答なし	5 (6)	1% (1%)	1% (1%)	1% (1%)	0% (1%)	0% (0%)	0% (0%)

Q 1 3 地域でのあなたのご所属は下記のどれに当てはまりますか。該当するものに□に印をつけてください。(該当するものが複数ある場合は、全てに印をお願いします。)また、ご所属における継続年数で該当するものを1つ選び、□に印をしてください。	合計 (人)	%					
		全体	佐川	斗賀野	尾川	黒岩	加茂
自治会長	81 (89)	16% (17%)	19% (18%)	11% (16%)	21% (17%)	19% (17%)	13% (22%)
自主防災組織代表者	71 (64)	14% (12%)	17% (15%)	11% (11%)	10% (15%)	16% (8%)	16% (14%)
民生委員・児童委員	53 (47)	11% (9%)	11% (10%)	10% (8%)	10% (9%)	12% (15%)	6% (3%)
福祉委員	55 (73)	11% (14%)	12% (18%)	11% (13%)	10% (9%)	12% (13%)	3% (11%)
ふれあいサロン	43 (76)	9% (15%)	13% (20%)	10% (17%)	0% (2%)	4% (8%)	0% (3%)
百歳体操お世話役	36 (50)	7% (10%)	6% (8%)	10% (14%)	8% (6%)	3% (8%)	10% (6%)
あったかふれあいセンター	29 (9)	6% (2%)	6% (1%)	5% (4%)	8% (2%)	6% (0%)	3% (0%)
集落支援員	13 (6)	3% (1%)	1% (0%)	3% (2%)	3% (4%)	3% (2%)	10% (0%)
各地区地域づくり団体等	68 (71)	14% (14%)	8% (6%)	12% (10%)	26% (32%)	19% (25%)	26% (33%)
その他	32 (28)	6% (5%)	6% (5%)	8% (6%)	3% (4%)	4% (6%)	13% (8%)
未回答	19 (0)	4% (0%)	2% (0%)	9% (0%)	3% (0%)	1% (0%)	0% (0%)

Q 1 4 -① あなたの年齢と性別を教えてください。年齢は数字を入れてください。	合計 (人)	%					
		全体	佐川	斗賀野	尾川	黒岩	加茂
男	148 (156)	51% (45%)	51% (46%)	41% (39%)	67% (57%)	57% (41%)	72% (65%)
女	125 (163)	43% (47%)	46% (47%)	49% (53%)	29% (27%)	41% (56%)	22% (30%)
回答なし	15 (25)	5% (7%)	3% (7%)	10% (8%)	4% (17%)	2% (2%)	6% (4%)

Q 1 4 -② あなたの年齢と性別を教えてください。年齢は数字を入れてください。 (回答者年齢構成)	合計 (人)	%					
		全体	佐川	斗賀野	尾川	黒岩	加茂
20 代	0 (2)	0% (1%)	0% (1%)	0% (1%)	0% (0%)	0% (0%)	0% (0%)
30 代	1 (5)	1% (2%)	0% (1%)	1% (3%)	0% (0%)	0% (2%)	0% (0%)
40 代	10 (17)	3% (5%)	3% (2%)	4% (9%)	8% (7%)	2% (5%)	0% (0%)
50 代	25 (22)	9% (6%)	9% (7%)	9% (6%)	4% (0%)	7% (7%)	17% (13%)
60～65 歳	26 (70)	9% (20%)	7% (20%)	10% (17%)	21% (27%)	5% (24%)	11% (22%)
66～70 歳	64 (74)	22% (22%)	24% (22%)	16% (18%)	21% (23%)	30% (24%)	28% (26%)
71～75 歳	63 (66)	22% (19%)	23% (19%)	15% (20%)	17% (23%)	34% (15%)	28% (22%)
76～80 歳	53 (46)	18% (13%)	21% (19%)	20% (10%)	21% (3%)	14% (12%)	6% (13%)
81～85 歳	21 (12)	7% (3%)	7% (3%)	9% (6%)	4% (0%)	7% (2%)	6% (0%)
86 歳以上	9 (2)	3% (1%)	4% (0%)	5% (1%)	0% (0%)	0% (2%)	0% (0%)
未回答	16 (28)	6% (8%)	3% (7%)	11% (10%)	4% (17%)	2% (5%)	6% (4%)

Q 1 5 あなたの職業に該当するもの1つに印をつけてください。	合計 (人)	%					
		全体	佐川	斗賀野	尾川	黒岩	加茂
公務員	10 (11)	3% (3%)	3% (4%)	4% (3%)	0% (3%)	0% (0%)	17% (0%)
団体職位（農協等）	13 (6)	5% (2%)	7% (0%)	3% (4%)	4% (0%)	2% (0%)	0% (4%)
会社員・役員	30 (37)	10% (11%)	10% (8%)	9% (13%)	8% (13%)	13% (15%)	17% (4%)
パート・アルバイト	26 (24)	9% (7%)	7% (5%)	10% (5%)	21% (20%)	7% (2%)	6% (17%)
自営業	41 (48)	14% (14%)	15% (13%)	11% (11%)	4% (10%)	26% (22%)	11% (22%)
家事専業	45 (62)	16% (18%)	14% (20%)	19% (19%)	17% (10%)	15% (22%)	11% (4%)
無職（元公務員）	28 (25)	10% (7%)	11% (7%)	11% (10%)	8% (0%)	4% (2%)	11% (13%)
無職（元団体職員）	14 (16)	5% (5%)	3% (5%)	7% (8%)	0% (0%)	9% (0%)	6% (0%)
無職（元会社員・役員）	45 (51)	16% (15%)	17% (16%)	13% (10%)	25% (17%)	11% (15%)	17% (26%)
無職（元パート・アルバイト）	7 (11)	2% (3%)	5% (4%)	1% (3%)	0% (3%)	2% (2%)	0% (0%)
無職（元自営業）	8 (13)	3% (4%)	5% (6%)	2% (2%)	0% (0%)	2% (7%)	0% (0%)
未回答	21 (40)	7% (12%)	4% (10%)	10% (10%)	13% (23%)	9% (12%)	6% (9%)

Q16 あなたのお住まいの地域では、地域として取り組むべき課題として、どのようなかあると思いますか。 大切に思うものを4つまで 選び□に印をつけてください。	合計 (人)	%					
		全体	佐川	斗賀野	尾川	黒岩	加茂
地域の防犯、治安、交通安全の向上	96 (125)	10% (12%)	13% (14%)	9% (11%)	13% (6%)	8% (10%)	3% (12%)
自主防災組織活動（防災・防火、災害時の対応）	138 (168)	15% (16%)	13% (18%)	16% (14%)	11% (17%)	17% (13%)	18% (14%)
高齢者・しょうがい者への支援（居場所づくり・買い物支援など）	126 (140)	13% (13%)	14% (11%)	13% (12%)	12% (17%)	13% (13%)	10% (19%)
介護予防・健康づくり	70 (99)	7% (9%)	8% (10%)	8% (8%)	7% (6%)	5% (8%)	6% (13%)
地域コミュニティづくり（住民同士の絆づくり）	123 (147)	13% (14%)	16% (14%)	13% (15%)	5% (11%)	11% (12%)	11% (10%)
自治会組織の活性化	75 (71)	8% (7%)	9% (8%)	9% (7%)	10% (3%)	5% (4%)	4% (5%)
子育ての支援、青少年の健全育成	30 (58)	3% (5%)	3% (5%)	4% (7%)	1% (4%)	1% (4%)	6% (5%)
人口減少対策（若者定住・結婚の機会づくり等）	94 (114)	10% (11%)	8% (8%)	9% (11%)	16% (19%)	11% (14%)	18% (6%)
地域の伝統芸能・祭りの継承や保存	47 (35)	5% (3%)	3% (2%)	6% (4%)	7% (4%)	7% (6%)	6% (0%)
地域の特産や産業振興等の地域おこし	30 (52)	3% (5%)	2% (1%)	2% (6%)	4% (9%)	5% (9%)	7% (5%)
ごみの減量、資源化、緑地保全・地域美化等の環境活動	34 (43)	4% (4%)	4% (4%)	3% (5%)	5% (2%)	3% (3%)	3% (3%)
スポーツ・文化活動の活性化	17 (18)	2% (2%)	2% (2%)	2% (1%)	1% (1%)	3% (1%)	0% (5%)
移動手段の確保（新項目）	63	7%	5%	7%	8%	10%	7%
その他	4 (6)	0% (1%)	0% (0%)	0% (1%)	0% (0%)	1% (1%)	1% (0%)
特に問題や課題はない	3 (7)	0% (1%)	0% (1%)	1% (1%)	0% (0%)	1% (0%)	0% (1%)

Q 1 7 地域でのあなたの 立場（役職）で課題に感じる ことは何ですか。下記で該当 するものすべてに印をつけ てください。（複数回答可）	合計 （人）	%					
		全体	佐川	斗賀野	尾川	黒岩	加茂
仕事等で忙しく役割を十分果たせない。	64 (87)	7% (8%)	6% (7%)	8% (8%)	11% (9%)	9% (11%)	2% (14%)
後継者がいない。	114 (117)	13% (11%)	10% (11%)	15% (11%)	17% (15%)	12% (10%)	15% (13%)
書類作成などが煩雑。	17 (32)	2% (3%)	2% (3%)	1% (3%)	2% (1%)	4% (5%)	2% (4%)
地域を知らない。	22 (34)	2% (3%)	3% (3%)	4% (4%)	2% (1%)	1% (2%)	2% (6%)
困ったときの相談先がない。	8 (13)	1% (1%)	1% (2%)	2% (1%)	0% (0%)	1% (1%)	0% (0%)
高齢化が進んで、活動が停滞している。	150 (134)	16% (13%)	15% (14%)	16% (12%)	20% (13%)	19% (14%)	19% (11%)
自治会に入らない人が増えている。	62 (58)	7% (6%)	9% (6%)	5% (6%)	2% (3%)	8% (8%)	6% (3%)
地域に関心のない人が増えている。	84 (109)	9% (11%)	10% (12%)	9% (10%)	8% (13%)	8% (9%)	12% (7%)
地域のつながりが弱くなっている。	144 (135)	16% (13%)	15% (13%)	16% (13%)	14% (11%)	17% (13%)	17% (13%)
話し合う機会がない。	63 (58)	7% (6%)	9% (5%)	7% (6%)	8% (5%)	4% (5%)	2% (6%)
地域の助け合いが少なくなっている。	62 (85)	7% (8%)	7% (8%)	6% (9%)	6% (10%)	7% (7%)	10% (6%)
取り組みを行うための予算が不足している。	21 (40)	2% (4%)	2% (2%)	2% (5%)	2% (5%)	3% (4%)	2% (6%)
個人情報保護が活動の障壁になる。	60 (69)	7% (7%)	7% (7%)	6% (6%)	9% (8%)	4% (7%)	10% (7%)
地域で人が集まる施設がない、または十分ではない。	21 (32)	2% (3%)	4% (5%)	1% (2%)	0% (4%)	1% (2%)	0% (0%)
活動を周知する方法がない。	5 (8)	1% (1%)	1% (1%)	0% (1%)	3% (0%)	0% (2%)	0% (0%)
その他	15 (23)	2% (2%)	1% (0%)	3% (4%)	0% (4%)	1% (3%)	2% (4%)

Q 1 8 あなたの役職上 感じる、地域の課題を克服 するために必要があると思 うことは何ですか。下記 の中から大切だと思うもの を3つまで選び□に印 をつけてください。	合 計 (人)	%					
		全 体	佐 川	斗 賀 野	尾 川	黒 岩	加 茂
後継者の育成。	114 (127)	17% (16%)	15% (17%)	17% (16%)	20% (14%)	13% (13%)	24% (19%)
若者の転入・定住。	75 (76)	11% (9%)	6% (6%)	10% (10%)	15% (18%)	18% (12%)	20% (1%)
高齢になっても元気で活動できる健康づくり・介護予防の取り組み。	111 (144)	16% (18%)	16% (17%)	19% (19%)	14% (21%)	14% (18%)	13% (15%)
地域の活動に予算をつける。	31 (43)	4% (5%)	4% (6%)	5% (4%)	5% (8%)	7% (5%)	2% (6%)
自治会組織への加入の徹底。	32 (47)	5% (6%)	6% (7%)	2% (6%)	3% (1%)	6% (8%)	4% (0%)
子どもの頃から地域に愛着や誇りを持てるような取り組み。	53 (84)	8% (10%)	9% (9%)	7% (12%)	5% (10%)	8% (12%)	7% (15%)
住民同士の仲がよくなる活動・取り組み。	97 (107)	14% (13%)	17% (17%)	15% (11%)	12% (11%)	12% (10%)	2% (11%)
世代間交流の取り組み。	56 (67)	8% (8%)	8% (7%)	9% (11%)	3% (7%)	9% (7%)	13% (8%)
行政と地域の人的物的連携・協働。	49 (53)	7% (7%)	7% (6%)	7% (6%)	12% (8%)	5% (7%)	4% (9%)
人が集まりやすい集会所などの整備。	21 (31)	3% (4%)	5% (6%)	1% (3%)	2% (0%)	3% (5%)	0% (2%)
地域お世話役さんの事務や活動を支援してくれるセンター設置、または、センターの機能の充実。	24 (25)	3% (3%)	3% (2%)	4% (4%)	2% (1%)	2% (5%)	7% (4%)
移動手段の確保(新項目)	23	3%	3%	3%	7%	4%	2%
その他(新項目)	4	1%	0%	1%	0%	1%	0%

佐川地区の方からのご意見

- ◆私の地区では、ゴミ収集場が減っています。高齢者（独居）の場合は、町で収集にきていただくようになっていますが、独居でない高齢者でも、自分で何とか近くに収集場所があれば持って行けます。できるだけ自分で持って行ける様に、近くにゴミを収集する場所を作って欲しいです。
（佐川地区80歳代女性）
- ◆（人が集まりやすい集会所などの整備）について 雑談おしゃべり会 特に女性のニーズは高い。
（佐川地区80歳代男性）
- ◆私達の集会場は古く川淵で危ない場所にあります。何とかならないでしょうか？防災（避難所）には適さないと思いますが。集会場は新丁です。（佐川地区70歳代女性）
- ◆地域の課題：人口減、高齢化、少子化 地域への思い：牧野富太郎など多くの偉人を育てた佐川町、なぜ偉人を輩出してきた町なのか、全てのことが重なり合って今の佐川町があると思います。今一度、その背景を探り次の世代につなげたいものです。 将来の地域増：お年寄りが最後まで元気でいられる町。子ども達が佐川で生まれて良かったと思える町。 取り組み：世代間交流が出来る（伝承）活動。学問の町の復活。地域おこしとして人々を呼び込めるような町全体の観光資源化（地形・地質・植物・人々の生活のかかわり） 要望：しっかりとしたアクションプランの策定と実行 課題と夢に向けて！！（佐川地区60歳代男性）
- ◆Q17：行政職員の自治会活動への考えに積極性がない。地域協力隊の人達も感心が少ない。（自治会への働きかけが必要）・アパート住民にも転入の時に役場、アパート管理人にも要請を強めてほしい（佐川地区80歳代男性）
- ◆若者の定住 ①通勤圏域（高知市）への時間の短縮＝33号線のバイパス ②企業の誘致 ③一次産業の活性化、6次産業まで。（佐川地区80歳代男性）
- ◆高齢化による家庭数の減少。それによる労働力の低下。（佐川地区70歳代男性）
- ◆防災への取り組み（避難訓練）災害がおきた時のシミュレーションをしておく。（不安に思う）高齢者が多いので。（佐川地区50歳代男性）
- ◆お世話になっています。地域のことに不慣れで十分な回答にならずすみません。
（佐川地区60歳代女性）
- ◆自治会をしっかりと組織にすることを行政として考えてほしい。（佐川地区70歳代男性）
- ◆年寄りのくせに用事をかかえていて、めったにない会（見守り）にも都合が悪い日が多くて申し訳なく思っています。中々、代わりも居ないだろうとするずるっていますが、きちんとした方が居たら首にして下さると町の方々にもよろしかろうと・・・。（佐川地区70歳代男性）
- ◆地域共生社会が叫ばれて久しいですが、理念倒れにならないように地域づくりを進めていけたらと感じています。地域共生とは、困った時に専門家に助けてもらうだけでなく、地域でともに支え合って暮らしていきましょうということだと思っています。誰かに助けてもらうだけでなく、誰もが誰かに必要とされて、役割をもつことで、しあわせな地域ができと思っています。予算もあればありがたいですが、予算の無い中でも、つながりのできる仕組みづくりを進めていくことが大切だと思っています。
（佐川地区50歳代男性）
- ◆自主防災組織役員の高齢化（青年層役員の育成：後継者の働きかけがむずかしい）←強制は出来ない。権利・義務意識の多様化。（佐川地区70歳代男性）
- ◆若い人に積極的に行事に参加してもらって責任者になって活動していただきたい。
（佐川地区60歳代女性）
- ◆高齢化社会といっても自分のことはできるだけ自分で困った時は友人や近隣の人たちに助けてもらいたいです。いろんな施設の建設は今後の維持管理に多額の費用を必要とするので、必要性を十分に検討して取り組んで欲しい。（高齢者に特化してはいけない）なんと言っても子どもさんを育てやすい町になってほしいです。他県では、子どもの成長に現金給付でなく日常の生活費（病後児保育の充実、医療や給食の無料化、進学への補助）への補助があります。佐川町は給食費は無料ですが、こどもを育てたいと思う施策を若者や子育て中の方の意見を聞いてよい策を検討してください。
（佐川地区70歳代女性）
- ◆独居老人が増え、人口が減り活気がなくなるので人口対策が一番。しかし打つ手はない。
（佐川地区70歳代男性）

- ◆地域で障害者が生活していくための支援が少ない。障害があっても生活しやすい佐川町であってほしい！（佐川地区70歳代女性）
- ◆高齢化がまだまだ続く中、ひとりぼっちではなく人と人との交流、ふれあいができる場所づくりが必要だと思います。少子化においては、家庭を孤立させないように地域でのかかわりができるようなしくみがあればいいように思います。（佐川地区60歳代女性）
- ◆地域の高齢化が進み、若者の減少で集会をしても出席者が少ない。若い世代が居住できるような魅力有る地域にするにはどうしたらよいでしょうか？佐川町では中央、西部は福祉施設が充実しているが、駅周辺や東部にも施設等が欲しい。（佐川地区80歳代女性）
- ◆高齢になってきたけど、後継者がいない。自治会活動が弱々しくなっている。役員選出が難しく、選出されるのが嫌で総会等に参加が少なくなっている。高齢化が進み行事への参加が少なくなっている。福祉委員を交代してくれる人がいない。（佐川地区70歳代女性）
- ◆集会所が遠く、雨の時など不便。（中央集会所）。町内（町中）に集まれる場所があれば体操の参加者も増えるのではないかと思います。災害時に避難するには集会所では不安。（佐川地区70歳代女性）
- ◆前にもあったサンプラザを「デイサービス」にするのはどうか？車を何台もおける広い駐車場には「特別養護老人ホーム」をつくったらどうか？国道33号線近くにセブンイレブンを作って欲しい。高知県民、他の市町村も思っていることがあります。「TV朝日」を開局してほしい。ネットでは莫大なお金がかかるとは言いますが、「さんさんテレビ」もお金がかかっています。他の市町村市長や町長などと話し合い、県の予算で「TV朝日」を開局してください。（佐川地区40歳代男性）
- ◆Q17：忙しいを口実に参加しない。今までに私がやっている様な事を誰もやったことがなく、私が前に出るとやっかみがあるが口をつく人間は影ではいくらでも言い活動はしないが私は何とか活動をやらざるを得ない状態である。Q18：平均50歳位の親が私欲のみに走りボランティア等人のためになる（する）事を教えていない。Q19：行政、社協等ペーパーボランティアにならないよう行政、社協も身近に汗をかく様にする。行政、社協は報酬がないことは行政が許さないと等の事を平気で口にする。行政側の人間がいる限りはいくら言っても無理と思う。我々と同じように時間関係なしに夜中でも必要であれば活動する指導を行政も感じ、行動を願いたい。私は地区で22時23時に連絡があれば現場に伺います。（佐川地区70歳代男性）
- ◆年配の方で色々協力（地域）しているけど気に合う人には挨拶や言葉をかけているけど残念ながら自己主張が強いので中々挨拶言葉をしない事もあります。やはり上に立っている人は皆地域の方に積極的に前向きにしてほしいと思います。（佐川地区70歳代男性）
- ◆アパートの住人が自治会への参加が少ない。自治会の住人がだんだん歳をとって色々な自治活動に参加できなくなっている。一斉清掃の時などは、今の人数で手いっぱい今後住人が歳をとってだんだん出来なくなっております。アパートの住人の人も水を使うので溝掃除などは出てもらいたいです。自治会に入らなくてもいいのですが、地域の活動には町内在住ならば最低の事はやってほしいです。（佐川地区65歳代男性）
- ◆Q12：家庭訪問を多くして会話を楽しめる町づくり Q16：町政他の無記名の意見箱を設置する。（役場、スーパー、学校に置く） Q19：70歳まで仕事を行う方（佐川地区70歳代男性）
- ◆先ず、温かい「あいさつ運動」から。会釈でも良い。地域の親睦のために。冗談だけれど蟻だって行き交わす時、みんな会釈しているよね。ちょっと見てごらん。（佐川地区80歳代女性）
- ◆Q4：近年、高齢者をターゲットとした悪質契約勧誘や悪質押しつけ販売勧誘が増加し心配です。Q5：一部の人の活動の様な気がしている。全体としては少し心配している。高齢化が進んでいる事も原因の一つとして感じている。Q6：私の知る限りでは被害にあったこと聞いた事はありません。しかし一年半ほど前に突然私の自宅へ来てお宅の家の写真を撮った。見てみたら瓦がひどい状態になっている。すぐに直しませんか？このままにしておくで大変なことになるなどと言って断ってもせめて見積もりだけでも作らせてくれ、とかなりしつこかった。最後は当方もやや声を大きくして怒るように言ってやっと帰らせた。後で地域の業者に点検してもらったが悪くなっている箇所はどこにもなかった。（自宅は日本瓦）最近では昨年12月の雪害の樋修理の業者見積もりが業者間で余りにも違い過ぎ驚いた事でした。（相談に来た数人の知り合いの話ですが） Q7：昔から住んでいる地域の者と新しく地域に入ってきた（家の新築などで）ミニ団地の若い世代の者等との交流が少なくなっている Q8：関心があるのは一部の人達のように感じる。高齢者と若い世代の方々に多いように感じる。Q9：参加に積極的な人は一部の人と思われる。Q10：限られたせまい範囲内（例えば自治会、単位など）では、おたがいに関心をもって助け合っているか。Q11：この項目も一部の人達のように感じる。他の大勢の方々はどちらかといえばこちらと感じている。Q12：コロナ禍の影響により今は難しい。大きな行事

や活動など一足飛びにやろうとせず、まずは気の合った者同士や地区単位での親睦、飲み会でもよいと思います。（花見など）ここからがスタートと考えています。どんな小さな事でもかまいませんので、日頃の交流が最も大切だと思っています。Q16：防犯、防災対策は大切な事であるが、まずはこの活動をするための基礎づくりから始めないところまで手が届かないと思います。文教の町佐川を復活させたい。今はやや名前負けしている感がある。Q17：個人情報保護については条例の変更を検討してもらいたい。今の佐川町の制度では個別に提供をお願いしても町職員の立場では情報提供はできない事は理解しています。やむを得ないという感じですね。条例で定められているので。少ない人数ではいくら熱心に取り組んでも限度があります。やがて力尽きてしまいます。とにかくできるだけ多くの人達が関心を持ち、どんな小さな事でもかまいませんので、個人個人のできる範囲で活動する。参加していくことが大切であると痛感しています。Q19：感覚的なものですが、地域の世話役と行政とで問題のとらえ方対応、取り組み等をはじめとして、やや視点のズレを感じます。（抽象的な表現で申し訳ありません）双方の意思疎通を図っていく事が大切だと考えています。・いくつかの質問項目の中に出てきますが、「後継者の育成」が最重要課題と感じています。（佐川地区70歳代男性）

◆Q13：日常的な挨拶等、声を掛け合い、話しやすい関係作りを意識して生活する。

（佐川地区70歳代女性）

◆企業誘致などして働ける職場を増やして欲しい。（経済的安定）・若者の定住によって子ども（乳幼児含む）から高齢者までが仲良く楽しく暮らしていける地域になってほしい（子ども達が外で元気に遊んでいる様子）・みんなで支え合い、助け合って暮らしていける地域共生社会。・若い人達が夢をもって暮らしていける町になって欲しい。（佐川地区70歳代男性）

◆Q17：部落としての集会所がない為、何かあればすぐ集まるという日常が無い中、住民同士のコミュニケーション作りもできない、場所ときっかけがあれば言葉がけ、仲間意識が生まれるのではないのでしょうか？集会所のある自治会がうらやましいです。（佐川地区70歳代女性）

◆一人暮らしの方が亡くなり空き家が多くなった。・高齢のため助けてあげたくても自分のことで精一杯。・田植えの時期以外、田や畑に耕作している人が少なく、万一熱中症や具合が悪くなった時が心配・道路の白線が消えている所が多い。・猪の被害で耕作意欲がどんどんなくなっている。

（佐川地区70歳代女性）

◆子ども達が地域の人達と関わる機会が少なくなっていると感じる。地域のボランティアイベントなどで多世代で交流できる機会を子ども達と一緒に参加していきたい。（佐川地区40歳代女性）

◆Q17：地域の高齢化。コロナのため、集まる事が少なくなり、地域の集まりが弱くなっている。

（佐川地区50歳代女性）

◆・外灯の数がまだ少ないと感じる。・停電時にも点灯する外灯がほしい。左記停電補償の外灯取り付けの補助金の充実を希望。・柳瀬川の柏原から虎杖野付近の堤防が西側に比べて東側が低いので、増水時に田んぼ、道路向けに川の水が越すことが考えられるので東側の堤防のかさ上げをしてほしい。

（佐川地区60歳代男性）

◆高齢になると、足腰に疼痛があり、免許証も返納、移動手段が一番困っています。タクシーも早朝、今すぐとはつながらなくて・・・外出時間も余りなくなるのではないのでしょうか？私ももう目の前に来てることで、とっても不安で心配です。（佐川地区70歳代女性）

◆・若い家族が増える事は良いことであるが、高齢者との交流が少ない。関心が無い。Q11：子どもの時からボランティア活動に関心を持つ教育が必要。Q17：自治会の役員が百歳体操とかサロンの主旨とか必要性がわかっていない。ボランティアで世話をしてくださる人が居なくて困る。Q19：お忙しい中、色々と考えて下さって感謝しています。佐川の住民が少しでも暮らしやすくなるようお力添えください。（佐川地区90歳代女性）

◆Q18：空き家対策 Q19：高齢化にともなう身近なコミュニティ活動の調査・コロナ禍以前に行われていた行事の継続・ぐるりんバスの活性化（利用状況の現況）（佐川地区60歳代男性）

◆上郷のローソンは東からきた車が赤線のようにローソンに入るため、永野方面からきた車と衝突しそうになる。（佐川地区70歳代男性）

◆挨拶など、声かけが少なくなったように感じます。子どもから高齢者まで誰もが、挨拶や気軽に話しが出来るように、また地域の子どもの成長見守り、手助けをしあったり、高齢者や独居の方々元気で生活できる、地域になってほしいです。（佐川地区50歳代女性）

斗賀野地区の方からのご意見

- ◆この三年間、コロナの流行で用がなければお家に行ったり話をするとはひかえてきました。6月になってやっと自由になって外出の機会が増えてきました。（斗賀野地区70歳代男性）
- ◆私達の所は皆高齢になり若い人が少ないのが大変です。（斗賀野地区80歳代女性）
- ◆部落で百歳体操をするようにして欲しいです。（斗賀野地区80歳代女性）
- ◆自治会やPTAなど組織の運営方法について最近、報道や世間話でよく耳にするようになった。議員についても役職が昔は名誉職だった面があったが、今は違っていると思う。それと共に必要か不要かの議論も始まった！ちょうど過渡期なのだと思うが、自分自身、順番で初めて自治会長（40世帯）を今春からやってみて、悪い印象はなく、忙しいが良い経験をさせてもらっていると感じている。（まだ二ヶ月と少しなので、終わってみないと分からないが） 選任方法として、順番、ジャンケン、くじ引きは良いと思う。（斗賀野地区60歳代女性）
- ◆年々人が少なくなり高齢化が進んでいる。この地域では転入などで子育て世代も増えてはいるが、それでも保育園、小学校の児童数は目にみえて減っている。現在、現役で活躍されている方々も年配の方が多く5年、10年先は不安がある。地域に移って来られた方たちと触れあう場がなく、自治会内がせいぜいであるが自治会に入らない人も増えている。住民同士が触れ合える様な取り組みが出来れば良いと思う。（斗賀野地区70歳代女性）
- ◆なぜ、私の元にこのアンケートが来たか分からない。（斗賀野地区50歳代男性）
- ◆斗賀野地区は環境問題等にも特に熱心な地域だと思います。子どもたちのふるさとに対する教育も佐川町として大変熱心に取り組んでおり、子ども達の意識も変わってきている様に感じられます。地域の中で大人も子どももお互いに声を掛け合いながら生活することは、特に大事なことで感じています。人が人を大切に思うことが、安心して暮らせる第一だと思います。自分の地域が誇りに思えるように積極的に人の中にも出ていき元気で暮らして行ける健康も保ちたいものです。（斗賀野地区70歳代女性）
- ◆買い物をする場所が近くにない。（斗賀野地区50歳代女性）
- ◆自治会に参加する40代以下の人が少ない。確実かつ急速に進む少子高齢化の中で、地域の助け合いは今以上に大事になるが、今のままだと若者世代の関与は限定的だと思う。民生委員・児童委員は正直ほぼ機能していないのではないかと困っている人が助けを求める受け皿だと思うが、どれだけ連絡がきているのか。SNSやチャットでのコミュニケーションが主の時代にとって、電話や直接会う以外の方法なども検討すべき。また参加したくなるようなイベントごとを増やしたい。（斗賀野地区 男性）
- ◆若い人達は特にめんどうと思って気持ちがない余裕がない年配の方も、自分の仕事で余裕がないですねえ。むづかしいね。（年齢性別不明）
- ◆高齢者でも活用可能な電子掲示板システム（自己負担分アリで！）（斗賀野地区60歳代男性）
- ◆思っていることをうまくまとめることができませんので、ずらずらと書きます。・私の立場（児童委員）でこの佐川の子ども達の健やかな育ちのお手伝いができればいいなという思いで携わって参りました。・表面上の健全育成だけでなく、さまざまな理由で生きづらさを抱えた家族（家庭）を支えることが出来たらと思っていますが独りよがりな考えや行動で、行政の方やそれこそ要支援者に迷惑や不快な思いをさせたことが多々あるのだらうと反省しています。・「あったか」があることで地域の皆さんがすいぶん助けられていると実感しています。・社協さんも頑張っているといつも感謝しています。コロナ禍でのその存在は大きいです。・家庭、地域、行政がうまく繋がって困難にあった時、「助けて」という声が出しやすくその声をちゃんと今以上に聞く事の出来る佐川町であってほしいと願っています。☆私達民生員は守秘義務があります。どうぞ情報を共有させてください。行政が上ではなく横の繋がりができますように。（斗賀野地区60歳代女性）
- ◆各施設（特に町営住宅戸数）が佐川地区は集中している中で、他地域の活気を保っていくのは難しいと思う。（斗賀野地区50歳代女性）
- ◆斗賀野は移住希望者が多いが住宅がない。空き家活用（対策）に行政がもっと積極的に取り組んで欲しい。・高齢者同士が持っている力を出し合い、協力して暮らしていく、グループホームが斗賀野に欲しい。そんな場所が集活センター周辺にあれば最高！・自分の健康づくりや介護予防などだけでなく、人間はいくつになっても人の役に立つ、人に喜んでもらうことが励みになる。高齢者活動（対策）の中にそんな視点（内容）を取り入れる。（斗賀野地区70歳代女性）
- ◆他に思いつく事はありません。（斗賀野地区60歳代男性）
- ◆百歳体操やサロンをやっているが、新規の人の参加がない。少し若い人達は知らないのか？途中からの参加はいやなのか？10年位やっているが、減っていくばかりです。（あったかセンターが充実して

- きた証でもあるかと思いますが）今後はあったか主催のサテライト的なことになっていくのでしょうか？（斗賀野地区70歳代女性）
- ◆地域全体が高齢化で、将来深刻な問題。（後継者も別世帯を持ち、町外で生活が大半）田んぼや畑が広域に多数あるが、持ち主も高齢化で将来は、荒地や放棄地になる可能性も。町外や県外から移り住みたい場所（宅地に拡大とか）にしていくなが必要があると思う。（斗賀野地区50歳代女性）
 - ◆Q17：100歳体操の参加者激減。公民館の鍵を預かっている以上責任があり歳と共に負担を感じているが、私が辞めたら後やってくれる人はいない。（斗賀野地区80歳代女性）
 - ◆Q17：立場上（役職上）では、特に感じていないが、参加者を増やす努力をしないといけないと感じている（百歳体操）。体操の場は情報交換の場ともなっているし、安否確認もできるので。Q19：公民館が狭いので拡張できればよいと思う。自治会総会等に一家2名参加で交流できていたが、新住宅（居住者も）増えて、各家一名の参加状態です。コロナ禍の三年間は、密を避けて一家一名参加だった。けれど今後は以前の様に交流するのはとても狭い高齢化のこともあり備品（テーブル、イス）補充できればよいが狭くてテーブルが置けないのも難です。（斗賀野地区60歳代女性）
 - ◆現職は担い手がないという事で半ば無理矢理引き受けた経緯がある。元々あまり近隣の人々を（親類以外は）知らないのどの程度活動したら良いかも分からない。町外で仕事をしており出張も多い為、災害などいざという時は他の役員のお世話にならないといけない。心苦しく思っている。（斗賀野地区60歳代男性）
 - ◆Q17：活動を知っていても種々の理由で参加しない。できない方がいる。Q19：日々の業務で大変とは思いますが、議員の方々も含め具体的にどのように支援されているのか？活動は？など接する機会がない多くの住民にとっては関心が無く、声を寄せることも少ない方向にいつてる気がします。・空き家対策、買い物難民、対策なども取り組んでいただきたい。（斗賀野地区70歳代男性）
 - ◆地域にある神社等の行事（清掃等）を継承していく中で高齢者、若者の交流が生まれ、地域の交流が生まれる。こういう機会は是非続けたい。（斗賀野地区80歳代男性）
 - ◆地域のイベント参加者を増やしていきたいが、若者や後継者がまだまだ不足している。気軽に参加しやすい取り組みをしていくことで、マンパワーの確保につなげていきたい。（斗賀野地区60歳代男性）
 - ◆世話役している人の高齢化がすすみ、固定化している。若い人は仕事があり忙しい。交流しながら次へバトンタッチしていくしくみが必要だと思う。（又、若い人の所得が少なく、仕事を休んでまでのボランティアは無理だと思うが）長期的にいうと、保育所の保護者会活動や小、中のPTA活動を活発にしていこうと、交流が生まれるし、地域に必要とされる喜びも感じられるのではと思う。（斗賀野地区70歳代女性）
 - ◆Q17：農業の補助事業、集落営農を通じ協力者が増えた。特に草刈り等の作業への協力が増えた。（斗賀野地区70歳代男性）
 - ◆Q17：住民の方にも色々な状態の方もいてどこまでふみ入れて良いかが困ります。（斗賀野地区60歳代女性）
 - ◆コロナ禍により人のつながりが希薄化しています。人の繋がり、1人ひとりの幸福感と密接であるにとどまらず、地域地域を守り、次世代につなぐための思い出や夢を語り、共感を広げる場でもあります。行政などの縦割りごとの関わりではなく、地域に関わる部署間での連携も大切だと感じます。連帯感より個人主義、地域よりネット社会ではありますが、地域で楽しく、有意義なつながりづくりができるよう、応援できる仕組みが出来ればと願っています。（斗賀野地区50歳代男性）
 - ◆地域で子どもの姿を見る事が少なくなっていると同時に高齢化が進んできている事を実感しています。このままでは地域がさびれ、地域さえもなくなっていくように思い危機感さえも感じるようになってきています。農業の後継者も望めず、田畑の管理も難しくなっているのが現状です。若者が安心して生活できる、高齢者、子ども達が安心して暮らせる地域、町になってほしいと思います。佐川町は子ども、お年寄りには手厚く支援していただいていると思います。町だけでなく、県や国の対応が大事だと思います。（斗賀野地区60歳代女性）
 - ◆Q17：民生委員さんと連絡をとり合いながら、少しでもお役にたてばと思いながら活動と言えるほどではありませんがしています。十分なことはできていません。（斗賀野地区70歳代女性）
 - ◆コロナ禍で会合や親睦会が激減し、自治会員の絆が希薄になっている。機をとらえて、活性化を図ることが肝心。自治会地域の上半分の世帯が簡易水道を余儀なくされている。町内でも最大規模の施設で月1回の清掃や8月の全員参加の清掃は高齢化が進み、人手不足などで運営が危機に瀕している。町の建設課や要職の方に書面や対面にて要望してきたが一向に進んでいないのが現状です。当時の建

設課長から「簡易水道調査協議会？」を立ち上げて検討するとの話もありました。「水」は命です。早急な対応をお願いしたいです。（斗賀野地区70歳代男性）

- ◆地域の小売店などが少なくなり、高齢者や障害者にとって、買い物が大変不便（困難）になってきた。電話一本で買い物依頼ができるシステムはできないでしょうか。（斗賀野地区70歳代男性）
- ◆Q17: 集活は農業支援を中心にやっていますが、地域の事にも力を入れないと思う毎日です。Q19: 何を行うにしても先やりがないとできないと思います。リーダーは大事である。（斗賀野地区60歳代女性）
- ◆町道の草刈り等を個人としてボランティアでやってくれている方がいます。たいへんありがたいことで頭が下がります。そういう方にペットボトルのお茶1本、手ぬぐい1つでもお礼、感謝の気持ちをしてお返しする事ができたらいいなと日頃から思っています。（斗賀野地区60歳代男性）

尾川地区の方からのご意見

- ◆尾川地区デイサービスなどがあればいいのにね。（尾川地区70歳代女性）
- ◆尾川ではあったかひまわりのスタッフの方々が高齢者の方々に声がけをしてくれています。送迎もしてくれるのもっと気軽に皆さんお世話になれば良いとおもうのですが・・・。（尾川地区70歳代女性）
- ◆高齢化が急増、人口減少 少子化問題（尾川地区70歳代男性）
- ◆福祉委員をここ数年しているのですが、仕事（パート、月に5回程）佐川町内での高齢者中心のスポーツのお世話、大会等などに時間をとられ地域の活動の日ほとんど参加できない日が多い。（会の日とパート、大会等の日が重なる為）（夜間なら出席できる日があるのですが）。スポーツのお世話は、今のところ、自分しかできない状態で、休んでまで会には参加できない。（後継者がいない）。毎日、車に乗って移動しているのですが、尾川橋より上の方に歩道がないことがすごく気になります。自分が歩いていても車の音がすると立ち止まらないうえに危ない状態。運転してても歩行者に悪いと思う。通学路が確保されていない。（尾川地区70歳代女性）
- ◆地域住民の高齢化が一段と進み、自治会内の活動にも支障が出てきており、これまで班単位で行っていた軍人墓地清掃作業は自治会の全体で行わなければならなくなった。1班では人員不足し、半数になり負担が大きすぎることから、自治会全体で清掃作業をすることになった。（尾川地区年齢性別不明）
- ◆Q13からの問いは、個人名が特定できる内容となっているが？この情報をどういう形で利用するのでしょうか？ ・トップダウンによる会議、協議会、過多。ボランティアに頼りすぎ。（尾川地区50歳代男性）
- ◆閉鎖的な地域性もあって移住者促進もあまり進んでいないようですね。全体的な所得向上ができれば心に余裕が生まれスポーツ文化活動へと向かえるかもしれません。野良猫がいなくなれば、糞尿に悩むこともなくなるのですが。尾川の誇れる一つとして「川」があげられるのですが、ヨシに負けてしまっただけ残念です。美しい尾川を取り戻したいですね。（尾川地区60歳代男性）
- ◆県道が通行止めになった場合、迂回路が無いため佐川方面に行けない（車では）事です。（尾川地区70歳代男性）
- ◆空き家が増えているが、家を出ている子ども達が家の修理にお金がかかり、そのまま放置している。実家であっても自分達が住んでいないので、そこまでお金をかけられない。そういう家を何らかの対象として、不平等にならない範囲で補助できないものか・家の近くの道や谷の草を刈っていたが、高齢になりそれができなくなっている人が増えてきた。家の近くの道や谷の草を刈ったりするのに、町からの補助金があれば自治会で呼びかけ継続して行うことができると思う。少しの金額でも出ればそれを周知して春から秋ぐらいに2か月に1回ぐらい実施できそうに思う。（尾川地区60歳代男性）
- ◆地域の役員さんの連絡不足。コロナで休んでいる仕事をいまだに再開しないめんどくさがっている。（尾川地区60歳代男性）

黒岩地区の方からのご意見

- ◆少子化が進む中、黒岩中学校も佐川中学校に統合され少子化の問題を抱えていると思う。恒例の地区民運動会も若い世代が少ないこともあり、ここ4～5年開催されていないコロナの感染もあると思いますが、この事は農業にも今後影響が出てくると思います。佐川町も取り組んでいる若い者を引き寄せ定住していただくことが、今のところ、考えられる提案です。（黒岩地区70歳代男性）
- ◆Q17：高札場（連絡、お知らせ等を掲示できる場所と雨などかからず皆が見られるもの）Q13：当地の歴史、成り立ちの共有 Q19：気軽に屋根のある（あずま屋）ベンチに集まって（自販機あり）老人が、若者が話しのできる屋外施設があれば良い！トイレがあると利用しやすくて地区の人も集まったり情報交換ができる機会も増え、ただのかかし（人形）よりはずっと活気がでてくる。（黒岩地区70歳代男性）
- ◆黒中の廃校（100%復活なし）今後の利活用方策早急に考えるべき（すでに遅い）（黒岩地区70歳代男性）
- ◆若者が地元で生活できる環境がほしい。（黒岩地区60歳代男性）
- ◆自治会によっては百歳体操など健康づくりはありますが、他の自治会の公民館に出かけています。月に1回とはいいいませんが、個々の自治会に「健康づくりのための料理支援」や「お薬の飲み方の講演」など、こまめに場役が自治会の公民館に入ってほしいと思います。自治会自体が人口減少で個々の楽しみで「あったかふれあいセンター」まで行きたい人はいいいのですが、ほとんどは出向くのにあつくな人が大半です。自治会で集まりを推進できて、楽しみができる方法はありませんか？（黒岩地区60歳代女性）
- ◆休校中の中学校の活用法（黒岩地区70歳代女性）
- ◆現在休校となっている黒岩中学校をこのまま朽ち果てさせてはあまりにも勿体ない。何とか有効活用できないものかと気がかりに思っているが、なかなか名案が浮かばない。地域全体の問題として、議論を深め行政と連携して最善の道を探っていくべき。（黒岩地区70歳代男性）
- ◆下瑞応地区の急傾斜工事がいつまでたってもできない、困っています。（黒岩地区60歳代男性）
- ◆Q16：高齢化により土地の手入れができず荒れ地が急増して困っている。Q19：独居老人が増え自分から孤立化していく傾向があるので、行政の力を借りて対応していきたい。（独居老人が高齢になり、今後の対応が心配な事）（黒岩地区60歳代女性）
- ◆黒岩地区町道の道の草刈りをやってもらいたい。（黒岩地区60歳代男性）
- ◆Q17：限界集落でもあり、高齢化で住民減少は仕方ないとしても、空き家など放置された物を見ると、何とか維持し、利用できる方法はないのか？！と思います。Q19：これからの10年位の間に、おそらく地域で生活できる住民の数は30名ほどになると予想されます。生活域の道路の維持、草刈り、etc・・・悩みや不安を抱えている方も、それを話す（吐き出す）機会があれば、具体的な問題点が明らかになるし、取り組む課題も見えてくるように思えます。ただし、マンネリ化してる自治会が自主的に動くことには期待が持てません！行政・社協さんの方からアプローチして、地域で話し合うチャンネルを作っていただけるとありがたいです。取り急ぎ自治会の代表者が意識してくれる働きかけが必要だと感じます。（黒岩地区60歳代女性）
- ◆Q16:耕作放棄地問題 Q17:いきいき百歳体操の参加者が少ない。それはまだまだ仕事等で忙しい人が多い。世の中が多様化の時代である。Q19：黒岩地区は「集落活動センター」を中心に「いきいき応援隊」「あったかくろいわ」の活動はいつも感謝の気持ちでいっぱいです。時々の「あったかくろいわ」への参加は楽しみの一つです。スタッフのみなさんもいろいろ工夫して運営して下さいありがとうございます。行政・社協さんも少子高齢化の大きな課題も抱え、又予算も必要で大変でしょうが、町民の一人として将来の地域のため、残り少ない人生を有意義に送りたいと願っています。どうかよろしくお願い致します。（黒岩地区80歳代女性）
- ◆災害時での動きなどの話し合いなど、困った時ととなりの方などの和のとり方、高齢化などにより取り組み方、不安などの話す場面作り。（黒岩地区60歳代女性）

加茂地区の方からのご意見

- ◆健康の為に生涯学習の教室があればいい。（無料の）（加茂地区80歳代男性）
- ◆品の値上がり、老後に必要な金2,000万円いるなどの将来のお金の不安があり、定年退職しても地域は人が帰ってこない。活動しようとしても今までの利権などがあり、人が地域に対して関心があっても関わることでトラブルに巻き込まれないようにするために、地域に無関心になりがち。将来に対するちょっとした不安を解決できれば少しずつ人たちが地域が明るくなっていくのかと思います。この不安は皆が持っているものなので、なかなか、難しいかなとは思いますが、よかれと思ってみんながネガティブなことを言ったりしますが、そんなネガティブなことは、実は知らない方が、幸せかなと思ったりします。（加茂地区50歳代女性）
- ◆自分事として考えてくれる住民が少ない。若者や女性が多く関心を持ち、参加してくれる地域活動組織を作ることが重要です。その為のアドバイスや支援がほしい。（加茂地区60歳代男性）
- ◆春の環境整備事業の河川の草刈り、草焼き、秋の道づくり若い人が殆ど出てきません。近い将来現在のような方法で実施するのも大変だと思います。自治会の同じ班の近くの人でも合えば挨拶はしますが、それ以上の深い関わりはありません。若い人は少なくなり老人ばかりで地域に活気がなく、地域として寂れていくと思います。（加茂地区70歳代男性）
- ◆Q16：デジタル化の勉強会（スマホ、AI等その他デジタル化についての基礎勉強、最先端技術を学ぶ事が大事）Q17：人口減少で10年後には集落活動センターに来る人がいなくなる。15年後には自治体が半数になると言われている。人口増の方法は移住者増若者に住んでもらえる地域にする事が必要。加茂地区は現在新しく建設されて住んでいる人が多くあり、住みやすい地域である。働く場所は高知市方面で住みやすい環境づくりを実行して移住者増若者に結婚して住んでもらえる地域にする事が大事である。Q19：Q16の回答と同一 デジタル化の勉強会の実施（スマホ、AI等その他デジタル化についての勉強会の実施）最低限の最先端技術を学び、必要性を自覚し、自分自身で学ぶ事が必要。
（加茂地区70歳代男性）
- ◆どこも限界集落に着実に近づいており、若者が定住できる環境整備は必要と考える。（子どもの声は地域を明るくしてくれる）（加茂地区60歳代男性）
- ◆Q17：パワハラにあたる言葉があり。（加茂地区70歳代女性）
- ◆Q17:地域の人が今、何を必要としているか？今後どのようにしてもらいたいのかなどなど情報が無い。ハード面での取り組みは実行しよいてあろうが、ソフト面での活動となると、やや取り組むのが難しくなっている。（加茂地区60歳代男性）
- ◆社会環境の変化（情報化、スマホ、TVなど）（車社会：人と人とのふれ合い。声かけや雑談機会の減少など）も基調、一因となって様々な課題に波及していると思います。こうした背景を踏まえて、誰でも、いつでも、どこでも声をかけ合う（世代を超えて）集いや交流の機会をできるだけ多くなること、そしてその中で課題を抽出し、やるべき解決・改善や取り組む優先順序をたてて、みんなが共有して取り組むようにしたいと思っています。あったかふれあいセンターの職員の雇用内容の改善が進められ感謝していますが、同じ（集落センター内）職域内の支援員との格差やあったか職員の新規雇用（離職に伴う）対応が課題となっています。（加茂地区80歳代男性）

2. 改正社会福祉法（平成30年4月1日施行）

※令和2年度一部改正

《関連条文のみを抜粋》

（地域福祉の推進）

第四条 地域福祉の推進は、地域住民が相互に人格と個性を尊重し合いながら、参加し、共生する地域社会の実現を目指して行われなければならない。

2 地域住民、社会福祉を目的とする事業を経営する者及び社会福祉に関する活動を行う者（以下「地域住民等」という。）は、相互に協力し、福祉サービスを必要とする地域住民が地域社会を構成する一員として日常生活を営み、社会、経済、文化その他あらゆる分野の活動に参加する機会が確保されるように、地域福祉の推進に努めなければならない。

3 地域住民等は、地域福祉の推進に当たっては、福祉サービスを必要とする地域住民及びその世帯が抱える福祉、介護、介護予防（要介護状態若しくは要支援状態となることの予防又は要介護状態若しくは要支援状態の軽減若しくは悪化の防止をいう。）、保健医療、住まい、就労及び教育に関する課題、福祉サービスを必要とする地域住民の地域社会からの孤立その他の福祉サービスを必要とする地域住民が日常生活を営み、あらゆる分野の活動に参加する機会が確保される上での各般の課題（以下「地域生活課題」という。）を把握し、地域生活課題の解決に資する支援を行う関係機関（以下「支援関係機関」という。）との連携等によりその解決を図るよう特に留意するものとする。

（福祉サービスの提供の原則）

第五条 社会福祉を目的とする事業を経営する者は、その提供する多様な福祉サービスについて、利用者の意向を十分に尊重し、地域福祉の推進に係る取組を行う他の地域住民等との連携を図り、かつ、保健医療サービスその他の関連するサービスとの有機的な連携を図るよう創意工夫を行いつつ、これを総合的に提供することができるようにその事業の実施に努めなければならない。

（福祉サービスの提供体制の確保等に関する国及び地方公共団体の責務）

第六条 国及び地方公共団体は、社会福祉を目的とする事業を経営する者と協力して、社会福祉を目的とする事業の広範かつ計画的な実施が図られるよう、福祉サービスを提供する体制の確保に関する施策、福祉サービスの適切な利用の推進に関する施策その他の必要な各般の措置を講じなければならない。

2 国及び地方公共団体は、地域生活課題の解決に資する支援が包括的に提供される体制の整備その他地域福祉の推進のために必要な各般の措置を講ずるよう努めるとともに、当該措置の推進に当たっては、保健医療、労働、教育、住まい及び地域再生に関する施策その他の関連施策との連携に配慮するよう努めなければならない。

3 国及び都道府県は、市町村（特別区を含む。以下同じ。）において第百六条の四第二項に規定する重層的支援体制整備事業その他地域生活課題の解決に資する支援が包括的に提供される体制の整備が適正かつ円滑に行われるよう、必要な助言、情報の提供その他の援助を行わなければならない。

（包括的な支援体制の整備）

第百六条の三 市町村は、次条第二項に規定する重層的支援体制整備事業をはじめとする地域の実情に応じた次に掲げる施策の積極的な実施その他の各般の措置を通じ、地域住民等及び支援関係機関による、地域福祉の推進のための相互の協力が円滑に行われ、地域生活課題の解決に資する支援が包括的に提供される体制を整備するよう努めるものとする。

一 地域福祉に関する活動への地域住民の参加を促す活動を行う者に対する支援、地域住民等が相互に交流を図ることができる拠点の整備、地域住民等に対する研修の実施その他の地域住民等が地域福祉を推進するために必要な環境の整備に関する施策

二 地域住民等が自ら他の地域住民が抱える地域生活課題に関する相談に応じ、必要な情報の提供及び助言を行い、必要に応じて、支援関係機関に対し、協力を求めることができる体制の整備に関する施策

- 三 生活困窮者自立支援法第三条第二項に規定する生活困窮者自立相談支援事業を行う者その他の支援関係機関が、地域生活課題を解決するために、相互の有機的な連携の下、その解決に資する支援を一体的かつ計画的に行う体制の整備に関する施策
- 2 厚生労働大臣は、次条第二項に規定する重層的支援体制整備事業をはじめとする前項各号に掲げる施策に関して、その適切かつ有効な実施を図るため必要な指針を公表するものとする。

（市町村地域福祉計画）

- 第百七条 市町村は、地域福祉の推進に関する事項として次に掲げる事項を一体的に定める計画（以下「市町村地域福祉計画」という。）を策定するよう努めるものとする。
- 一 地域における高齢者の福祉、障害者の福祉、児童の福祉その他の福祉に関し、共通して取り組むべき事項
 - 二 地域における福祉サービスの適切な利用の推進に関する事項
 - 三 地域における社会福祉を目的とする事業の健全な発達に関する事項
 - 四 地域福祉に関する活動への住民の参加の促進に関する事項
 - 五 地域生活課題の解決に資する支援が包括的に提供される体制の整備に関する事項
- 2 市町村は、市町村地域福祉計画を策定し、又は変更しようとするときは、あらかじめ、地域住民等の意見を反映させるよう努めるとともに、その内容を公表するよう努めるものとする。
- 3 市町村は、定期的に、その策定した市町村地域福祉計画について、調査、分析及び評価を行うよう努めるとともに、必要があると認めるときは、当該市町村地域福祉計画を変更するものとする。

（市町村社会福祉協議会及び地区社会福祉協議会）

- 第百九条 市町村社会福祉協議会は、一又は同一都道府県内の二以上の市町村の区域内において次に掲げる事業を行うことにより地域福祉の推進を図ることを目的とする団体であつて、その区域内における社会福祉を目的とする事業を経営する者及び社会福祉に関する活動を行う者が参加し、かつ、指定都市にあつてはその区域内における地区社会福祉協議会の過半数及び社会福祉事業又は更生保護事業を経営する者の過半数が、指定都市以外の市及び町村にあつてはその区域内における社会福祉事業又は更生保護事業を経営する者の過半数が参加するものとする。
- 一 社会福祉を目的とする事業の企画及び実施
 - 二 社会福祉に関する活動への住民の参加のための援助
 - 三 社会福祉を目的とする事業に関する調査、普及、宣伝、連絡、調整及び助成
 - 四 前三号に掲げる事業のほか、社会福祉を目的とする事業の健全な発達を図るために必要な事業
- 2 地区社会福祉協議会は、一又は二以上の区（地方自治法第二百五十二条の二十に規定する区及び同法第二百五十二条の二十の二に規定する総合区をいう。）の区域内において前項各号に掲げる事業を行うことにより地域福祉の推進を図ることを目的とする団体であつて、その区域内における社会福祉を目的とする事業を経営する者及び社会福祉に関する活動を行う者が参加し、かつ、その区域内において社会福祉事業又は更生保護事業を経営する者の過半数が参加するものとする。
- 3 市町村社会福祉協議会のうち、指定都市の区域を単位とするものは、第一項各号に掲げる事業のほか、その区域内における地区社会福祉協議会の相互の連絡及び事業の調整の事業を行うものとする。
- 4 市町村社会福祉協議会及び地区社会福祉協議会は、広域的に事業を実施することにより効果的な運営が見込まれる場合には、その区域を越えて第一項各号に掲げる事業を実施することができる。
- 5 関係行政庁の職員は、市町村社会福祉協議会及び地区社会福祉協議会の役員となることができる。ただし、役員の総数の五分の一を超えてはならない。
- 6 市町村社会福祉協議会及び地区社会福祉協議会は、社会福祉を目的とする事業を経営する者又は社会福祉に関する活動を行う者から参加の申出があつたときは、正当な理由がないのにこれを拒んではならない。

3. 佐川町地域福祉アクションプラン策定委員会設置要綱

（設置）

第1条 佐川町における地域福祉を総合的に推進することを目的として、社会福祉法（昭和26年法律第45号）に基づき佐川町地域福祉アクションプラン（以下「計画」という。）を策定するに当たり、地域住民、地域組織、関係団体等の意見を反映させるため、佐川町地域福祉アクションプラン策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（所掌事項）

第2条 委員会は、計画策定に関する事項について、調査審議し、その結果を町長に報告するものとする。

（組織）

第3条 委員会は、地域福祉に関係する者のうちから、町長が委嘱又は任命する委員30名以内をもって組織する。

（任期）

第4条 委員の任期は、委嘱又は任命の日から当該年度の末日までとする。

（委員長及び副委員長）

第5条 委員会に、委員長及び副委員長各1名を置く。

2 委員長及び副委員長は、委員の互選により選出する。

3 委員長は、委員会を代表し会務を総理する。

4 副委員長は、委員長を補佐し委員長に事故があるときはその職務を代理する。

（会議）

第6条 委員会の会議は、必要に応じ委員長が招集し、委員長が会議の議長を務める。

2 委員長が必要と認めるときは、委員会に所掌事項に係る関係者の出席を求めることができる。

（作業部会）

第7条 計画原案策定に至るまでの素案の立案及び調査検討を行うため、委員会の下部組織として作業部会を置くことができる。

（庶務体制）

第8条 委員会及び作業部会に係る庶務は、佐川町健康福祉課並びに佐川町社会福祉協議会の共管とする。

（委任）

第9条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営について必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この告示は、公布の日から施行し、平成29年4月1日から適用する。

4. 策定委員会・アドバイザー・事務局名簿

地域福祉アクションプラン策定委員会

	氏 名	所属・役職等
1	西森 勝仁	自治会長会会長 佐川 よさこいクラブ連合会会長
2	田村 公孝	自治会長会会長 斗賀野
3	河添 周二	自治会長会会長 尾川
4	谷脇 正純	自治会長会会長 黒岩
5	片岡 幸雄	自治会長会副会長 加茂
6	堀見 昇出	みんなで福祉のまちづくり会 委員長
7	吉村 典宏	みんなで福祉のまちづくり会 佐川 佐川町自主防災組織連絡協議会会長
8	坂本 玲子	みんなで福祉のまちづくり会 斗賀野
9	澤村 重隆	みんなで福祉のまちづくり会 尾川
10	永田 滋	みんなで福祉のまちづくり会 黒岩
11	大山 端	みんなで福祉のまちづくり会 加茂
12	下川 芳樹	みんなで福祉のまちづくり会 加茂 高吾保護区保護司会 会長
13	秋澤 利一	佐川町身体障害者協議会 会長
14	長山 朋幸	佐川町手をつなぐ親の会会長
15	嶋村 里美	佐川町食生活改善推進協議会会長
16	藤本 雅生	佐川町消防団長
17	西森 啓助	佐川町民生児童委員協議会会長
18	藤田 早苗	佐川町保育協議会会長
19	安田 節子	わくわくクラブ代表
20	尾崎 國弘	佐川町介護保険運営協議会会長
21	白石 圭一	佐川町地域自立支援協議会会長

(順不同)

アドバイザー

	氏 名	所属・役職等
1	田中 きよむ	高知県立大学社会福祉学部 教授
2	濱田 純	高知県中央西福祉保健所 地域支援室長
3	仙頭 正輝	高知県社会福祉協議会 地域・生活支援課長
4	大塚 理世	高知県社会福祉協議会 地域・生活支援課 主任

事務局（社会福祉協議会・健康福祉課）

	氏 名	所属・役職等
1	田村 佳久	社会福祉協議会 事務局長
2	土居 妃佐	社会福祉協議会 総務主任
3	濱田 皓美	社会福祉協議会 ボランティアセンター主任
4	田中 ゆかり	社会福祉協議会 ファミリーサポートセンターアドバイザー
5	田村 里桜	社会福祉協議会 あんしん生活支援センター コミュニティソーシャルワーカー
6	正岡 幹子	社会福祉協議会 あんしん生活支援センター 地域支え合い推進員（生活支援コーディネーター）
7	安井 紗弓	社会福祉協議会 あんしん生活支援センター アウトリーチ支援員
8	岡崎 省治	健康福祉課長
9	横畠 由起	健康福祉課長補佐
10	上田 くみ	健康福祉課長補佐
11	森 仁	健康福祉課長補佐
12	篠原 ゆみ	健康福祉課 子育て支援係長
13	中越 佐知	健康福祉課 子どもサポート係長
14	高瀬 昭子	健康福祉課 障害支援係長
15	下八川加奈	健康福祉課 地域包括支援センター係長
16	麻田 典宏	健康福祉課 介護保険係長
17	山本 順子	健康福祉課 地域福祉係長
18	佐野 雄一	健康福祉課 地域福祉係

5. 用語集

用語	説明
あったかふれあいセンター	子どもから高齢者まで年齢や障害の有無にかかわらず、誰でも気軽に集い、『集い』『集い送迎』『訪問』『生活支援』『学び』『つなぎ』等のサービスを受けることができる【高知型地域共生社会】の拠点です。
介護予防	要介護状態若しくは要支援状態となることの予防又は要介護状態若しくは要支援状態の軽減若しくは悪化の防止をいう。
協議体	市町村が主体となり、各地域におけるコーディネーターと生活支援・介護予防サービスの提供主体等が参画し、定期的な情報共有及び連携強化の場として、中核となるネットワーク。
権利擁護	権利擁護とは、自己の権利を表明することが困難な寝たきりの高齢者や、認知症の高齢者、障害者の人権擁護やニーズ表明を支援し代弁すること。近年は、認知高齢者の増加や、家族関係の希薄化などの社会背景を受け、成年後見制度や日常生活自立支援事業などの利用者が増加している。
災害時要配慮者	災害時に特に配慮が必要な方で、高齢者・障害者・乳幼児・妊産婦・傷病者・内部障害者・難病患者等を想定している。一般的な避難所では生活に支障が想定されるため、福祉避難所での受け入れなど何らかの特別な配慮をする必要がある。
災害ボランティアセンター	災害発生時のボランティア活動を効率よく推進するための組織。
集落活動センター	地域住民が主体となって、地域外からの人材も受け入れながら、旧小学校や集会所などを拠点に、それぞれの地域の課題やニーズに応じて、生活、福祉、産業、防災といった様々な活動に総合的に取り組む仕組み。
生活困窮者自立支援制度	生活困窮者自立支援法（平成 25 年法律第 105 号）に基づき、生活保護に至っていない生活困窮者に対する「第2のセーフティネット」を全国的に拡充し、包括的な支援体系を創設するもの。 (1)生活困窮者の自立と尊厳の確保(2)生活困窮者支援を通じた地域づくりを目標としている。
生活支援コーディネーター （地域支え合い推進員）	高齢者の生活支援・介護予防サービスの体制整備を推進していくことを目的とし、地域において、生活支援・介護予防サービスの提供体制の構築に向けたコーディネート機能（主に資源開発やネットワーク構築の機能）を果たす者。
成年後見制度	認知症、知的障害、精神障害などにより物事を判断する能力が十分でない方について、本人の権利を守る援助者（「成年後見人」等）を選ぶことで、本人を法律的に支援する制度。

用語	説明
地域共生社会	世代や分野を超えてつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会のこと。
脱炭素社会	地球温暖化・気候変動の原因となる温室効果ガスのうち、最も排出量の多い二酸化炭素(CO2)について、実質的な排出量ゼロを達成している社会のこと。
8050問題	子が親を介護するのとは逆に、80代の親が引きこもっている50代の子どもの生活を支えている社会問題。
避難行動要支援者	佐川町地域防災計画における定義 災害時要配慮者のうち、在宅生活をしている方で、災害時に自力での避難に不安があり、地域で避難支援等関係者の支援を必要とする者であって、下記のいずれかに該当する方をいう。 ①身体障害者手帳第1種、総合級1～3級の交付を受けている方 ②療育手帳の交付を受けている方 ③精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方 ④75歳以上のみで構成される世帯の高齢者 ⑤介護保険法による要介護1～5までの認定を受けている方 ⑥障害者総合支援法の適用を受けている難病の方
避難支援等関係者	佐川町自主防災組織、佐川町消防団、佐川町民生児童委員、高吾北消防本部、佐川警察署、佐川町社会福祉協議会
BBS会	非行少年等さまざまな立場の少年に「兄」や「姉」のような立場で接することで、少年の立ち直りや自立を支援するとともに、非行防止活動を行う青年ボランティア団体。
フードバンク	安全に食べられるのに包装の破損や過剰在庫などの理由で、流通に出すことができない食品を、企業などから寄贈していただき、必要としている施設や団体、困窮世帯に無償で提供する活動。
福祉避難所	高齢者や障害者など一般の避難所生活では支障をきたす要配慮者に対して、特別の配慮がなされた避難所のこと。
ヤングケアラー	家族にケアを要する人がいる場合に、大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを行っている、18歳未満の子どものこと



第4次佐川町地域福祉アクションプラン

発行日：令和6年3月

発行者：佐川町健康福祉課

〒789-1202 高知県高岡郡佐川町乙 2310

TEL:0889-22-7716 FAX:0889-22-7721

社会福祉法人 佐川町社会福祉協議会

〒789-1202 高知県高岡郡佐川町乙 2310

TEL:0889-22-1510 FAX:0889-22-5621